

趣味乃地理
歐羅巴
前編



17-412



羅

巴

前

編



序

命じて『趣味の地理』といふ、茲に人を欺かざるなり。著者が十年倦むことなき中學教育に於ける懇切なる経験と、其の史學地理學に對する深厚なる同情とは、此の一著をして、筆を通俗の埒内に止めながら、無味平凡に流れしめず、且つ實用に適せしめ、且つ既讀に適せしめたり。百聞一見に如かずといふ謬ありと雖も、かくの如き書をよく味ひ讀むの結果は、生中汽車に運ばれて千里萬里を電光と駛走し、彼の活動寫眞を見るが如くに、世界を瞥見して歸るの淺薄なるに優るあるや明か

なり。御伽譚以上凡人本位の小説以外に、少年男女の
贖物を求むる父母は、先づ安んじて此の良書を購うて
可也。

明治四十一年十月

坪内逍遙

序

また、日本人には鎖國的な所がある。此の頃朝鮮
が大分我が國民の注目點となつて來たが、國民一般は
まだ海外の各國に就いて思想が幼稚だ。固より歐米
の國民でも鎖國的な傾向はないが、我が國の
家庭や社會に比べると、大きな感情を養成する機會と
便宜とが遙かに多い。例へば、少年子女が郵便切手を
蒐めるにも、父母が之に外國に關する知識を有たせる、
新聞の記事を讀むにも、海外の事件を見のがさない、
殊に宣教師が遠く世界の各地に散在し、往來する事は

其の國民に世界的思想を養成し、普及するに與つて力あるのである。

我が國も五十年來、歐米諸國と交際してをるが、其の關係が單に國家と國家との商業的交際だから、どうも國民一般の中に温かな所がない、個人個人に世界的思想が起りにくい。しかし今日のやうな時勢には、一日もはやく、この狹隘な鎖國的傾向を一掃しなければならぬ。

我が國では、近頃人格人格といふのであるが、人格の養成には、度量の大きいといふ事と、慮りの遠いといふ事

が大切である。スペンサーも「人は空間と時間に應當すればする程、人格が大きくなる」といつてをる。時間關係は歴史を繙いて之を得る事が出来るが、空間關係は地理を學んで之を得るのである。だから世界の地理を繙く事は、人格の養成からいつても、實に怠るべからざる事である。

私は此の意味から、我が國民に地理的思想の養成と普及とを甚だ必要と感じてをる。さればかゝる必要に應じ、かゝる時勢に應じて、此の書を公にせられたる著者の目的を喜び、且つ本書をその手頃な世界的の讀物

六
として、我が國家庭の食卓上に缺く可らざる好著と信じて推奨したい。

明治四十一年十月二十八日

新渡戸 稻造

書 簡

四月十四日出の書面及び貴著の一部なる「北歐半島本日確かに落手拜讀致候。小生は之に對し、左の一書を貴下に呈し申候。

御書面によれば、今回貴下は「趣味の地理歐羅巴」てふ御著述をなし給ふ由に候。こは日頃の御目的の或ものをすてに大成せられしこと、存じ、貴下の親友の一人として御祝賀申上候。尙ほ引續きて「趣味の地理亞細亞」など御起草あり度候。

申すまでも無之候得共、つとに貴下は自然科学を學び給ひしにあきたらず、尙人文科學、殊に純文學の界にまでも及ばれ、現に早稻田大學にて、坪内島村二氏の講場にさへ出席せらるゝと聞く。世人は貴下を評して、何處に專問の存在するかを疑ひ居候得共、小生は寧ろ此の點が貴下

の得意とする所と存じ、將來を楽しく相待居候。貴下の目的は地理を基礎中心とし、之に人類歴史文學美術、其の他の文化、人事を調和せんと欲し候。これが爲め貴下のこれまで——否、現今——御苦心御勉強の程御察し申候。若し夫れこれが貴下によつて調和せらるゝの際は、學問上有益なるのみならず、地理學をして、趣味あるものとし、世人を喜ばしむる事と信じ申候。

小生も在京のみぎり、人類心理學上、人類民族が土地といかに關係し、如何程まで其の感應を受くるものにやなど考へ居り候ひしが、當時は當方面の研究の頗るいそがしまゝ、理論はそれなりになり居候。しかし早晩これにも着手なし度心組に候。要するにこれは、貴下の見方と同じにて、畢竟貴下は地理の方より之を見、小生は民族の方より地理を見るものに候。

「北歐半島」拜讀致候。こはまさしく貴下の主張せらるゝ地文調和せしものにて、面白き感を感じ起し申候。例へば最北端を形容したる句に「……實に寂寥たる光景である。鬼神オーデンの石碑は人もなく家もなきこの雄大なる自然を背景として、北歐神話の象徴をなしてをる。天地の物すべて静寂時々崖下から傳はる船長の聲。幾千の海鷗は之に驚かされてか、海のあなたをなだに飛び散る有様……」と有之候が、これにて、すでにスカンデナヴィア、さては民族神話なども解せられ申候。こゝあたりの筆つきは、小生の最も好む所に候。こはたゞ一つを摘み出したるものに候得共、同文中讀むべき文字は、尙ほ夥しく有之候。要するにこの「北歐半島」は、少なくとも貴下の心中の或物をうつし居候。小生はルネッサンスとイタリア半島、其他ストラヴェケルト・チートンなど、諸民族と其の土地など、羨しき筆にて物せられん日を待ち居候。

小生は三月愚妻小供を伴ひ、シラムレンを渡り、興安嶺の中に入り、それより黒龍江省附近にまで達し、本月十一日歸赤致候。尚ほ當地を中心とし、シラムレンの南岸を研究致居候。かの興安嶺も、すでに我が國婦女赤ン坊の往來いたす處と相成候。赤ン坊が蒙古旅行の先導致候も、亦奇なる事と存候。小生及愚妻小供共無事、御休神被下度候。場合によれば、これまでの結果整理いたすため、本年米歸國するやも相知れ不申候。

愚妻よりも宜しく申候。先づは右まで。

赤嶽にて

鳥居龍藏

小田内雅兄

例言

一 従來地理の智識及び趣味が、我が國の家庭及び學生間に播めて乏しきは、著者が十年中學教育に従事して深く感じつゝある所なり。然も我が家庭や學生や、今後愈世界的智識を要求し來らるべきは、時勢の必然なるを思ふにつけ、此の弊を救ふの一助をだにと冀へること久し。惟ふに此の弊を救はんは、従來の乾燥なる教科書専門書以外、趣味饒かなる讀物を、家庭及び學生に提供するに若くはなし。歐米諸國殊に米國の如きは、此の道の羨ましままでに開けたるに、我が國に至りては、殆んど此の種の書物あるなし。是れ著者が自から描らずして、本書を著はすに至りし所以なり。

一 編述の體裁が、純然たる地理書と異なるは、以上の目的を達せんが爲な

り。内容は成るべく精を摘み要を説き、宗と趣味の多からん事を勉め、文章も口語體を用ひたり。幸に此の智識趣味普及の一助となり、又小中學教育に於ける此の科教授の参考ともなるを得ば、著者の本懐なり。歐羅巴を先にしたるは、現今世界の趨勢上、こゝに屬する諸國が最も主要なる地歩を占むればなり。

一、本書は、主にカーペンター氏、ローロツパ、ローロツパ、ローロツパ、ローロツパ、及びパーソンロミー氏、商業地圖に依據せり。されど記述の順序等に至りては、我が國の讀者に適するやう注意安排せり。尙我が國の學者文士實業家等の觀光記類に資する所なきにあらざれども、煩を避けて一々之を舉げず。或は著者淺學の致す所、誤脱あらば、謹んで博雅の教を請ふ。

一、特に此の書の讀者に望む所は、終始挿畫及挿圖を利用し、之を本文と

對照せられん事なり。適切にして趣味ある繪畫及び圖表の蒐集は、著者の最も苦心したる所なればなり。

一、繪畫及び圖表は、之を内外の書に探り、人に求め、且之を補ふに繪はがきを以てしたり。就中、先年歐洲に留學せられたる大隈信常氏、島村瀧太郎氏、樋口勸次郎氏より、斬新なる材料を得たり。殊に處々に挿入せる泰西名畫は、島村氏の選擇を累はせり。三色版其の他の畫は、すべて友人佐藤繁村氏の丹精に成り、修辭に就いては、友人宮坂風葦氏に負ふ所多し。謹んで諸氏の厚意を感謝す。

明治四十一年十二月

著者 磯

趣味の地理 歐羅巴前編

目次

一 総説
 二 自然と人
 三 國勢の概観
 四 歐羅巴との關係
 五 イギリス
 六 イングランド
 七 ロンドン
 八 ロンドンの近郊
 九 中學と大學
 一〇 イギリス海峡の船舶
 一一 カーヤフ
 一二 工業地方
 一三 マンチエスターとリヴァプール

一四 海峽の風光
 一五 北英の山水と湖沼地力
 一六 スコットランド
 一七 北スコットランド
 一八 トロサツタ地方
 一九 南スコットランド
 二〇 グラスゴー
 二一 エディンバラ
 二二 アイルランド
 二三 銅と焦炭
 二四 アフリンとベルファスト
 二五 巨人の數石道
 二六 南アイルランドの古城

吉田 松陰

余曰、陸地而無人、雖人而無事、故欲論人事、
 先觀於地理、重輔然之、至是益讀地誌、旬日
 得其要領、其展指坤輿大勢、頗可聽也、余乃
 曰、已得其大旨及其細云々、(金子重輔行狀)

挿圖及挿畫

總說

- 一 ヨーロッパ邦制圖(第一圖)——
- 二 ローマ帝國版圖の發展及現代諸國位置略表——
- 三 ヨーロッパ人種圖(第二圖)——
- 四 ヨーロッパ人口分布圖(第三圖)——
- 五 ヨーロッパ諸國勢力比較一覽——
- 六 主要國勢統計圖表——
- イギリス
- イギリス國圖(第四圖)——
- 七 主要輸出入品類別圖——
- 八 都會及田舎人口比較圖——
- 九 本國及主要殖民地商輸比較圖——
- 一〇 主要輸出入國別比較圖——
- 一一 ロンドン(第五圖)——
- 一二 ロンドン市形展開圖——
- 一三 世界中牛及牛肉輸入額國別比較圖——
- 一四 常盤學校分布圖——

- 一 ヴェーデルスの炭田圖——
- 二 炭田分布及工業地力圖——
- 三 毛輸入額國別比較圖——
- 四 棉花輸入額國別比較圖——
- 五 世界紡績織物輸出額別比較圖——
- 六 スコットランド地形略圖——
- 七 世界製糖輸出額比較圖——
- 八 ユーラムスの上流(第六圖)——
- 九 現皇帝の一族——
- 一〇 ロンドン橋——
- 一一 ロンドン塔——
- 一二 ヴェストミニスター寺——
- 一三 下院の内部——
- 一四 ロンドンローの散歩——
- 一五 動物園の鳥籠り——

- 一 天使の頭(名畫)——
- 二 聖ひつじ、ある羊、メノア(名畫)——
- 三 ヨウヴァール、スツキート停取場——
- 四 ヲキーキーロー橋とテムズ左岸——
- 五 ロンドン人日曜の遊園——
- 六 先皇精アルバート公の墳墓——
- 七 フラッドストーン——
- 八 コーパス、クリスタ、カレツナ——
- 九 ニュートン——
- 一〇 テームス上流の國際渡船——
- 一一 ウェキントン——
- 一二 イーストキーンの海濱——
- 一三 テルソンの親死(名畫)——
- 一四 テニソン——
- 一五 アニソンの家——
- 一六 マーフラワーの船出——
- 一七 ヘルメストンの舊い田舎家——
- 一八 ニンヤストンの煙囪——
- 一九 マイン左岸のニューカッスル——

- 一 イマンナムスロー運河——
- 二 ショクスビーとその生徒——
- 三 ストウツンキー、下、キム、ン、マ、マ、ン——
- 四 ケニルウァース城——
- 五 ヴァーリンウァースとウィンドミア新——
- 六 ・ロホカトラン——
- 七 ヴムニュー山とワタレー湖(第七圖)——
- 八 マン、ネヴィスの月夜——
- 九 エケンバラ城——
- 一〇 高地人——
- 一一 ホーレルッド宮——
- 一二 フォーナム橋——
- 一三 スコット及其の邸宅——
- 一四 龍穴窟び——
- 一五 巨人の敷石道——
- 一六 ソワーニー城——
- 一七 鳥鈴塔はり——
- 一八 アイルランド風景——
- 一九 スカンナナグヴィア——

ノルウェー及スウェーデン開闢圖(第六圖)	一六
兩國全年開闢圖	一六
兩國夏冬の開闢差額圖	一七
三國産地城比較圖	一八
三國主要輸出品比較圖	一九
七姉妹編	二〇
バルティック航海(三色版)	二〇
ムンデル	二一
グドヴァンゲン	二二
スウェーデンの冬	二三
ラッパ人の家庭	二四
ノルウェー	二五
ヘルゲン港圖	二六
世界魚類産額圖別比較圖	二七
ナレゲル深窟	二八
オスカゲール	二九
八百年前の木造寺院	三〇

農夫の草刈	三二
バルゲン港	三三
トロンドロム大寺院	三四
レゲレゲン	三五
ノルウェーの漁舟	三六
スウェーデン	三七
世界材木輸出額圖別比較圖	三八
首府附近湖沼及河川圖	三八
グム河開闢圖	三九
アンゲルマン河申流の湖水	四〇
冬季材木の運搬	四一
グム河中の船渠	四二
トロルハンマン瀑布	四三
カレマー城	四四
デンマーク	四五
アンマーク國圖(第七圖)	四五
世界産産物輸出額別比較圖	四六

フレリックスブルグ城	四七
ルニツカストン	四八
コハンハーゲン埠頭	四九
コペンハーゲンとママル	五〇
アンデルセン	五一
農家	五二
レスキルテ大寺院	五三
レスキルテの古寺門	五四
アイダーゲン	五五
オランダ	五六
オランダ及スルヤ一附圖圖(第八圖)	五六
主要輸出品比較圖	五七
ノイデル海防の隘路	五八
ノイデル海防のヘルナル	五九
ウエスト、カッセル堤防	六〇
厄河内の水防	六一
水國の風物	六二
風車	六三

開會場草堂	六四
スケツニンゲン海水浴場	六五
船と船長	六六
解凍機(名産)	六七
ヘルネギー	六八
主要輸出品比較圖	六九
職工の住地	七〇
裁判所	七一
ワオーネーロー紙金庫	七二
古風な橋	七三
アントワープ	七四
眞實の花袋(名産)	七五
ルーバンス彫像	七六
犬と乳車	七七
フランス	七八
フランス國圖(第九圖)	七八
ハイー圖(第十圖)	七九
オランダ國圖(第十一圖)	八〇

主要輸出品比較圖 三〇

世界葡萄酒産額別比較圖 三二

世界生糸輸入額別比較圖 三三

~~~~~

パティヤロール社 ..... 三〇

ラアルン夫人と其の女(名畫) ..... 三〇

泉の橋の橋(名畫) ..... 三〇

パリ市 ..... 三〇

エマフール塔 ..... 三〇

ナボレオン墳墓 ..... 三〇

凱旋門 ..... 三〇

珈琲店 ..... 三〇

オハラの階段 ..... 三〇

トゥール、サン、ロヤック塔 ..... 三〇

ユーゴ ..... 三〇

ノートルダム寺 ..... 三〇

古木風 ..... 三〇

共和祭 ..... 三〇

フランス婦人 ..... 三六

ブローヤニー公園 ..... 三六

ベルサイユのグランソー ..... 三六

ブローヤニー ..... 三六

ブローヤニーの小學校 ..... 三六

ホルダー ..... 三六

葡萄とリ ..... 三六

ミアイー列木會 ..... 三六

地中海岸のセント・カローリ町(三色版) ..... 三六

カルカソンの古城 ..... 三六

リオン市 ..... 三六

モンブラン湖とロヤンと博士 ..... 三六

メルド、グリスと登山者 ..... 三六

農民屋外の食事 ..... 三六

少の鐘の音(名畫) ..... 三六

~~~~~

スウイイス 三六

スウイイス國(第十二圖) 三六

首都の分布圖 三六

水河野圖 三六

~~~~~

メリス、ホサレ ..... 三六

マッゲルホルンとツィスノ河(三色版) ..... 三六

アルプス登山案内 ..... 三六

ソライントルン山嶽 ..... 三六

僧侶と僧尼 ..... 三六

メルテール犬 ..... 三六

チンダル ..... 三六

牧羊の挨拶 ..... 三六

ロワース山とルツェルン ..... 三六

獅子像 ..... 三六

ロワース山登りの旗車 ..... 三六

ルツェルン湖 ..... 三六

クリロトストック山とルツェルン湖 ..... 三六

ブリスケンストック山とアムセム湖 ..... 三六

テル堂 ..... 三六

ブリスケン、ストック山とソリユールン ..... 三六

ウイリアム、テル記念碑 ..... 三六

農船 ..... 三六

~~~~~

ライオンパンハ 三六

セネツ 三六

ピネツとシロン城 三六

ペンタリン 三六



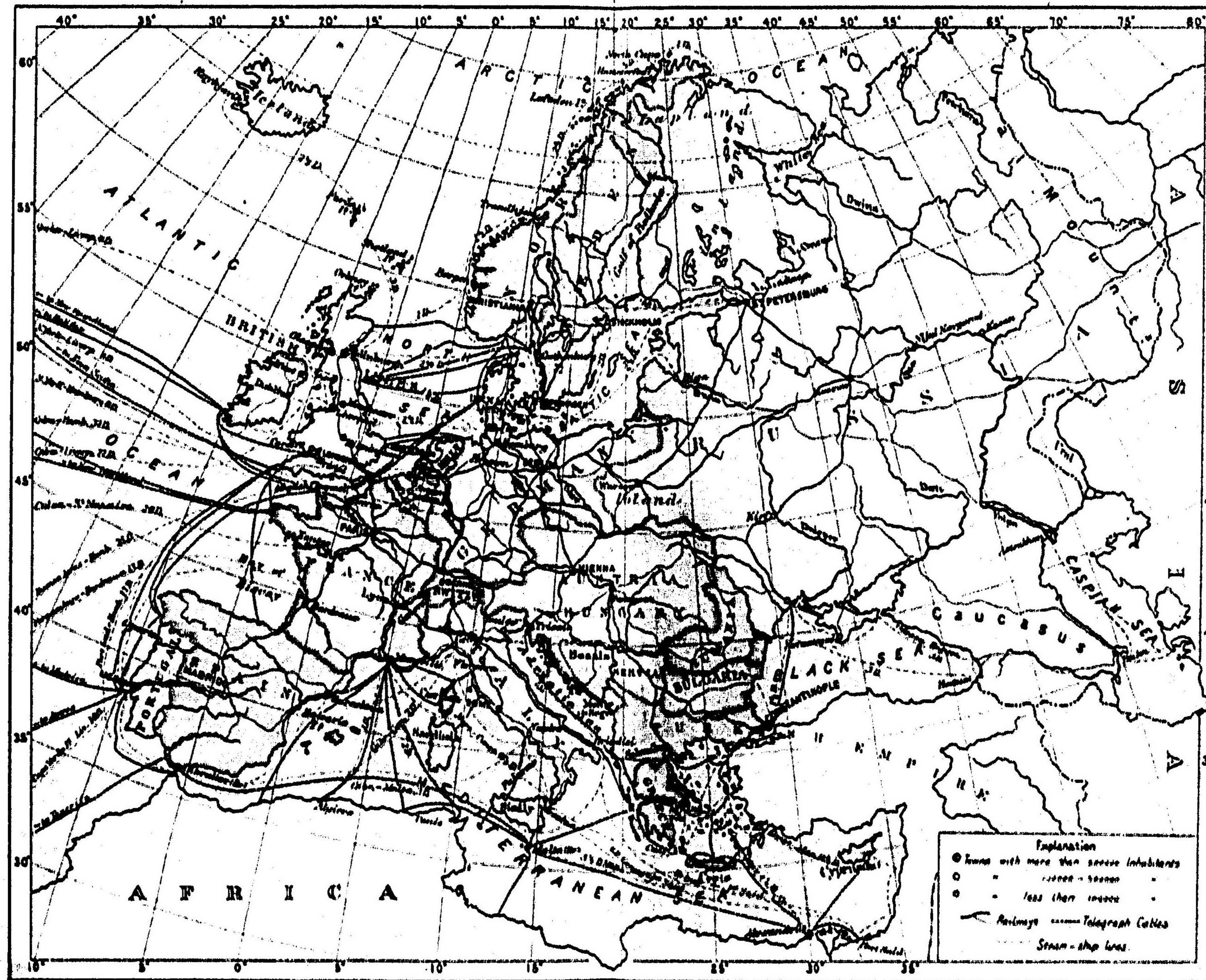


五條ノ御誓文

明治元年三月十四日

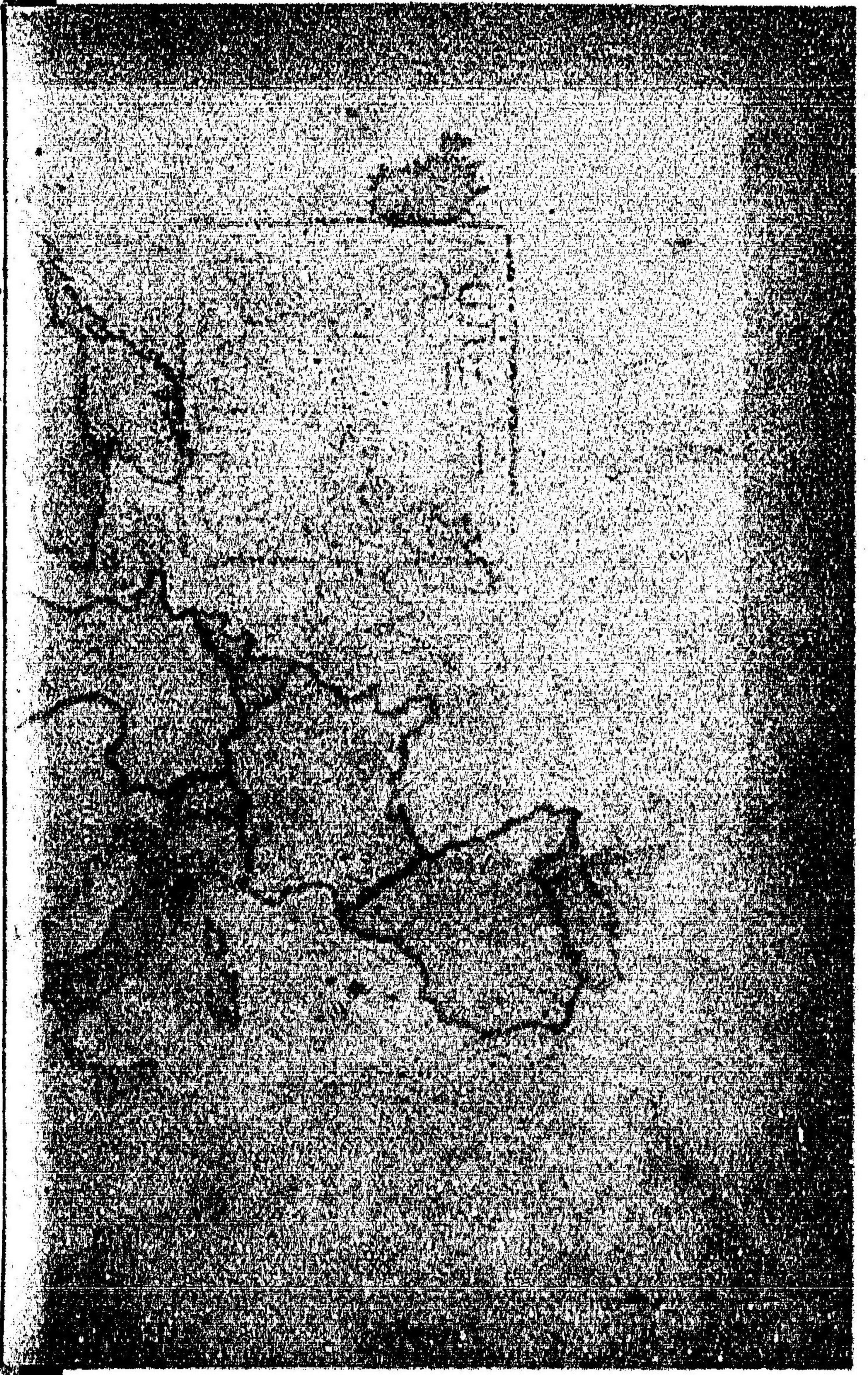
- 一 廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スベシ
- 一 上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フベシ
- 一 官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ達セ人心ヲシテ億マツラシメシメントトテ要ス
- 一 舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クベシ
- 一 智識ヲ世界ニ求メ大ニ益ヲ擧起スベシ

EUROPE-POLITICAL



第一圖 歐洲政治圖

Scale 1:22000000



趣味の地理 歐羅巴前編

小田内通敏著



Europe is a peninsula as the head is a peninsula of the body.
 歐洲の大體に於けるは頭脚が人體に於ける重要なる半島なるが如く重要なる半島なり。

一、北はアジアの西方と地續きの小さな大陸で、北はアジアの西方に突出してゐる大きな半島ともいふべきもの面積も僅かアジアの面積の一位である。しかし此處には世界の最強最文明の國々が澤山ある。即ち我が同盟國イギリスを始めフランス、ドイツ、ロシア、イタリア、オーストリア、オランダ、ベルギーなど、さればヨーロッパ諸國の活動は、

EUROPE
 RUSSIA
 AUSTRIA
 HOLLAND
 BELGIUM
 ENGLAND
 FRANCE
 GERMANY
 ITALY

世界を動かす世界を導いてをる。我が國なども遠いアジアの極東にありながら是等の諸國に刺激開發された事が少なくない。

我が國が三百年間の鎖國の夢醒めて開國進取の方針を取つてからは、是等諸國の制度を探り文物を學ぶに骨折つた事は一通でない。當時我が大學の教師は、大概英佛獨米の人々で、外に政府に雇はれた顧問なども少なくない。且海軍は英國に陸軍は佛獨に、醫術はドイツに則つたなど、一々數へきれぬほど是等の諸國に負ふ所が多い。然し我々日本人の忘れてならぬ事は、我が國民は昔から外國の長處を探つて之を同化するといふ長處を有する事である。大隈伯の開國五十年史論にも、大古より吾人が誇る處の大和民族は、種多の人種雜りて混合したるものなるが上に、其の特色は、早く白山主義の萌芽を有し、外來の習慣法律宗教文學等に調和するの性を具へ、是等の事物を外國より輸入するや、直ちに之を同化して、我々に同化したるは數々脱く所の如し。

といつてをる。この特性、この精神あればこそ内に於てはよく歐米の文物を消化して我が國今日の國運を形成し、遂に彼等と對立するに至らしめ、外は歐洲國際上の關係をして、我が國を世界の日本として、外交上の槍舞臺から除くを得ぬ様にさせたのである。

願れば今より四十年前は猶歐洲即世界で、英佛埃露の四國が其の主動者であつた。所が間もなくドイツが勃興し、イタリアが新國民となつてから、以前の國際的關係は一變した。今日では英國はまづ歐洲平和の維持者といふ地位で、フランスやスペインと提携し、佛獨によつてイタリアと結び、更にオランダやデンマークを其の羽翼たらしめんとしてをる。そこでドイツは獨力で之に對抗せねばならぬ地位となつたので、海軍では英國を凌ぎ、陸軍では佛獨に當らんと勉め、なほ各國が各利害を競にする機會ある毎に之を利用して巧に對抗の實をあげんと

してをる。所が更に最近十四五年來歐洲即世界であつた形勢が一變
し、アジアアフリカの二大陸も其の仲間入をするやうになつた。殊に
日本が日清戦役後國際的地位を高上させて來たので從來の國際關係
は全く一變したのである。

今日世界の大國としては是非とも陸軍海軍殖民通商の四大勢力を持
たねばならぬが世界では是等の勢力を養成し活動せしむべき分野は、
アジアにあらずんばアフリカである。されば我がアジアに對して歐洲
列國は競つて此の分野を得んと力めるので、爲に一層歐洲の關係を密
接にし、又交通上の便利が更に其の近接を促した。即ちスエズ運河の
開鑿は從來約半年の航程を五十日に減じ更に一時間に十五六乃至十
七八ノットの速力ならば僅か二十五日に減するやうになつた。又シベ
リア鐵道の開通は東京をかしま立ちする旅客をして僅かに十二日で

露都の人とならしめるやうになつたのである。

如上の理由は曾に歐亞の關係を一層密にしたのみではなく、アジア唯
一の勢力たる我が日本との交渉を注意せずには歐洲諸國も十分な國
際的活動をなし得ぬやうになつたのである。かの日英同盟を始め日
佛協約日露協約など何れも此の消息から現れた事實である。
かかる國際的關係のみでなく日露戦役以來眞に我が實力を認められた歐
洲諸國は日本國民の研究に多大の興味を喚起するやうになつた。英
國の記者が、一昨年菊池大麓氏を聘して我が國の教育に關する講話を
聞いたり、獨佛の軍人が我が軍事の視察に來る事など其の著しい例で
あらう。我々日本國民は今やかゝる世界的舞臺に立つた事を自覺す
ると共に益世界的智識を廣めてかゝる密接の關係ある歐洲諸國と對
峙してゆけるやうに、かの諸國の事情を知る事を怠にしてはならぬ。

自然と人

ヨーロッパの地圖を細いて、誰も氣の付く事は、其の地勢山川の規模が、アジア大陸のやうに廣大ならぬ事である。アルプス山脈高しと雖も、ヒマラヤ山脈には及ばず、又アジアの中央部に横はるパミール高原や、西歐高原や蒙古高原のやうな大高原は一つもない。だからアジアを東西に中斷する諸山脈が、その山南諸國と山北諸國との風土民情を劃然と區別して、よし山南の住民が一時山北を征服しても、その山北を十分山南化する事が出来ず、いつか又山北の特色は依然として存するやうになつて了ふと大に異なつて、ヨーロッパの諸山脈はその山北山南をかく全然兩分するやうな事はない。例へばかのローマ帝國が南の方イタリア半島に起つて、一たびアルプス以北の廣野を征服すると、此



古代ローマ帝國版圖の發展

現代主要諸國の位置略表

北		南	
北極	北緯	南緯	赤道
ロシア	スウェーデン	デンマーク	ノルウェー
ドイツ	フランス	イギリス	オランダ
ベルギー	ルクセンブルク	スイス	イタリア
オーストリア	ハンガリー	ギリシャ	トルコ
ポランド	チェコスロバキア	ユーゴスラヴィア	ルーマニア
ハンガリー	ブルガリア	ギリシャ	トルコ
フランス	イタリア	スペイン	ポルトガル
イギリス	アイルランド	ポルトガル	

の地方は全く羅馬化されて了つた其の面形は二千有餘年後の今日まで残つてゐるのでも分るであらう。

歐洲の地勢は大體北と南とに分れて北は低く南は高い。北にはフランスからロシアに續く大平原があつて一畧限ない處數十里に亘る大森林もあれば、一日數十噸を掘り出す炭坑もある。山脈もスカンデナヴィアやイギリスの北部に見るやうな高聳風のもので山の頂でも圓やかな姿が多く、深山の湖水が處々に溢へてをる。此の無數の湖水は人類のまだなかつた頃本洲の大部に廣がつて居た氷河が削り削つた跡に出来たもの。又世界の各地には其の地盤の漸々隆起する處と沈降する處とあるが本洲の北部地方も亦漸々沈む處の一つである。かのオランダの低地も、ノルウエーの峽灣も其のために出来たもの、バルチック海や北海の淺いのも、陸地の沈んだためである。

南方は、これに反して、ピレネー、アルプス、カウカサスなど、何れも新しい
高峻な山脈が東西に連つてをる。然してその山嶺には、廣大な氷河が
流れてをる。アルプス附近には、ダナル、アルプス、カルパシア、バル
カン、ピンドス、アペニンなどの諸山脈が縦横に續いてをる。是
等の山脈のうち、東西に連れるものは、その南北の氣候を異にし、又南北
に連るものと相対つて、民族の往來を妨げ、或は小國割據の形勢を養ひ
成した事、歴史の吾人に語る處である。且、スイスの風景や、ドイツ、オー
ストリアの森林や、イタリアの大礫石など、世界に名高いものも、亦この
山地が綴してゐるのである。

本洲の大河の中西部の最も主要なものは、皆此の南部山地に發源し、
ドイツのライン、フランスのセイヌ、ローヌ、イタリアのポー、オーストリ
ア、ハンガリアのダニューブなど、皆此處から流れ出てをる。殊にライン

とダニューブの二大河は、ローマ時代から史上に重要な河である。又本
洲東部のロシア大平原は、其の面積本洲の三分の一に廣がつてをる。だ
け大河も多い。本洲第一のヴルガ河を始め、ドニエプル、ウラル、ドン、ドニ
ナ、ベチウラの諸大河は、僅か千餘呎のヴルグアイ丘地から南北に流れてを
る。然して其の位置内海に注ぐものが多く、且つロシアの一國内を流
れてをるから、中欧のラインやダニューブのやうに、諸國割據の間を流れ
行くに伴ふ國際的重要な意味はない。

海岸の出入の多い事は、半島の集合といはれて居るほどで、實に海の
天恵多い事を現してをる。まづ南歐諸國の湖ともいふべき地中海は、
ギリシア、イタリア、イベリアの三半島に圍まれ、沿岸到る所、港灣多く、策
候暖かで、全く晴空眩日の下である。此の三半島のうち、ヨーロッパの離
形といはれるギリシアは、昔より地中海中の地中海と言はれたる多島

海に臨み、古來航海通商を營むものが多い。其の西に近接してをるイ
タリア半島も、今猶西岸に數多の良港を有してをる。地中海岸一帯の
かゝる氣候と、この二半島の地勢及び位置を觀るものは、雖でも歐洲文
明の母といふべきギリシアローマの文明が、此處に生れた事の偶然な
らぬを悟るであらう。さて西部のイベリア半島は南に突出て、此の海
の咽喉となり、その西岸は遠く太平洋の波浪に對して、往時の航海探検
の面影を忍ばせる。此の地中海は歐亞大陸の航路が、アフリカ南岸
の喜望峯を回るやうになつてから、一時甚だ淋しくなつたが、スエズ運
河の開鑿によつて再び歐亞の大道となつた。又此の沿海の強き日光
に輝く空や山河や、半熱帯植物の木立などは、處處に散點する史跡と共
に、一大油畫を畫いてをる。この明るいざら／＼した自然の風土は、沿
海諸國民の性情にも影響し、イタリアやフランスの文學や音樂にも、其

の強いすばらしい、そして花やかな調子がよく現れてをる。
地中海と好個の對照をなすは北海である。北海は空が曇り勝に、波荒
き海で、イギリスも、ドイツも、オランダも、ベルギーも、スカンデナヴィアや
デンマークも、皆此の海に臨んでをる。秋から冬にかけて、霧深く、曇如
した此の海は、亦それ自身の影響を、沿海諸國民の性情に與へてをる。
かのドイツ人の重くるしく、どつしりとしてゐる事や、オランダの畫家
レムブランドや、ヴァンダイクの暗い色彩を好んで用ふる事や、ノルウー
イの文豪イブセンの劇の沈痛な事など、皆適例である。又英國人が海を
家となし、戦場となし、其の性質の沈鬱で嚴格なものも、かゝる自然の影響
である。かく自然の恵の益く且つ辛かつた北海沿岸の諸國民は、南方
なる地中海岸のギリシアイタリアなどが、早くも全盛時代を現したに
反して、當時は猶未開の状態にあつた。然し今日は、地中海岸諸國の稍

静止的なるに引換へ大に活動してをるのである。
 北海の東方に續くバルチック海は、ロシア、ドイツ、スウェーデンなどに圍まれてをつて、水は淺く冬は氷り、北極洋に次いで、最も厄介な海である。日露戦争の時に、旅順で戦死したマカロフ海軍中將が、砕氷船を發明したのも、此の沿海の首府や軍港や、開港場の結氷を、一日でも後からしめんとためたといふ。

イギリスと大陸との中間なるイギリス海峡は、大西洋から北海に通ずる水道で、通商上交通上大切な事はいふまでもない。そしてこの一衣帯水は、背コーラのレーザーがイギリスに攻入つた時橋を架けて通つたと言はれる程、幅こそ狭いが、英國をして、あらゆる點に於て大陸諸國の變動の波より免れしめ、以て島國的天恵を受けしむる所以である。即ち大陸諸國と異なる氣風を、英人が保ち得るのも、亦この海峡の賜

文學上でも、すべて調子が健全穩和で、風情に長じてゐる所が、大陸諸國の深淵沈痛なると異なる所以、亦この自然の力が興つて、大きいと賞はれてをる。

大部は温帯にある此の大陸は、地勢が小規模で、海の入が多い爲に、他の大陸に比ぶれば、實に温和である。殊に地中海岸諸國は、緯度は我が北海道と略同じであるのに、冬も春の候で、激激の吹き匂入處が稀でない。又西から北にかけての大西洋岸諸國は、アメリカから流れて來るメキシコ灣流の爲に、氣候暖か、で、レベリアと同緯度にある北端のノルウェーさへ、冬でも沿岸に氷を見る事がない。たゞ東方アジアに地勢のロシアは、全く大陸的の氣候で、冬は寒くて長く、夏は暑くて短い。北端には、草も生えぬ、凍野があれば、南方にも砂漠に似た、草原が多い。いかなる人種が、規模の小さい割合には、地勢が複雑で、小國の分立割

一四
據に都合のよい此の舞臺に分布してをるか。其の大部分に廣がつて
をるのは白人利即ち所謂カクレン人種で、其のうちのアリアンが
主なるもの。昔のギリシア人も、ローマ人も、中世北歐の天地を横行し
たノースマン、スウェーデン、ノルウェーも、殖民の先驅をなしたスペイン人や、ポ
トガル人も、皆これである。現今盛んに活動してをる英獨佛露も亦こ
れである。又同じアリアンといつても、幾千百年間各一定の風土に生
息し歴史に發はれ知らず知らず、特殊の民俗をなすに至つてをる。即
ちアリアンのうち、チートン・ラタン・スラン・ケルト・ギリシアなどの別を
生じてをる。就中チートン・ラタン・スランの三民族は最も主なるもの
で、チートンの沈着で勤勉なる、ラタンの感情的で天才に富める、スラン
の質樸で雄大なる、よく其の歴史及び現情に現はれてをる。同じ基質
敷を奉じながら、スランはギリシア敷を、ラタンは蓋敷を、チートンは



教を信するなど、亦民族性の相違を示してをる。是等三大民族の代表的國家は、ナイロトンではイギリス、ドイッ、オーストリア、ラタンではフランス、イタリア、スラブではロシアなどである。

又カウカシア人種中のセミチタクに屬するユダヤ族は、ユダヤ教を信する。所以の基督教諸國から排斥迫せられてをるが、嗣亡びて轉々流浪してをる。今日までも、よく人種の統一を保ち、自治獨立の精神に富める事驚くべきものがある。殊に商業や蓄財に長じてをる事は、殆ど世界一で各國の都市に居住し、到る所經濟上の勢力を占めてをる。其の勢力の大なる事、金融上には彼のナイロトン、ラタン、スラブ諸民族の國々を支配し、金融上よりの世界的王國を建てつゝあると言はれてをる。カウカシアの外には、昔アジア大陸から移住した黄色人種、即ち蒙古人種がある。南部のマガール族、トルコ族、北部のフィン族、ラップ族などが、其

の主なるもの。就中アリアンと對等に國を建て、あるものは、マジョール族のハンガリアで今はオーストリアの治下にありながら、猶與國の意氣に滿ちてをる。又トルコは三百年前には、バルカン半島を根據とし、武を附近の諸國に振つたものだが、今は昔の面影なく、其の信譽する回々数は殊に國民を頑愚にする大原因となつてをる。歐洲人の筆に成る地理書には、よく此の國民を歐洲の異國人と書いてある。同じ歐洲人でも、人種を調べて見ると、こんな相違がある。だから歐洲諸國の歴史や地理を讀む者は、其の國の自然の有様即ち地勢氣候などを調べると共に、其の國の民族にも注意せねばならぬ。日清戰役後、歐洲諸國にも、もし日本人が四億萬の支那人を訓練して歐洲を侵略するに至らば、といふ實戰說の起つたのも、全く東西人種の異同から來た事で、これによつても、人種問題の忽にすべからざる事がわかるであらう。

國勢の概観

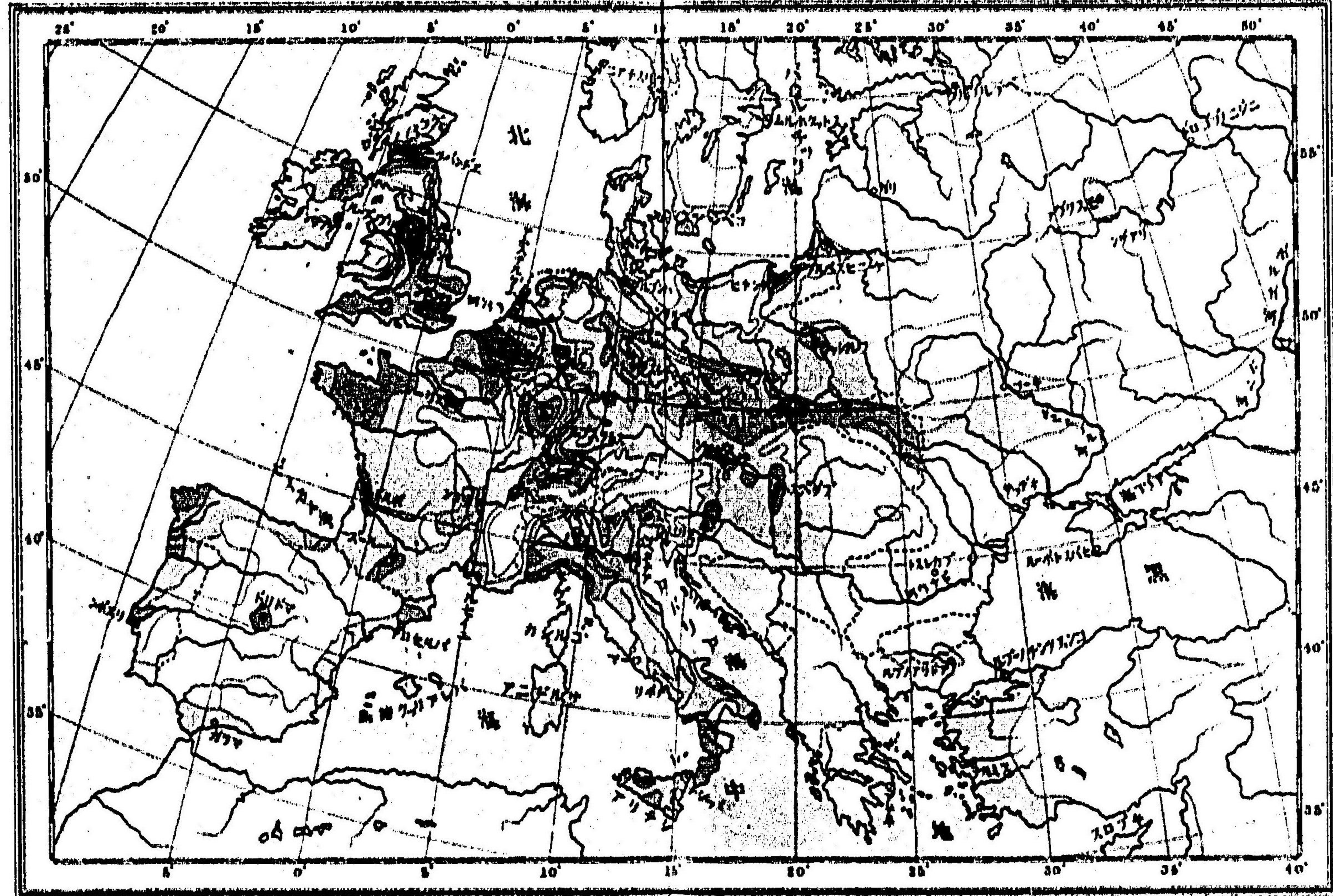
かゝる風土と、かゝる民族とで出來てをるヨーロッパには、大小二十六の獨立國がある。其の内、ギリシアやイタリアは今も無論獨立國であるが、歴史上のギリシアやイタリアとは大いに違つてをる。今のギリシアは、トルコの羈絆を脱してから僅かに七十六年、三三、イタリアが此の半島を統一したのも僅かに三十八年前、一八一、ドイツなども今の聯邦組織の出來たのが四十二年、一八一である。建國の最も新しいのがノルウェーで、まだ四十年前、一八五九にすぎぬ。又ベルギーがオランダから分れたのも七十八年前、一八一である。だから舊い國は、まづイギリス、フランス、ロシア、オーストリアなどである。是等の諸國は、議院政治の元祖たる英國を始め殆ど皆立憲政體である。

君主專制で有名なりしロシアも、露戰印後には議會を開き、トルコでさへ近頃八九憲法を發布した。同じ立憲政體でも各國の成立が違ふから、一々説明が出来ぬほど複雑である。假へばオーストリア、ハンガリアのやうに兩國合併してをる處では、兩國に各上下兩院あつて外に亦帝國議會がある。又ドイツのやうに數多の聯邦から出来てる處では、帝國議會と聯邦議會とがあり、ギリシアのやうに議會が一つな小國もある。且つ又同じ立憲政體といつても、國體にはロシアのやうな君主國もあればフランスのやうな共和國もある。是等の諸國が政治上に於て最も困難を感ずる事は、一國內に於ける人種言語歴史宗教などの相違で、人種の異分子多しロシアやオーストリア、ハンガリアなどは、議會の演説に數人の通譯を要するほどである。ハンガリアがオーストリアから分離しようといふ傾向の絶えぬのも、

一つは人種や言語や歴史が異つてをるためである。又バルカン半島諸國に於ける回教徒と基督教徒との反目も、古來の難問題である。かく一國內の難問題があるのみでなく、他の國家に對して、自衛上自から起るものは軍備問題である。殊に英國佛露の四強國などは、全く競爭の突で是等の諸國が年々陸海軍に費す金額は實に多大なものである。今夏ドイツの海軍擴張案が英國の反感を招いた事は、諸君も記憶に新しい事であらう。然しかゝる間にも一面には又露帝の主唱によれる萬國平和會議が二度まで開かれた事は、たとへ此の實現が容易でないにしても大に注目すべき事である。又各國間に挟まつて小國で、スウイスやベルギーなどは、各國合併の上で局外中立國になつてゐるから軍備などは殆どないと言つてもよい。是等の諸國が更に産業の發達、殖民の發展、教育の普及、文化の進歩等に

製す事は驚くべきものである。石炭鐵の分布多いイギリスドイツベルギーなどは製鐵並に機械製作の事業が盛んに行はれ、スウェーデン、ノルウェーなどは天然の地利によつて牧畜が盛んである。其の外イギリスの綿織物、フランスの絹織物、ロシアの綫類、スウェーデンの材木など、何れも世界的産業たるを失はない。各限人口の粗密も亦其の産業の共同を示してをる。従つて有無相通する必要から、鐵道や汽船などの交通機關も、國內國際共によく發達してをる。現に本洲鐵道の延長は全世界の三分一以上に達してをる。然して諸國民は、かかる交通機關を利用して世界到る所に國産の市場を求め、又新郷土を開拓するのである。これが即ち彼の歐洲諸國の貿易及び殖民の事業である。又貿易に於ては輸出を合せて英國は日本の約十三倍、獨逸は約九倍、佛國和蘭は共に五倍で、白耳鐵は約三倍である。南西では日本より多い。

EUROPE-DENSITY OF POPULATION



第三圖 人口密度圖

□ 人ノ密度

0-4人	4-12人	12-102人	102-250人	250-304人	304-512人	512人以上
ベルギー..... 608人	スイス..... 210	ルーマニア..... 120人	モンテネグロ..... 71人	イギリス..... 302	エストニア..... 100	ロシア..... 55
フランス..... 350	ポルトガル..... 151	ギリシア..... 116	デンマーク..... 48	オランダ..... 305	セルビア..... 145	スウェーデン..... 21
ドイツ..... 289	フィンランド..... 142	ブルガリア..... 117	スウェーデン..... 21	ポーランド..... 304	スペイン..... 89	ノルウェー..... 19
		トルコ..... 80				

歐羅巴諸國國勢比較一覽

Table with columns: 城區名 (Country Name), 地勢 (Topography), 氣候 (Climate), 産業 (Industry), 居民 (Population), 面積 (Area), 人口 (Population), 都會 (Major Cities). Rows include: イギリス (Great Britain), バルウニー (Belgium), スウェーデン (Sweden), オランダ (Holland), ベルギー (Belgium), ドイツ (Germany), オーストリア (Austria), フランス (France), スペイン (Spain), ホルトガル (Portugal), イタリア (Italy), キリシヤ (Czechoslovakia), トルコ (Turkey), フルガリア (France), ルーマニア (Romania), ギリシャ (Greece), モンテネグロ (Montenegro), ロシヤ (Russia), and 要摘 (Summary).

要摘 中先ローレンス、C. A. K. ... (Summary text in Japanese)

主要國勢統計圖表

諸國貿易額比較表

(明治四十年農商務省調査)

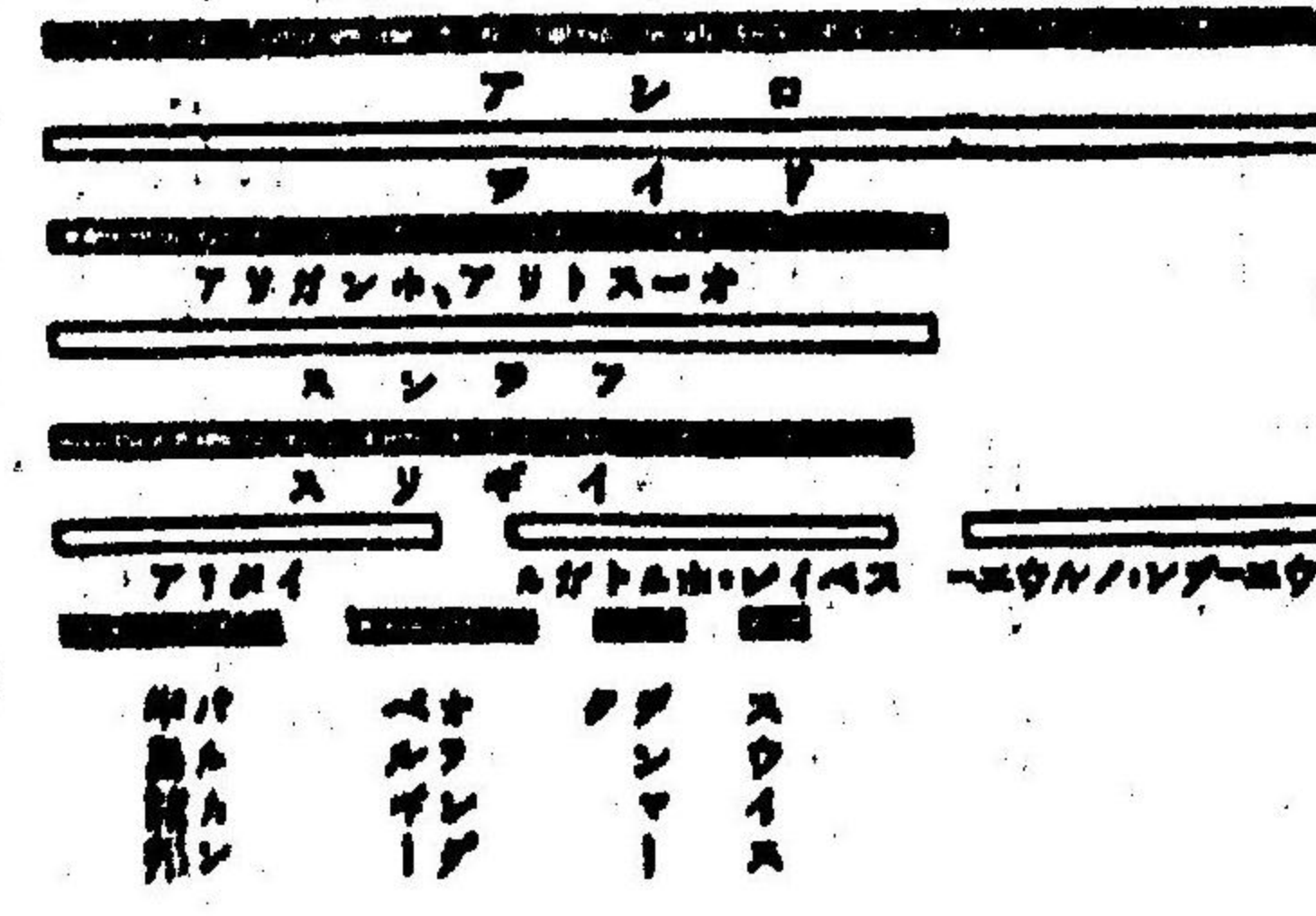
國名	輸入	輸出
イギリス	1,000,000,000	1,000,000,000
フランス	800,000,000	800,000,000
ドイツ	700,000,000	700,000,000
アメリカ	600,000,000	600,000,000
イタリア	500,000,000	500,000,000
オーストリア	400,000,000	400,000,000
ロシア	300,000,000	300,000,000
日本	200,000,000	200,000,000

諸國民産業別比較 (百分比)

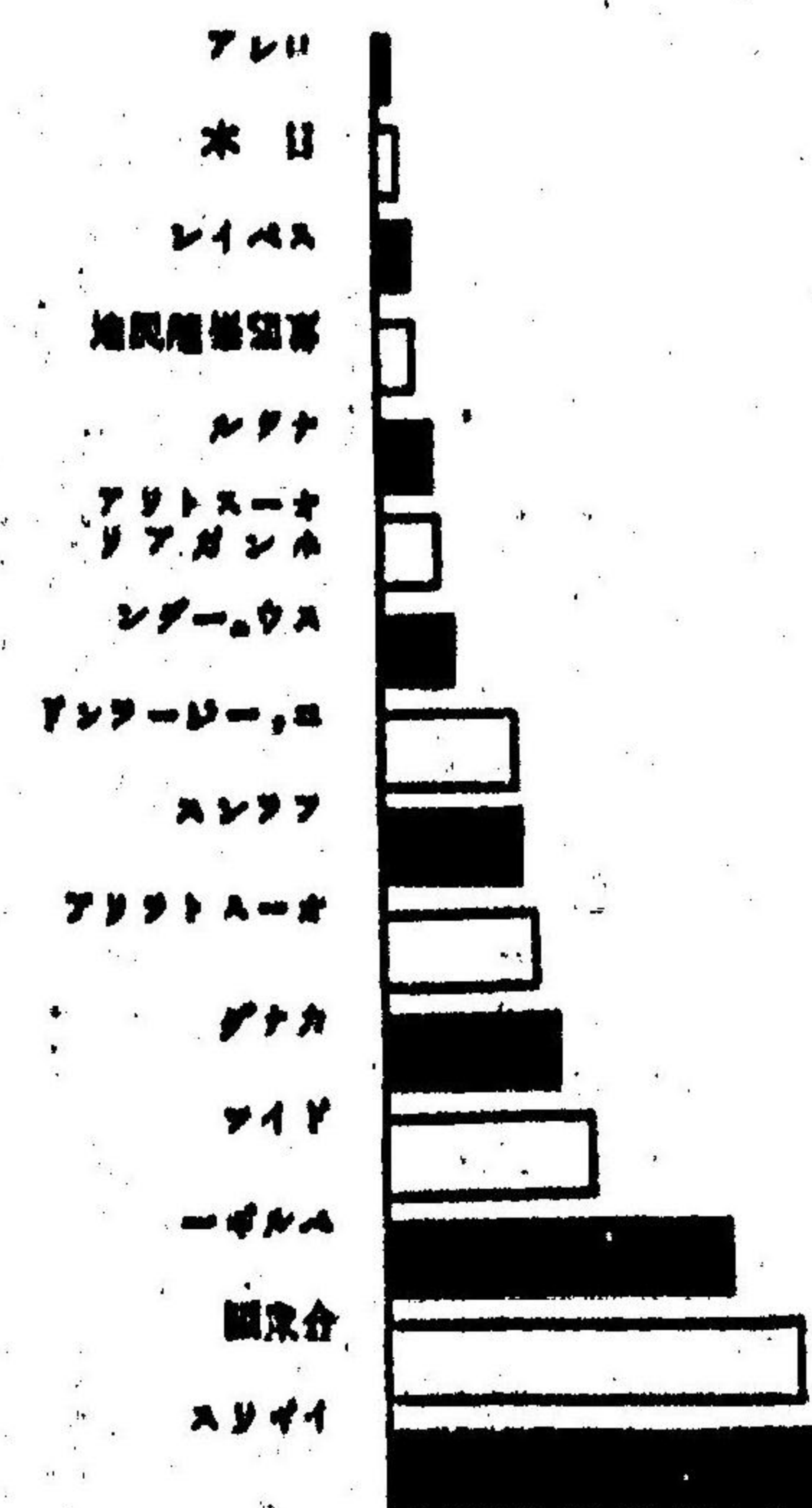
諸國軍備比較 (二〇〇年)

國名	農業	工業	商業	軍備
イギリス	10%	80%	10%	100,000人
フランス	15%	75%	10%	150,000人
ドイツ	20%	70%	10%	200,000人
アメリカ	25%	65%	10%	250,000人
イタリア	30%	60%	10%	300,000人
オーストリア	35%	55%	10%	350,000人
ロシア	40%	50%	10%	400,000人
日本	45%	45%	10%	450,000人

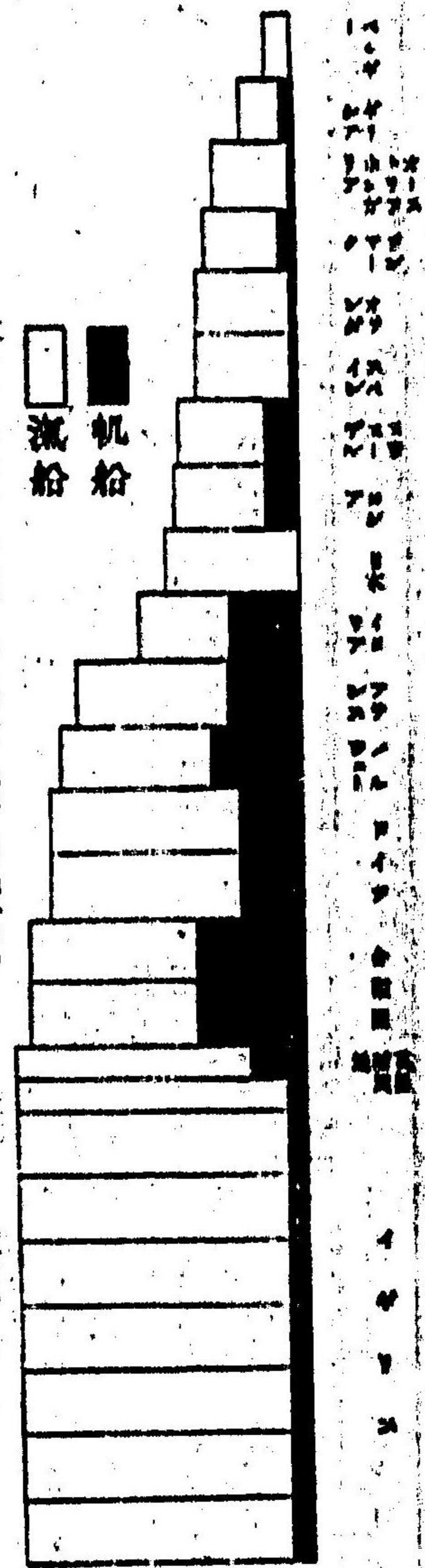
諸國鐵道延長比較圖



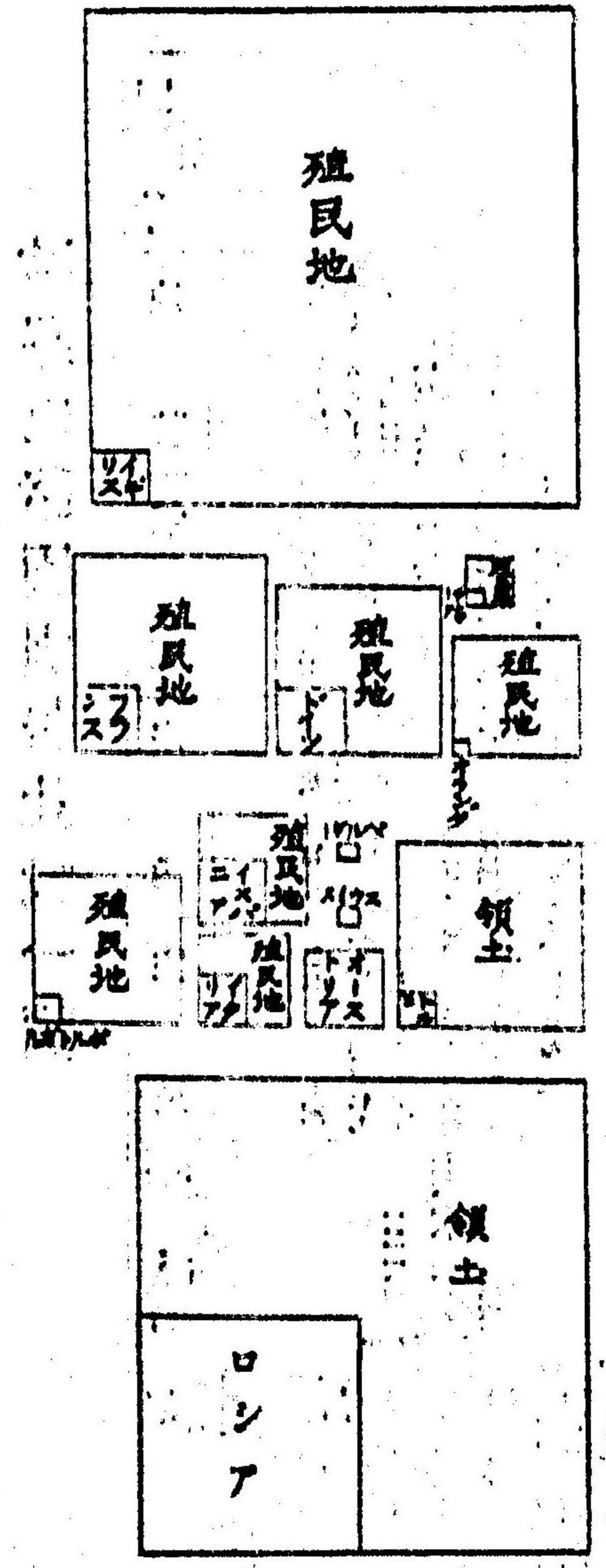
世界諸國石炭消費額比較圖



諸國商船噸數比較圖



諸國本國及殖民地面積比較圖



UNITED KINGDOM



第四圖 イギリス國圖

近附スコット
1:1,000,000

布分國公近附
1:1,000,000

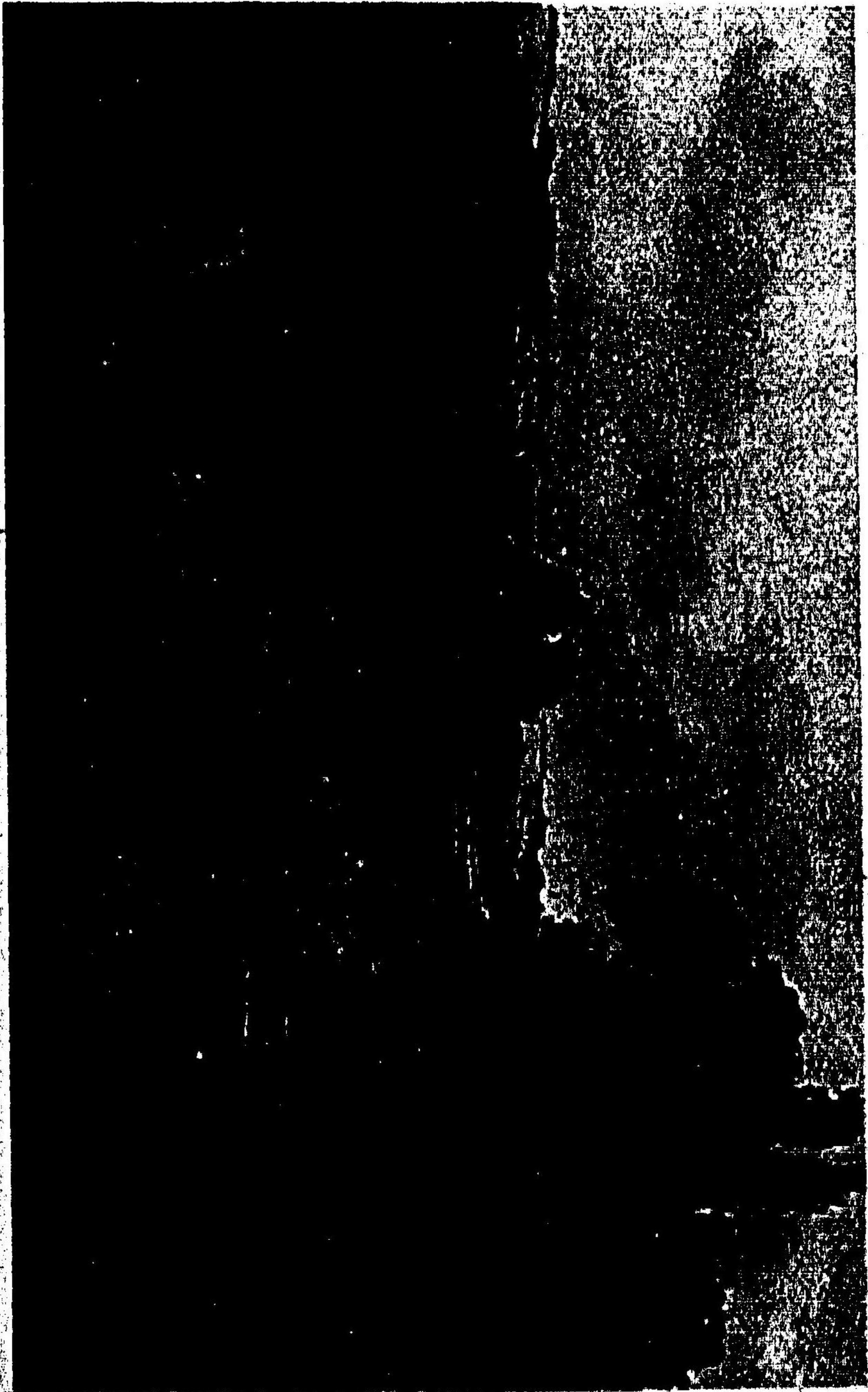
Scale 1:6,000,000

別冊 殖民に於ては英國の殖民地は實に本國の八十六倍、オランダのは六十五倍、フランスのは十九倍半、ドイツのは五倍とはなんと驚くべきものではないか。従つて是等の殖民地に居住する歐洲人は本洲總人口の三分の一にも及ぶといふ。又航海業發展の比例を見ても、此の主要な十六國の中十四國は實にヨーロッパ諸國である。別冊
教育に於ては、イギリス、フランス、ドイツ、ベルギー、スウェーデンなど最も盛んで、世界の學校といはるゝドイツなどは、大學校が二十一、中學校が一、千一百。即ち大學の数は日本の五倍餘、中學校は四倍餘である。スウェーデン、ベルギーなど、共に小國で我が九州位でありながら、大學はスウェーデンに六、ベルギーに四。其の他各國各都會に於ける圖書館、博物館の設備等、社會教育の機關も實によく備つたものである。外に基督教徒のやつてる社會事業を始め、海外布教事業などは最も世界的なもの。布教事

業に就いては、第一に英佛二國民の事業を擧げざるを得ない。

我が國との關係

我が國との條約國は、英佛獨逸を始め十五ヶ國で、其處には我が大使館か公使館かを置き、外に通商上の要地には、總領事館か領事館かを設けてある。かゝる國際及び通商の關係以外に、我が國公私の留學生や視察員は、各種の方面の視察に赴くのである。是等の人々は、政治軍事實業交通教育宗教文藝等の智識を得るばかりでなく、其の家庭を觀國俗を察して歸るから、年々其の數の増すにつれ、我が國民の一部は、ローマに對し、近いアジアやアメリカよりも却つて一番近いやうな感情を持つやうになつてゆく。否、歐洲諸國が今猶世界文明の中心、世界活動の中心たる以上、我々は益々其の事情を知るに勉めねばならぬ。



流上の河スルナ

我が國との關係
業に就いては第一に英佛二國民の事蹟を擧げざるを得ない。

我が國との關係

我が國との條約國は、英佛獨露を始め十五ヶ國で、其處には我が大使館か公使館かを置き、外に通商上の要地には、總領事館か領事館かを設けてある。かゝる國際及び通商の關係以外に、我が國公私の留學生や視察員は、各種の方面の視察に赴くのである。是等の人々は、政治軍事實業交通教育宗教文藝等の智識を得るばかりでなく、其の家庭を觀、國俗を察して歸るから、年々其の數の増すにつれ、我が國民の一部は、ヨーロッパに對し、近いアジアやアメリカよりも却つて一番近いやうな感情を持つやうになつてゆく。否、歐洲諸國が今猶世界文明の中心、世界活動の中心たる以上、我々は益々其の事情を知るに勉めねばならぬ。



流上の河ヌムラ

イギリス (THE UNITED KINGDOM)

英國は日本と同じく世界の島帝國である。兩國とも大陸に接近し地勢や氣候の具合は勿論大陸諸國との關係まで餘程よく似てをる。我々は數年前此の類似國たる英國然も世界の最大商工業國で世界の殖民成功者で又其の國民は模範とすべき特性を持つてると稱せらるゝ英國と同盟した事を喜ぶものである。

此の同盟國民はいかなる國民であるか。世界の模範とすべき特性とは何であるか。ながく英國公使として、ロンドンに駐在した加藤高明氏が數年前國家學會といふ會で「英國人に就いて」といふ題で之を語られた。今それを詳述する譯にはゆかぬが氏は英國國民の信義の厚い事を語しては英蘭銀行などでは幾萬圓の預金にても請取書を出さぬ事

を詔り秩序を重んずる事に就いては、千百の車馬が一時に東西南北より絡驛するロンドンの辻で、それが巡査の一號令によつて止まるも、動くも命のまゝによく整理される事をおげ、禮儀を貴ぶについては、汽車中の客の舉動や葬式に於ける會葬者の態度に求め、又體操は老若男女の別なく勉むる事を語つて、英國人が世界に於ける處に其の國力を展ばすは、身體の強健なる事が其の主なる原因である事等をいはれ、すべて九條(一)信義(二)勤勉(三)職責(四)秩序(五)公共心(六)禮節(七)體育(八)品位(九)家族團練等をよく盡す事を話してをる。要するに英國國民は殆ど眞面目で勤勉で、然も紳士としての資格に富んで、殆ど模範的國民だといふべきである。さて又坪内博士は、アングロサクソン即ち英國國民のかる特質の由来を面白く論じてゐる。

アングロサクソンの故郷は彼の風濤險惡なる北海に枕みたる林深

く沼多き濕地なり。空曇り霧深く雨雪時を定めずして降れるがゆゑ、其の地の住民は多く室内に蟄伏するの必要を感ず、若しくは平素蟄伏せる反動の爲に、たま／＼天晴るゝや野に山に河に海に縱横に奔馳して荒々しき遊獵をなすを好む。アングロサクソンは其の境遇の結果として自然を友とする能はざりしがゆゑに、之れを敵としてよく戦ひ、早くより勁敵たる海を克服し、海を家となし、海を活動場となし、竟には海賊を其の業となすに至りき。彼等は争鬪と掠奪と冒険とを以て勇兒の事となし、天少しく霽るれば、劍斧を双帆船に積み、近海を游行し、若しくは遠方の地に上陸して、強奪殺傷を繼にし、捕虜を斬りて、祖神を祭り、火を四隣に放ちて、爾る是れ彼等が常習なりき。凛烈たる寒氣と此の激烈なる職業とは、彼等をして強き飲料と多量の食物とを要せしめ、且つ其の娛樂を耳

目に取りらて口舌に取るに至らしめき。牛飲馬食は其が尤も嗜む所にして沈鬱と嚴格とは其が外貌の通具性なりき。彼等は筋骨逞しく忍耐強く最も冒險の男に富みて卑怯情弱を卑めり。其の弊をいへば誠忍清剛なりしこと也。其の美德をいへば嚴格にして勇敢なりしと特行獨立の氣象に富めりしこと。義務を重んずる念の厚かりしこと也。蓋し彼等は戸内に黙居する日多かりし故に肉體の美よりも精神の美を重んずるの念即ち君に忠実に貞朋友に信親に孝などいふ義務の念割合に早く發達したりしなり。殊に其の婦女輩の貞烈なりしは間々彼のメバルタの婦女をも凌ぎたりきといふ。

此の人種が移り住みしナリタンの島は其の地勢も其の氣候も頗る本國のに類したれば彼等が生活上の習慣は敢て改むる必要もなく、隨つて其の固有の性癖は依然として移住後まで繼續せりしが流石

に新國士の地勢氣候の幾分か温和なりし爲めの故にや其の惡徳は、年と共に幾分か其の甚しきを減じ文化のやゝ進むにつれて其の美徳はやゝ發達せり。殘忍殺伐なる本具性は容易に滅するに至らざりきと雖も其の粗暴なる習癖は次第に善化し同時に虛文に泥まずして實行を重んずるの性を養成し其の殘害を悦ぶ心も往々にして勇敢の徳を生み強烈廉恥の良風を長じぬ。

と道破されてをる。アングロサクソンといへばもとは大陸即ち今のゲルマンの南方にをつたアングロ族とサクソン族との事て此の二族が當國に移住し遂にイギリス王國の基をなしたるもの。イングリッシュの名はアングランド即ちアングル人の邦土といふ義でブリタニオンは此の島國の原住民ブリトン族の名から出たのださうな。されば我が國てはトブリトン族はアイヌでアングロサクソンは大和民族に

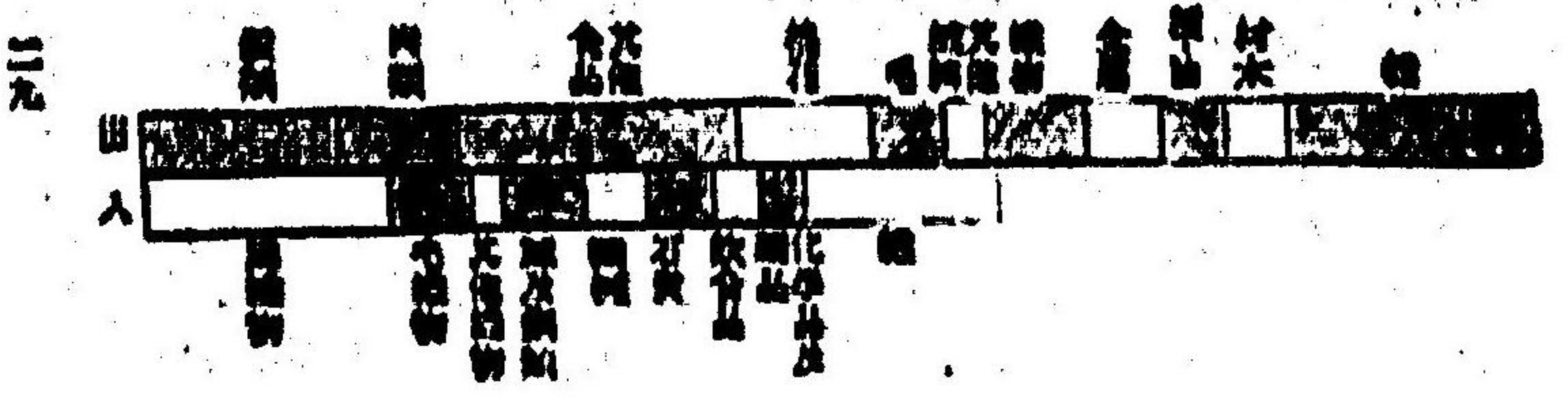


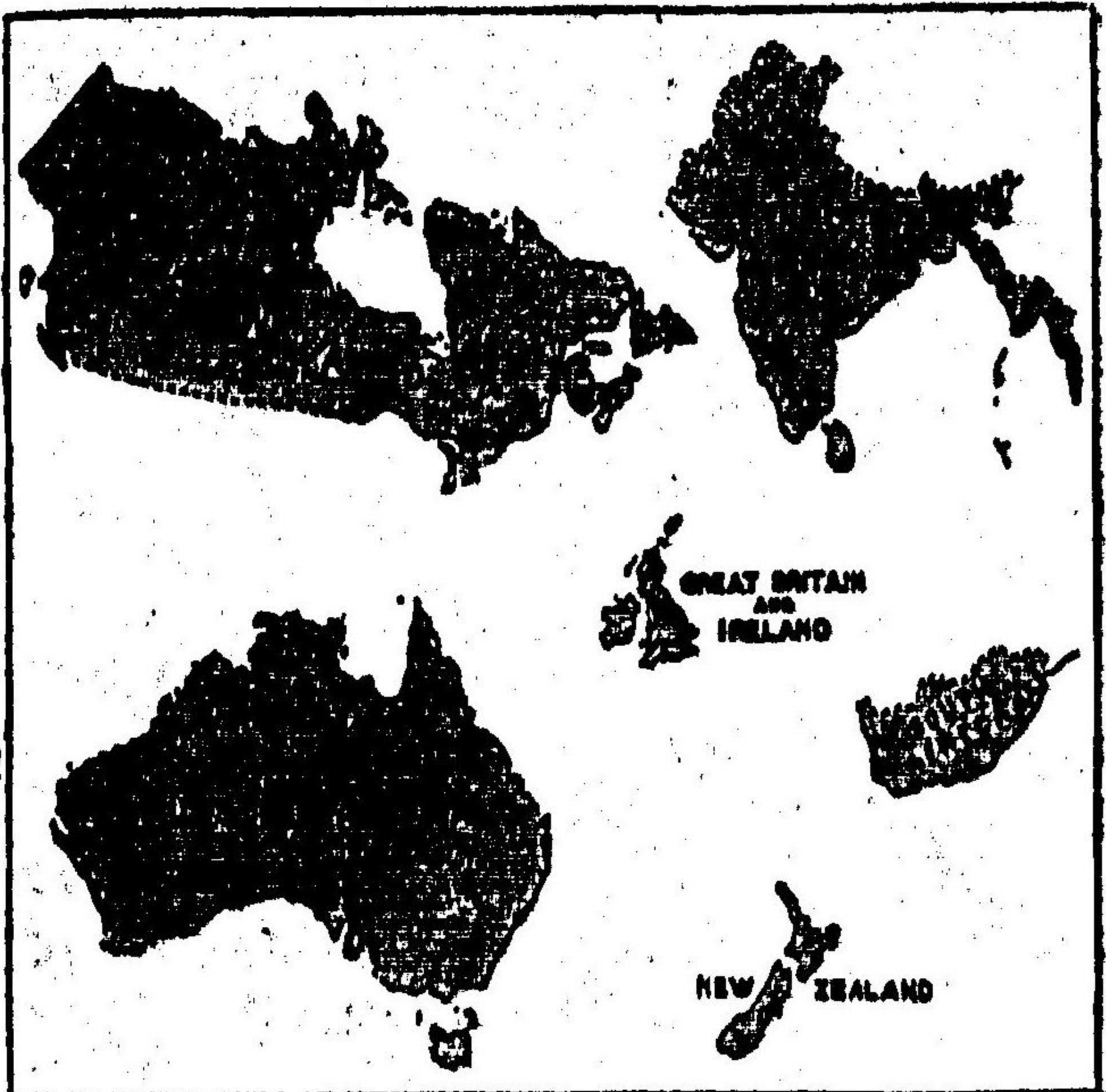
現皇帝エドワード七世の第一

あたるのである。
 英國といへば我が國では此の
 島帝國の全部を意味するので
 あるが實はイングランド・ウェ
 ルス・スコットランド・アイルラン
 ドの四つに分れて其の習俗も
 火々多少違つてを。これは
 この四國がもと獨立國であつ
 たからでイングランドがウ
 ルスをとつたのは割合に早く
 て十三世紀スコットランドの合
 併されたのは十七世紀の始め

アイルランドを領有するやうになつたのは實に十七
 世紀の終である。ユニオン・フラグ即ち合同旗と稱
 すべき英國國旗は實にイングランド・スコットランド及
 ビアイルランドの三國旗を合同したるものである。
 従つて其の國名もイングランドといふを廣く全國名
 に用ふる事もあるが又グレートブリテン・アイル
 ルランドともいふのである。しかし合衆王國といふ
 のが普通で本國から殖民地までも總稱する時はブリ
 タン・ユニオン・バイアといふのである。
 此の國が大商工業國として世界に雄飛するに至つた
 のは一に航海の擴張に歸せねばならぬ。即ちかのエ
 リザベス女王時代に時の航海王スペインに勝つてか

主輸出入品別圖

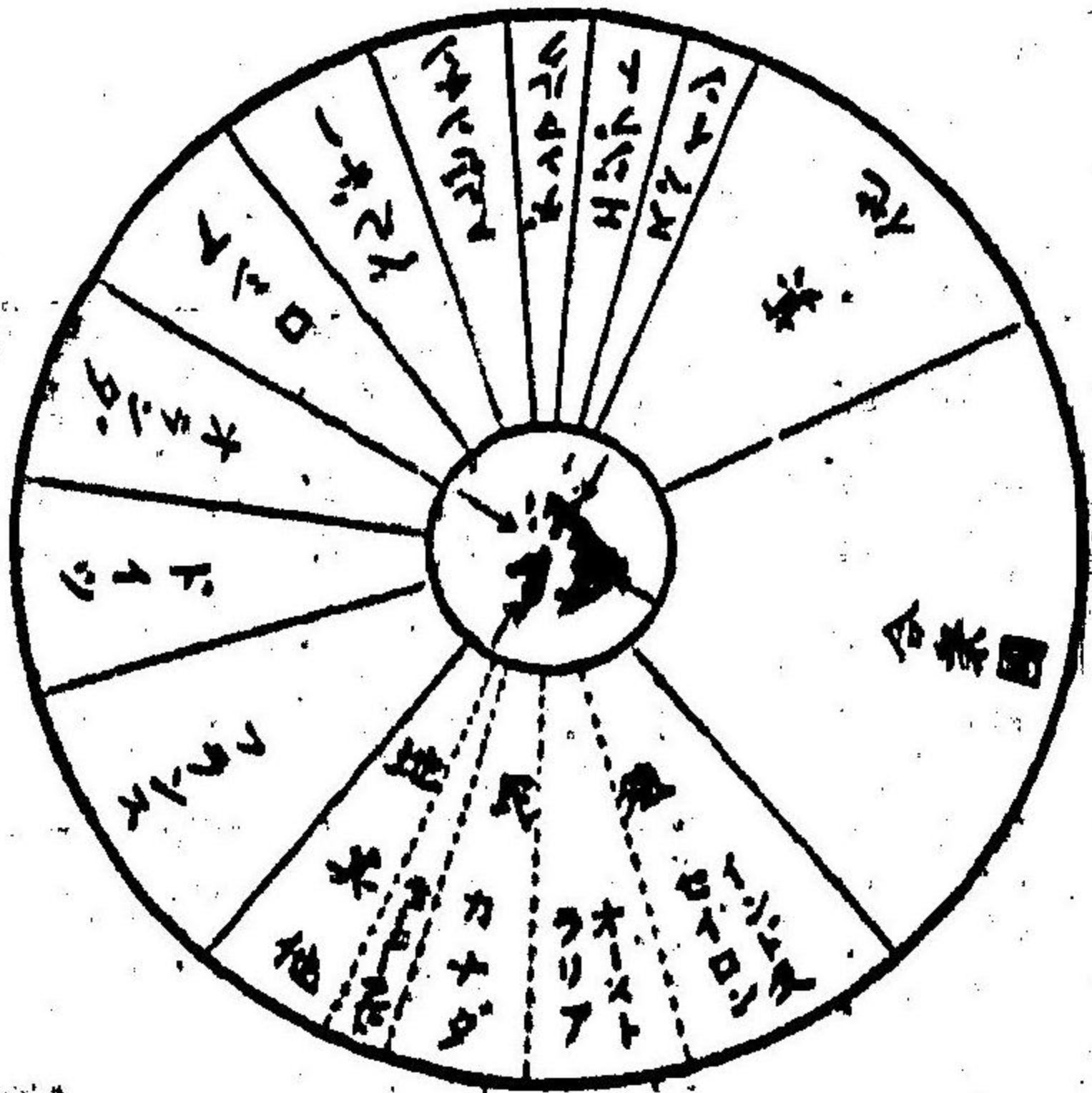




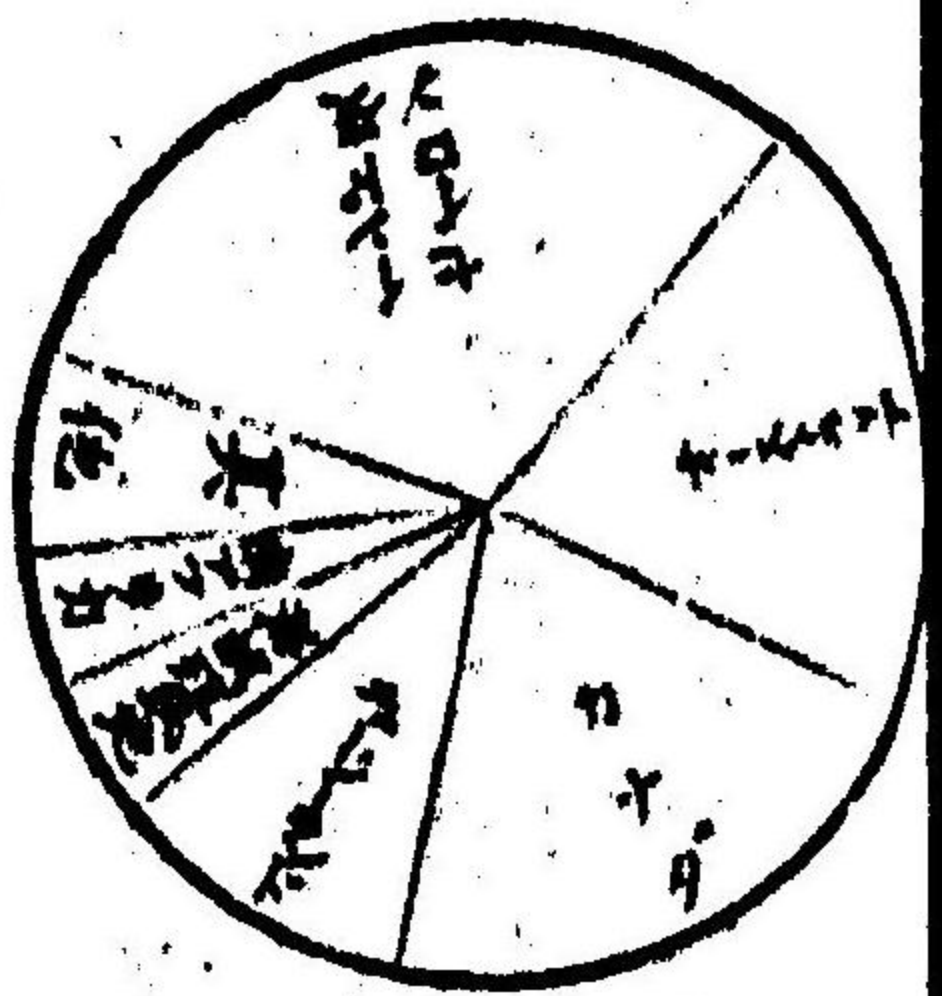
英國及主要殖民地面積比較圖

英國の殖民地は其の面積本國の約八十
六倍餘にあたり、アフロアのインド、北米の
カナダ、南洋の諸州、ニューゼaland、及び
南アフリカなど所んと世界の各處に散
在す。而して謂る處英人によりて開拓
せられ、商工業上母國と密接の關係を有
す。竹籬氏の比較殖民地制度に曰く、是等
の殖民地に於ける殖民地制度を總覽する
に、とく土地の事情に適應して法令を定
み、成るべく習慣により民心を慰安し、平
和の間に統治の効を奏めんとす。英國
が近世殖民に於て、他に比類なき成功を
得たる所以實に此にありとす。蓋し英
人は實際を重んじて理想に拘泥せずと、
又「四説に曰く、ドイツは殖民があつて殖
民地がない、フランスは殖民地があつ
て殖民がない、其の二者を併せ有する
ものは英國のみである」と。

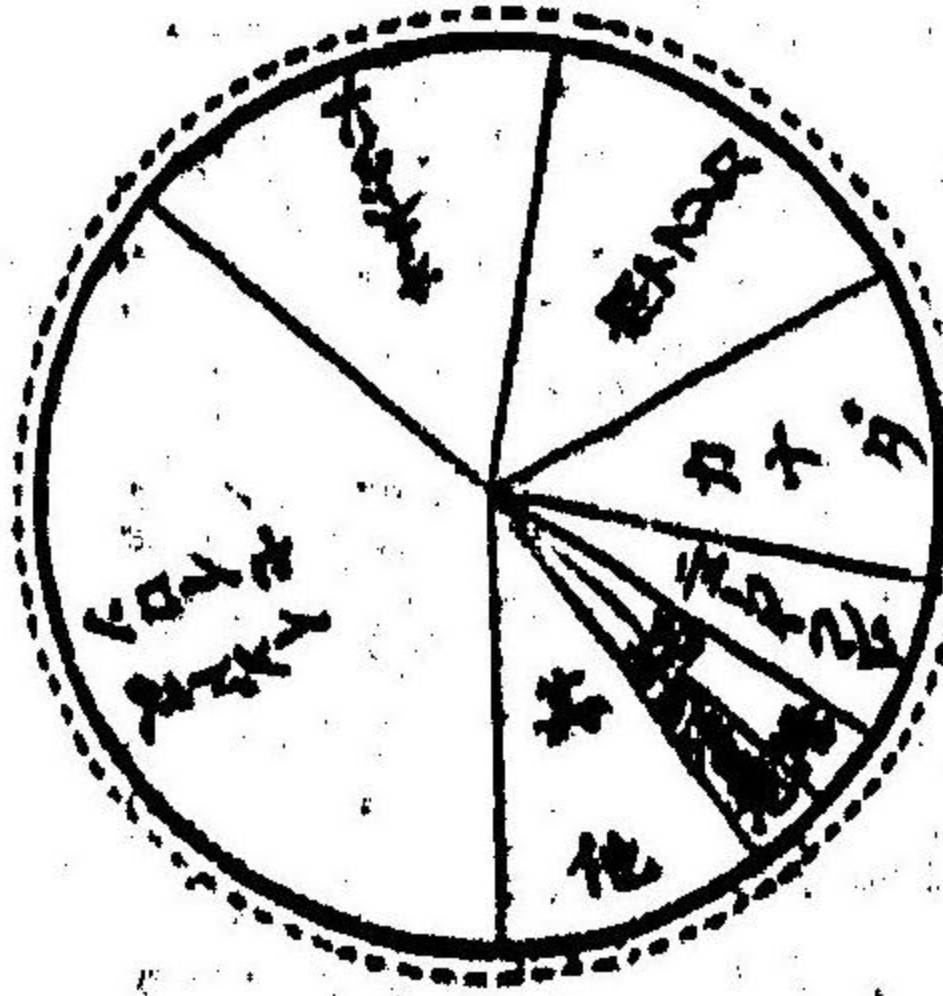
一九一九年英國主要輸出入額國別比較圖



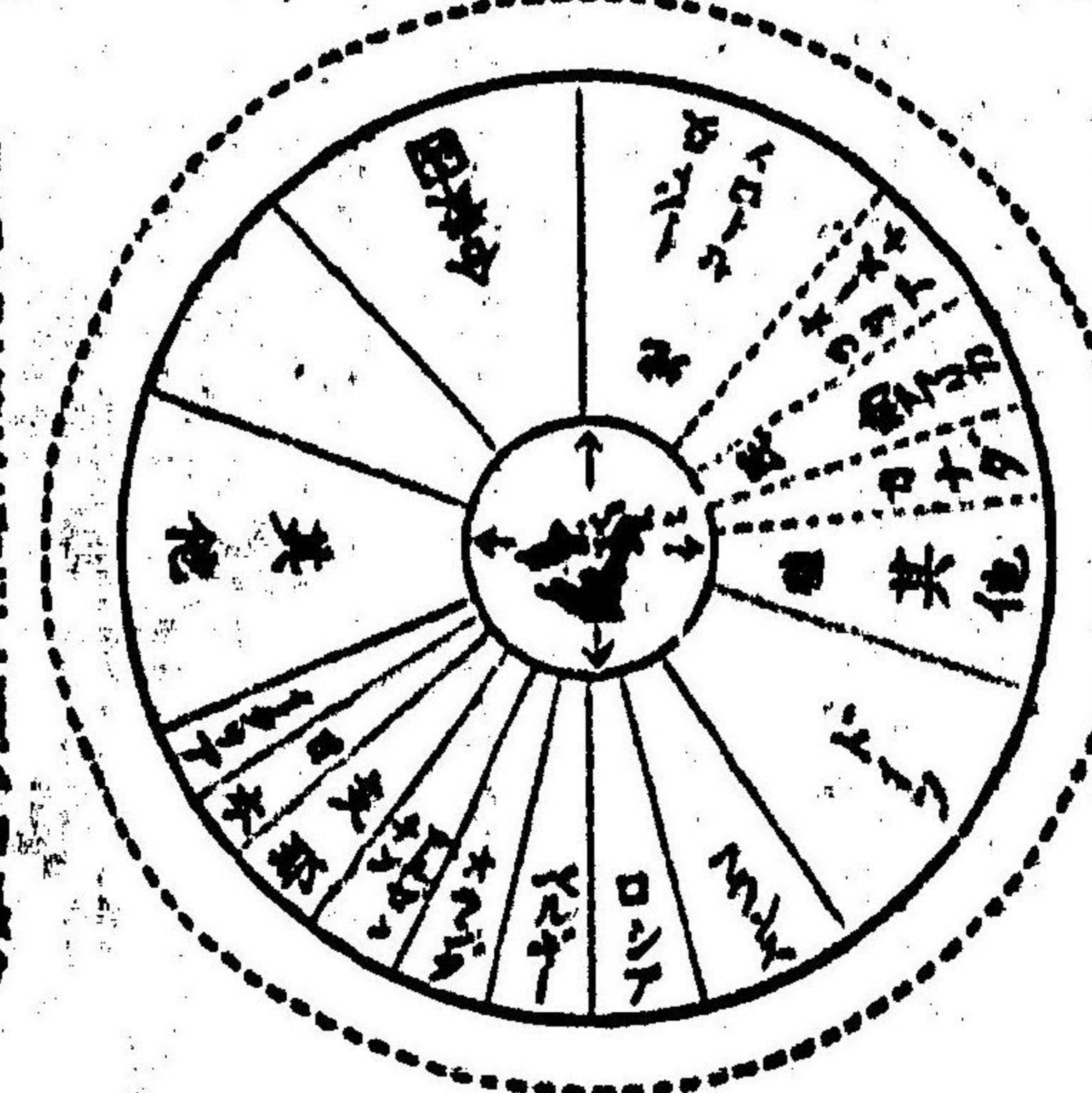
右圖は英國の輸出入額六千五百萬鎊を淨し、並には國
別合計額を示す。總輸出の約一億二千七百
八十六萬九千鎊を以て、合算國別比較の首
位にあり。



右の二圖中、右圖は輸出地より
の輸入額を示し、左圖は輸入地
からの輸出額を示す。右圖は
輸出額の約一億二千七百八十
六萬九千鎊を以て、左圖は
輸入額の約一億二千七百八十
六萬九千鎊を以て、合算國別
比較の首位にあり。



右圖は英國の貿易額七百六十九萬七千鎊を示す。
右圖は英國の貿易額七百六十九萬七千鎊を示す。
右圖は英國の貿易額七百六十九萬七千鎊を示す。



右圖は英國の貿易額七百六十九萬七千鎊を示す。
右圖は英國の貿易額七百六十九萬七千鎊を示す。
右圖は英國の貿易額七百六十九萬七千鎊を示す。

らて其の後商戦オランダを破り、益航海を盛んにし、領土を擴張し市場を世界の各地に有するに至つたのである。國內に多大の石炭と鐵とを産する事は工業の盛大を來した大原因、殖民地の原料品を利用し得るのも之を助成した所以である。而して此の島帝國の地勢が、北海にロンドン・リバプール・ハルグラスゴウ等の良港に富んでゐる事と勇敢なる國民の特性とが相俟つて更に其の大勢をつくつたものであらう。

イングランド (ENGLAND)

イングランドはスコットランドやアイルランドに比し、あらゆる意味に於て英國の中心である。面積に於ても人口に於ても文化に於ても富に於ても遠く他の二國を凌いでゐる。我々は簡單ながら左の人口比較表に據つても明かにこれを知る事が出来る。又首府ロンドンの繁

華工業地方の盛大教育の特色など皆之を語る好資料である。山水の趣致亦他と異つた一種の味がある。我々は順次項を改めて語りたいと思ふ。



- (1) 三大地方面積比較表

イングランド及ウェールズ	五八、三二五
スコットランド	三〇、四〇五
アイルランド	三二、三六〇
- (2) 三大地方人口比較表(一九二一年)

イングランド及ウェールズ	四、四七〇萬
スコットランド	二、四八〇萬
アイルランド	二、四八〇萬
- (3) 三大地方人口分布比較(一九二一年)

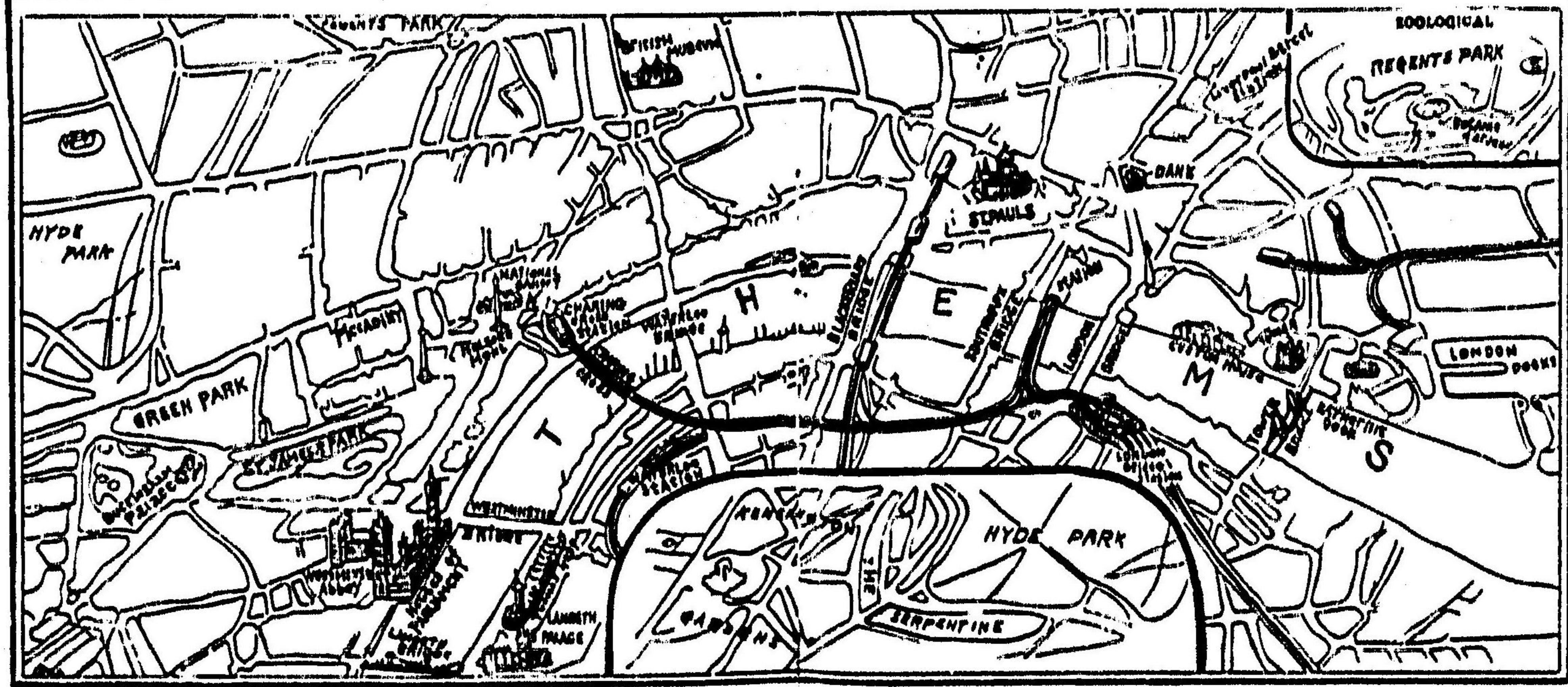
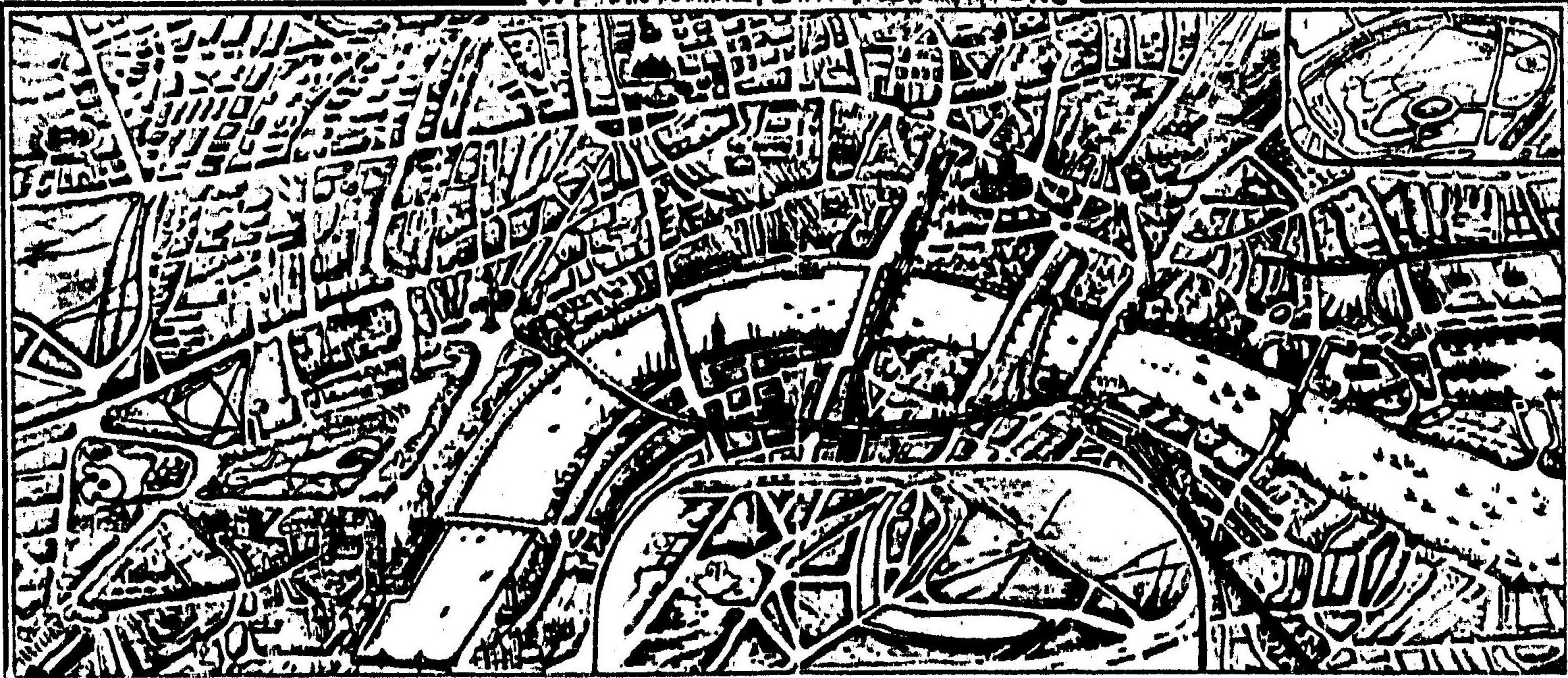
イングランド及ウェールズ	二、五五八
スコットランド	一、一五〇
アイルランド	一、三三七

ロンドン

ロンドン

ロンドンはいかなる處であるか。昔あるフランス人は、一ヶ月此處に遊んでをつて歸國の上其の有様を書かうとしたがどうも不明瞭な所があるのを再遊した。そして三ヶ月ばかり滞在し觀察してそれから歸つて筆を執つたが矢張り要領を得ない。そこで三度目には三年間止つていろ／＼研究したがどうしてもわからぬのでと／＼筆を擲つたといふ話がある。地理書などには英國の最も舊い町世界の最も大きな都會世界の最も大きな港と書いてあり宛然たる一箇の世界とも、大きな蜂の巣——人間といふ蜂が無數に住んでゐる都とも書いてある。ロンドンとても昔からこんな大都會でなかつた事は其の名を見ても明かである。ロンドンはケルト語で沼澤上の城といふ意味である。

PICTORIAL PLAN OF LONDON



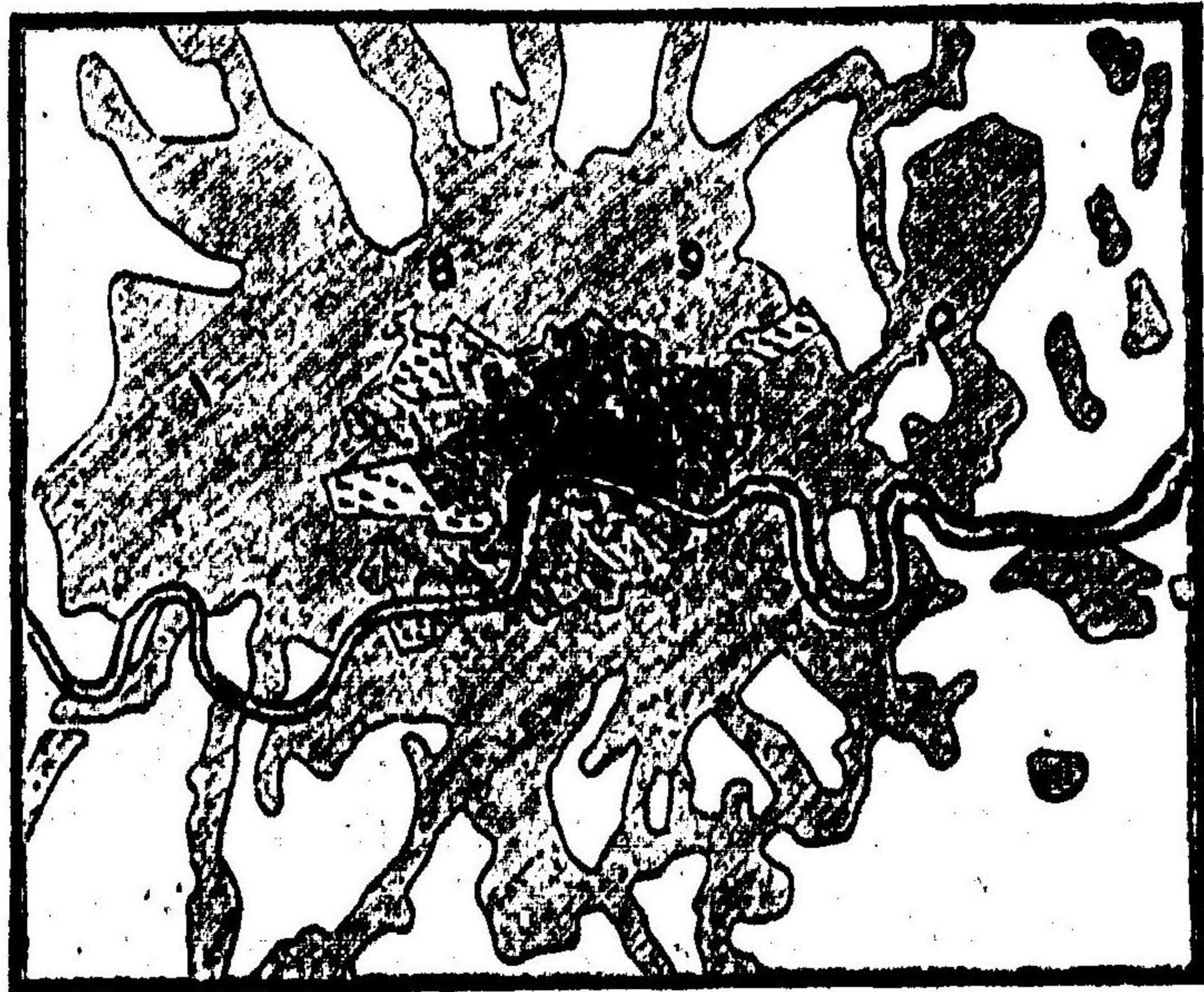
第五圖 ロンドン圖 (上下兩圖均同)

が實際今から一千八百五十餘年前ローマ人の居つた時代などには此處は僅かにテムズ河の左岸にある城郭を回らした一つの小さい町であつたに過ぎぬ。それが今では膨脹に膨脹を重ねて附近の郊外までも含めて人口は約七百二十二萬といふ、世界一の大都となつた。かくて之をグレート・ロンドンといふ。其の町々を徒歩で歩き回ると晝夜兼行でも一年以上もかかり町々の長さを延して見るとロンドンから歐亞兩大陸を横斷して我が東京に達する位もあるといふ。従つて市民も國內のスコットランド人やアイルランド人は無論の事ユダヤ人やフランス人やドイツ人やイタリア人や合衆國人などもなか／＼澤山住んでゐる。我々はこの最近三百年間の膨脹圖や數百年間の人口増加表などで幾分其の發達其の膨脹を知り得るのである。

ロンドン市人口増加表

一九〇〇	九〇,〇〇〇
一九〇一	一八〇,〇〇〇
一九〇二	三三〇,〇〇〇
一九〇三	五五〇,〇〇〇
一九〇四	六〇〇,〇〇〇
一九〇五	八六四,〇三五
一九〇六	一,一三七,五九〇
一九〇七	二,二六二,二二六
一九〇八	三,二五四,二六〇
一九〇九	四,五三六,五四一
一九一〇	市 四,七五八,二一八
	市外 二,四九九,七三三

ロンドン市人口増加表



塔橋

ある。此の河の幅は、我が東京の隅田川よりも餘程廣く、それに石造の大きな橋梁が、澤山架つてゐるが、なかに「タワー橋」などは、最も有名なもので、一番河下にあるから、橋の構造は大流船の通り抜けに、支那のないやうになつてゐる。税關も此の橋をくゞつて、すぐ左岸にある。此の橋の改築は、今から二十餘年前に起工したものだ、が一日に三百乃至五百人の工夫を使役し、竣工までには、前後八年の巨額を費したさうな。此の大都會で、最も必要な處は三つで、ウエストエンド、イーストエンド、シチー、即ち是である。島村氏の記事によれば、シチーといへば、ロンドンでの中央の一區で、東京の日本橋といつたやうな處、實業の中心地、富の生産所である。ウエストエンドは、京橋から麹町にかけて、榮華と權勢とを集めた土地で、富の消費所ともいふべき處。イーストエンドは、之に反して貧民窟の別名となつてゐる。

レナーは商業上の重要機関のある處で有名な英蘭銀行もあれば株式取引所もある。其のロンドンビルやロムバードなどの界限には銀行の敷居も多く株式取引所の附近ではよくてぶく肥つた英服の紳商などを見かける。是等の人々のなかには遠く南米の鐵道や南アメリカの金剛石採掘や澳洲の牧畜業など世界的事業に投資してゐるものも少なくない。世界の金融の中心市場ともいふべき此の邊の日の混雑は實に大したものゝで千百の車馬がぎつしり往來をふさぐ事もあるが前にも言つた通り流石は秩序を守る英人巡査の一舉手によりて道過し整然として一糸亂れずの趣がある。晝はこんな繁盛な處も夜は番人の外居らぬほどの寂寥境に變ずる。これは異様に感ぜらるゝのであるが此處に事務を取つてゐる人は大概郊外の住宅から通ふからて従つて朝夕の往來は難渋甚くべきものである。此處への通路にあた



(ロンドン橋の多き見よ)

つてはロンドン橋などは通行人が一時間に徒歩者八千人車でゆくものが千人餘。だから其の音が遠雷のやうに聞える。此の橋の創設は遠く八百十餘年の昔でもとは木造で欄干に彈人の首など懸したものだ。今のは七十餘年前に出来たもの。其の費用千萬磅毎夜電燈の光眩ゆきほどである。其の上に此頃はまた橋幅を廣げてをる。朝夕の賑はたこのロンドン橋ばかりでなく各停車場も同じである。英蘭銀行は實に一千六百九十四年

の建立で世界一の銀行として知られてゐるが其の建築は極めてじみな灰色の石造の平屋である。しかし土一升金一升ともいふべきロンドンの中に一萬坪の敷地を有し約千人の使用人が日々出入する事だても金融や造幣などの仕事のいかに盛大なるか分る。銀行内には各國古來の貨幣陳列場などもある。日々各國の貨幣の相場を調べ之を各國に電信するなども實に目のまはるほど忙しいもの其の入口に天鵝絨の朝子を被り真赤な外袍を着て手には棒を持てる番人の立つてゐるなどはどう見ても一幅の歴史畫である。

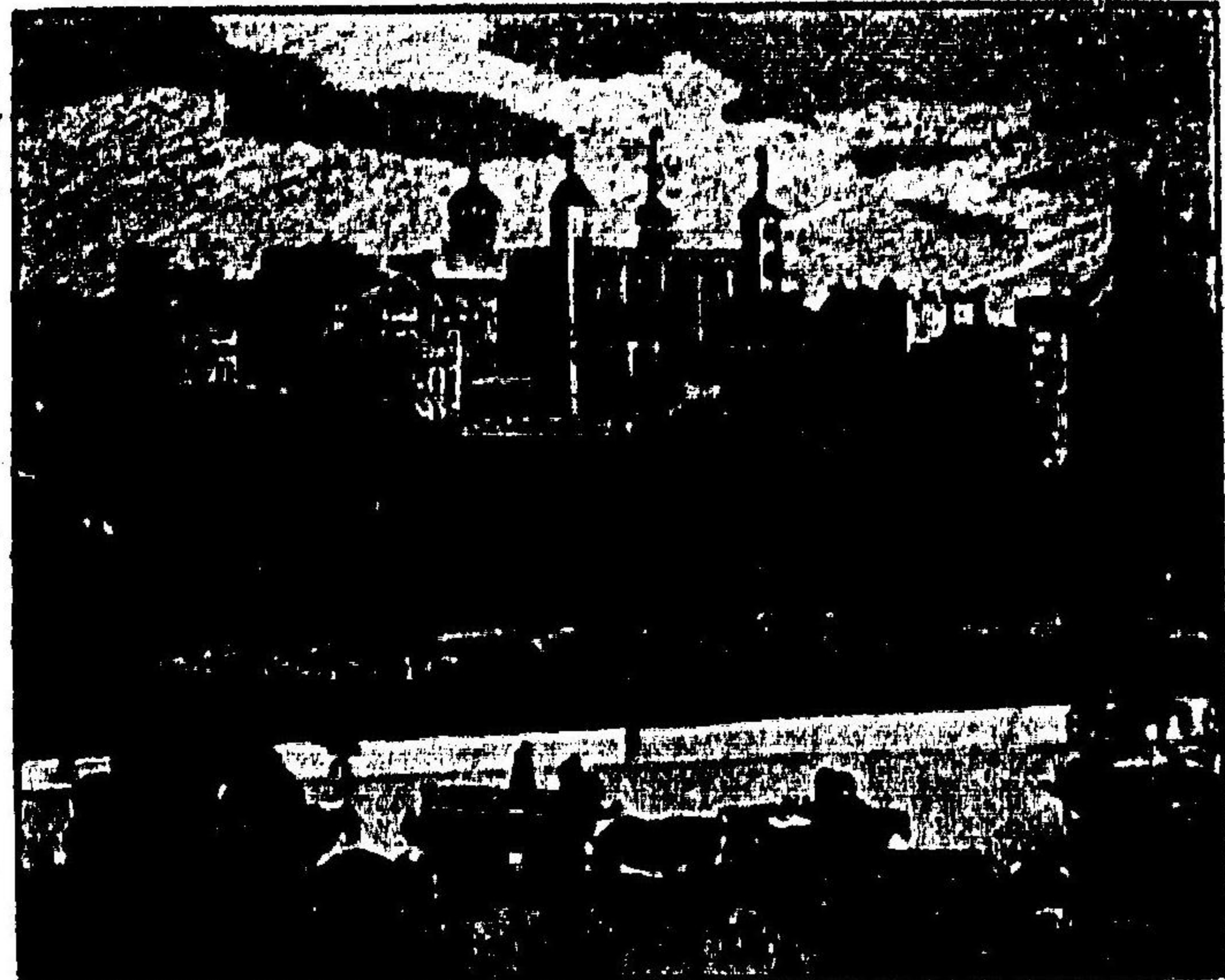
英蘭銀行の西方五六町の處には、ムーアゲート街といふのがあつた。此の邊はもとローマ時代のロンドン市の境ムーアゲート即ち沼の門といふ名はこれから先が一面の沼地で其處に城市があつたからだといふ。此の大通の片側には當時の城壁の墟の長さ五六間のが残つてゐる。

此の外シナチには十字軍時代の教會の礎も見られそれに従軍した勇士のをつた殿堂もある。英蘭銀行の向の市長の官邸のある處なども古の關門のあとださうな。かく此の附近は歴史家や詩人の感興をひく處が少なくない。

セントポール寺は英蘭銀行の西方數町にある。これはロンドンに於ける最古の寺院其の建立は實に一千二百九十餘年前外觀の高くて大きなばかりでなく半圓形の屋蓋が黄金の光眩ゆく燦爛と輝いてゐるので一見人をして崇高の念を起させる。内に入れば内壁には繪畫や彫刻や嵌り細工などが處狭きまでに懸けられてゐる。此處の客には我が婿國神社のやうに古代からの軍事上の功臣を國葬する事になつてゐるので、ネルソンやウェリントンなども葬られてゐる。又二十個の時計のうち一番大きなのに一千七百十六年リチャードフィリス

之を造れりとの銘を刻んであるが此の鐘は深くそして沈んだ調子で、
 年中時を報じてをる。廣い／＼此の市中から郊外にも響き渡る其の
 音はげに市民の心を喚び開す一種の妙音であらう。毎年除夜には市
 民は大概此處に集まつてこの鐘の音を聞いて除夜をなし新年を祝す
 るとは保守的な英人の特色をあらはしてゐる。

ロンドン塔はテムズ河の左岸に立つてをる。今は一部は兵營一
 部は武器博物館になつてをるが其の建築は八百餘年前ノルマン人の
 侵入して来た時に城砦として建築したもの白塔は即ち其の牙城とも
 いふべきもので當時の匠グンドルフ氏の手に成つたものだといふ。
 昔は此處の或室で罪人や謀叛人などを殺したさうで貴族の首を斬つ
 た并などは今でも残つてをる。陰気な足等の部屋を見ると當時の光
 景が目にあたりに浮んで来て身の毛もよだつ思ひがする。所が外の



ロンドン塔
 ロンドン塔の
 歴史は英國
 の歴史を前じ
 詰めたもので
 ある。過去と
 いふ怪しき物
 を脱へる月輪
 が自つと照
 けて塔中の幽
 光を二十世紀
 の上に反射す
 るものはロ
 ンドン塔であ
 る。(夏目氏
 『塔城物語』)

部屋には鐘構内の硝子箱
 に先帝ザイクトリア女王の
 冠や寶石類などを飾つて
 ある。この王冠には三千
 の金剛石を付けてあるが
 そのうち一番大きなコヒ
 ムールの真物は今は皇室
 に納められ此處のは模造
 品である。我々はこの塔
 の前後の光景を對照して
 實に英國の光明面と闇黒
 面の歴史を面にあたり見

る心地がする。

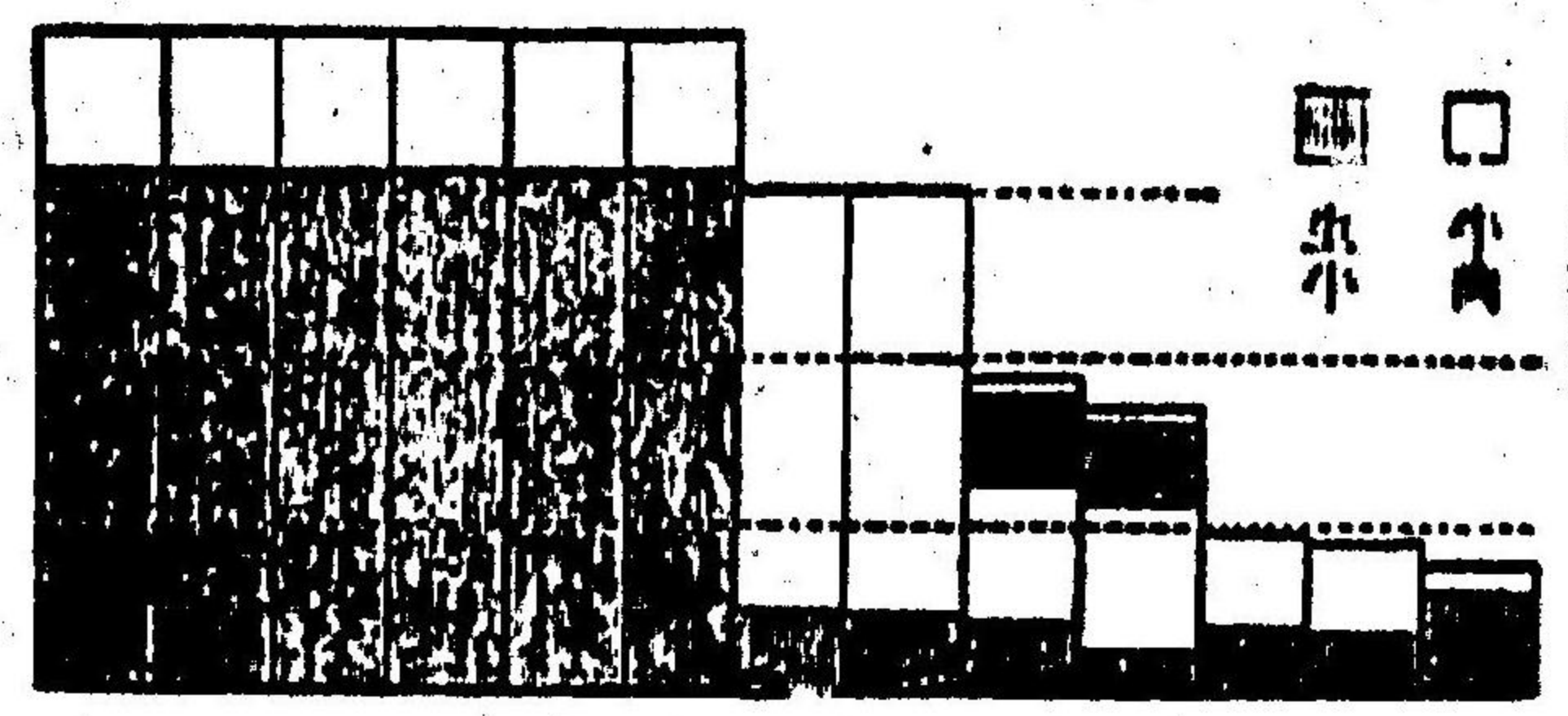
夏目氏は其作「ロンドン塔」に、古來生きながら葬られる幾千の罪人の舟で運送されて来る事や、蓋の裏に、目に餘る多くの人を幽閉した血塔の事などを、自分の感想を込めて目のあたりに見るやうに書いてある。其中、白塔に就いては次の如くいつて居る。白塔は塔中の尤も古きもので、昔の天主である。壁二十間、横十八間、高さ十五間、壁の厚さ一丈五尺、四方に角柱が登り、所々にローマン時代の鉄風さへ見へる。千三百九十九年、國民が三十三ヶ條の非を擧げて、リチャード二世に讓位をせよと求めたのは、此塔中である。僧侶貴族武士法士の前に立つて、彼が天下に向つて讓位を宣告したのは、此塔中である。爾時讓りを受けたるヘンリーは、起つて十字を額と胸に畫して、父と子と聖靈の名によつて我れ、ヘンリーは、此大英國の王冠と御代となわが正しき血脈がある御親愛なる友の授け歸りて御守受くと、俗世王の御命は何人も知る者がなかつた。其死體がセント、フラクト城より移されて、セント・ゲイル等に葬られた時、二萬の群衆は、彼の屍を繞つて其并立せる前影に驚かされた。或はいふ、八人の刺客がリチャードを取替いた時、彼は一人の手より押を奪ひて、一人を斬り二人を倒した。去れども、メグスタウンが背後より下せる一騎の爲めに、遂に恨を呑んで死なれたと、或る者は天を仰いでいふ、あらず、リチャードは斯食をして自らと命の恨をたてられたのだと、何れにしても、疑有くない。帝王の聖體は、悲憤の歴史である。

の跡など、なかくよく書いてある。曰く
ロンドン塔の歴史は、ウィリアム塔の歴史であつて、ウィリアム塔の歴史は、必勝の歴史である。十四世紀の後半に、エドワード三世の建立にかゝる此三層塔の二階に入らるものは、此の入るの瞬間に於て、百代の遺恨を結晶したる無数の記念を、周囲の壁の上に認むるであらう。凡ての恨、凡ての憤、凡ての憂と悲とは、此塔此塔此塔と悲の極端より生ずる感情と共に、九十一種の題辭となつて、今に讀する者の心を驚かしめて居る。

(夏目氏「運命」)

此のロンドン塔の東方十町ばかりの處には、ロンドン船渠を始とし、
COMMERCIAL DOCKS 船渠や、東イギリス船渠や、西インド船渠など、いふのが、滑山
あつて、何れもチームスに沿ふてゐる。ロンドン港とは、河口のロンドン
一島から遡つて、是等の船渠のある邊は、勿論、更にロンドン橋のある邊
までを含めていふので、諸外國からの大洋通ひの大船は、皆是等の船
渠近くまで進入してくる。外國からくる大汽船のなかには、数千匹の
牛や羊の、モーグーグーやつてゐるのを載せて来るのもあれば、牛

世界生牛及牛肉輸入額
國別比較圖



や羊の生肉を冷蔵庫に入れて来るものもある。これは遙々澳洲や北米合衆國から来るのであるが又出船には綿織物や毛織物や鐵工品などを積込んで世界の各國さては世界の全面に散在する此の國の殖民地に送るのである。

ウエストミンスター 即ち西ロンドンは處々には廣い美しい公園があつて此處には現皇帝エドワード七世の居城たるバッキンガム王宮も皇族や華族の邸宅も其の他種々の官衙などもあつて實にロンドンの文藝及び趣味の中心である。この西ロンドンで最も人の感興を引くものは

ウエストミンスター寺 である。これは誰も知つ

てる如く英國の王家や有名な軍人や科擧者や詩人などの墓地である。始めは王や王妃の墓地として設計せられたものだが後には一國の偉人傑士とも此處に葬つて其の偉功を彰表する事になつた。現皇帝の戴冠式も去明治三十五年八月九日此に舉行せられた。實に此の神聖なる寺は一千有餘年間に於ける英國民の光榮と品位との結晶である。

聖堂や大不列顛國皇帝廟附下の風景は來れり。其形相も我邦の神廟に因縁を結へたるが如く全部金色にして聖白の駿馬八頭何れも瑞珞を懸け盛裝を凝して之を曳き堂中には兩階下純白の式服を着し龍鳳徽象を含み給へて絶えず群衆に御會禮あり。兩階の儀仗兵は一層に銃を掛け直立正視して動かさざると石像の如く何處となく神護正の明狀起りて幾十萬の群衆を驚く無畏の氣に打たれ感極りて涙を流るものあるに至れり。

(小笠原長生氏談英日誌)

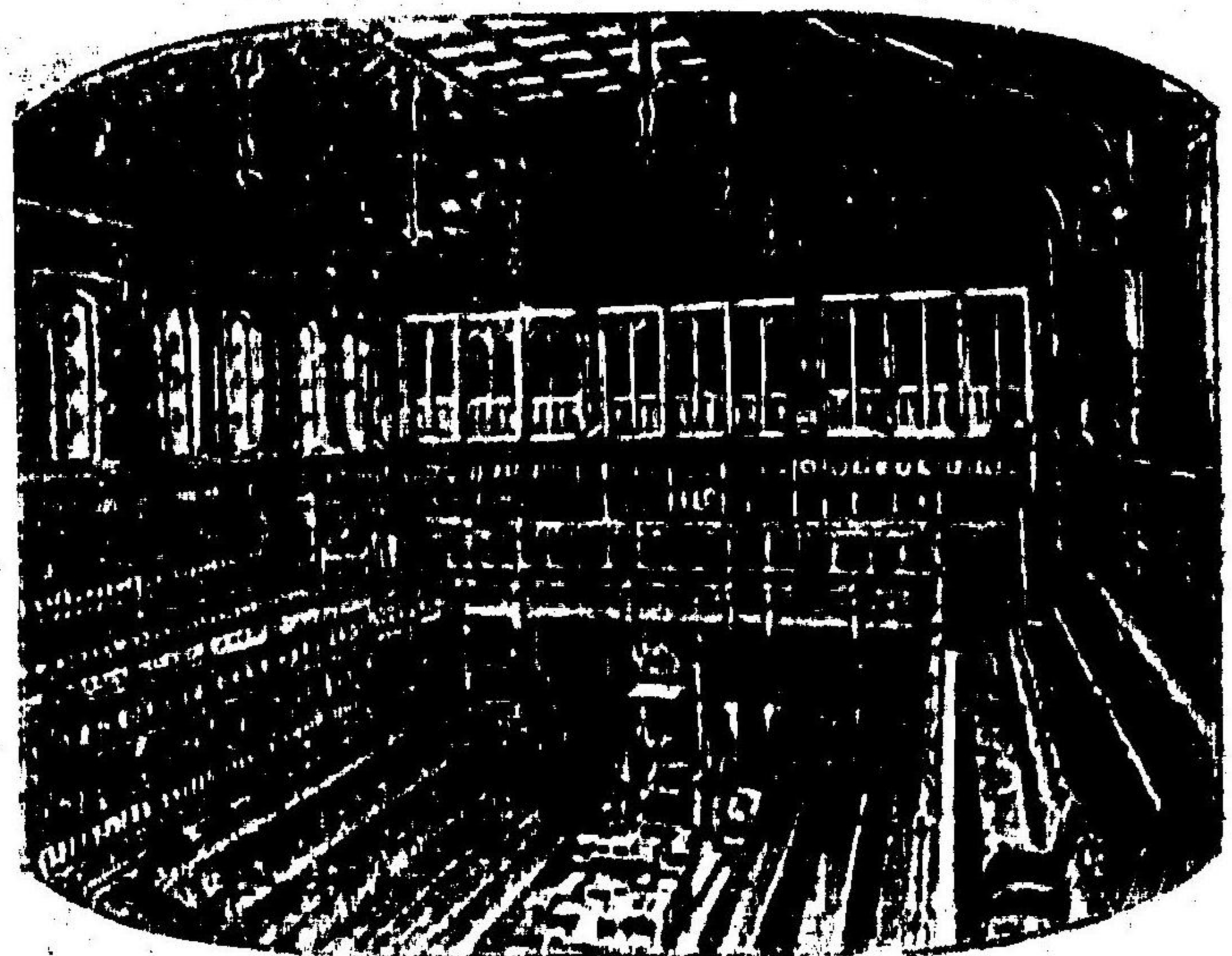
なかに還入つて見ると始は其の薄暗い陰氣なのにいやな威を起すが一たび偉人の墓碑銘を讀んだり故人の半身像や肖像などに對すると忽ち崇敬渴仰の情湧き起るのである。さきに陰氣な庵室と見た

とは、確かに其の生涯の行動の反影とも見られやう。此の寺に就いては、我々がかの米國の詩人アーザンダのものした「ウエストミンスター・アベ」の邸宅に想到せざるを得ないのである。其の中に曰く

……是より吾は詩人墓地に赴きて鐘時をか過しぬ。詩人墓地は寺の十字形堂の一翼を占む。この所にある紀念碑は何れも大抵質素なるものか……されど是等紀念碑の質素なるにもかかわらず、この寺院に參拜するものは何れも皆彼等のほとりに最も長く足を留めざるものとなきなり。蓋し、かの英倫東部の壯麗なる碑石に對するに當りては、單に冷やかなる好奇心までは流然たる欣賞の念の僅すのみなるに反し、愛には一種親しく温かなる感情の催すが爲なるべし。彼等が詩人の墓のほとりに足を留むるは、尙ほ知己朋友の墓のほとりに足を留むるが如し、例となれば讀者と讀者との間には一種親愛の心地あればなり。

（後野天竺スチヂヤナリ）

當國の國會議事堂は世界の立憲政治の開祖ともいふべきもので、此のアーベの東方テームスの左岸に沿うて立つてゐる。多くの尖塔や塔や堡壘などで飾られたゴシック式の大建築である。其の面積八



下院の内部

議員の演説は、衆議院に對してなつて居るので、相手が三、四人程に對して、必ずしも呼ばれて呼ぶ必要はない。然るに、此の兩院のうち、下院の議員は總數六百七十人もあるのに、坐席は四百六十七。だから悉數出席する時は立つてをる人もある。議長席は正面の一段高い

一カ一節ち我が千百餘坪に廣がつて、十一個の廣間や圖書室、食堂など殆ど一千百餘の室をもつてをる。かく廣間が多いので、議事室の方は豫想外に狭い。此の兩院のうち、下院の議員は總數六百七十人もあるのに、坐席は四百六十七。だから悉數出席する時は立つてをる人もある。議長席は正面の一段高い

處にあるが其の真直にはテーブルが一行にならべられ、テーブルの右と左には長椅子が何重にも列べられて、右の方は政府黨で左の方は反對黨といふやうになつてゐる。かの有名なピットと福克斯とが大演説をなし、グランドストーンとマスレリーとが、口角泡を飛ばして議論した光景を想像すると、深き感銘と大なる奮勵とを得るのである。杉村氏の「大英遊記」の記事は、最もよく其の光景をいひあらはしてゐる。

……流石に英國一旗の秩序は整然として一糸亂れず立つて居る。此の小さい敷きしい廳場に之ほどの多人衆が押し詰つて居ながら、我が邦の議會の様にざわ／＼した所は一點もない。取替する者は極めて整な儀うして居る。立ち歩く者は瓜先だけを露み出めて歩く。廳場に入入する者は出入毎に必ず帽子に軽く手をかけて議長の方に黙禮する……

上院の様子も大概同じであるが、数段高い處にある金を鑲めた玉坐は、人をして覺えず襟を正しくさせる。兩院の間にある中央堂は、重い寺院のやうで、高い天井も、燈も器具も、みな古風な木彫である。壁には歴

代の宰相名臣の彫像、大輻の歴史畫などを懸けてあるから、此處に會する人此處を観る人は、誰でもその祖先の尊き清き功業に聯想して、奮勵努力の念を起さぬものがあるまい。議會開會中は高さ三十三呎餘のヴィクトリア塔上に國旗を懸かし、夜には北西隅の時計塔に火を點する議長と書記官とが古風な赤い服裝をするなどは、これも亦當國人の保守的な特性をあらはしてをる。

英國人は保守だと評せられるが、併し我邦の保守ではない。聰明な保守である。保守と進歩とよく調和してゆく所に、此の國の妙味がある。火道の上は十八世紀式の飛介馬車で、下は二十世紀式の電車鐵道が走り、夜は瓦斯燈と電燈と中々に町を照す。箇の中の教訓を味はないで英國を、歐羅巴の文那となりはすまいかなといふのは、まだ／＼近らぬ考である。

ラムベス宮 LABETH は、テームス河を隔て、議事堂の東南にあつて相對してをる。古來カンターベリー大僧正の居宅で、其の最古の一部は十三世

紀の中頃に出来たものである。此の宮中で最も古くもしろいのは、ロ
 ルツ塔である。此の人は當國の初期の改革者ソイヤランの門下であ
 ったが此の名が塔にのこつてゐる所を見ると是等の仲間が此處に囚は
 れ、此處で殺されたものがあるからであらう。塔の壁には彼等を繋い
 だといはれる八つの大きな輪がのこつてゐる。

公園にはハイド・リーゼン・グリーセンセントゼー・ムスなどいふのが
 あるが、ハイド・パークは最も有名なもので其の西方にはケンシントン
 公園が續いてゐる。天鵝絨のやうな芝生の彼方此方には大木の森
 も見受けられ、絨毯のやうな花園もつくられてゐる。此のパークのな
 かを通つてゐる「ロタンロー」といふ通には、日々盛装した紳士貴族や青
 年男女が或は馬車に或は馬に乗りながら散歩する。馬に乗つて散歩
 する事は公園ばかりではない、男女共遊樂する事が珍らしくない。又



ロンドン一歩の歩

園内のサーペンタイン池は毎日午前
 は八時前午後八時過に入浴する事
 が出来ゝるやうになつてゐる。日曜な
 どには此の池でボートを浮べて遊ぶ
 ものも多く小供等が玩具の舟を浮べ
 て遊ぶ事も盛んに行はれる。ケンシ
 ントンは至極閑靜で彼方此方にはこ
 んもりした大木が滴るばかりに緑を
 こらし其の西側にあるケンシントン
 宮殿には先帝の御遺物などを陳列し
 てゐる。又南側には先帝の皇婿アル
 バート公の立派な紀念碑と「ALBERT」

トホールといふ一萬内外の公衆を入
 入るに足る會堂がある。
 レーゼンツパークは動物園や植物園
 があるので知られてをる。動物園の
 動物の数は二千五百餘種で、上野の動
 物園の數六百餘種の四倍餘、其の内鳥
 類は二百餘種、濠洲、印度、南米などの
 のが多い。其の大仕掛な事は獅子窟
 は長さ二百三十呎に幅七十呎、鷓鴣窟
 には妙音で囀る九十餘種の鳥類がを
 る形てわかるであらう。又象や犀の
 窟にはアジアアフリカ兩大陸の種類



を網羅し、又他の一隅には日本の鹿なども養はれてある。なかには小
 供の遊歩場も出来てゐて、象などに乗つて遊ぶ事が出来る。植物園な
 ども帝國大學附屬の東京小石川のなどは比べものにもならぬ。
 プリマチアン・ミュージウム 即ち大英博物館は、レーゼンツパークの南東角
 どのロンドンの中央にある。此處は圖書部やローマ部や人類部などに
 別れてゐるが、圖書部の手帳室などには歴代の帝王や詩人や學者など
 の手帳を陳列してあるのが珍らしい。又圖書の數も二百萬冊を藏し
 て世界これに勝るものがない。だから昨年の夏頃一時修繕のため
 閉鎖したので、ロンドンの讀書子は大騒ぎであつたといふ。だから其
 の附近は學者や學生が寄宿して勉強するに都合よいやうに出来てゐ
 るが、夏季にはドイツや米國の學者がわざわざ此處の書籍を讀みに來
 る一帯でも其の價値は明かである。

ナウスケンセントン博物館 即ちウクトリア、セント、アルバート博物館
SOUTH KENSINGTON MUSEUM VICTORIA ALBERT MUSEUM
 館はケンシントン公園の南にあるが、二つに分れておつて一方は古來
 の諸美術品を集めた美術館なかにイタリアの有名な画家ラファエルの
 書いたキリスト一代記などがある。これは總て七圖で何れも二間
 に一間半といふ大幅とは驚くべき大作である。我々はこの天才の靈
 魂によりて實に大聖の靈光に浴する事を得たるを感服せざるを得な
 い。又一方の機械館の方には、汽船や汽機や電車や草機などの模
 型をならべてある。それには一々電氣を通してあつて函の閉の無を
 押すと直ぐ運轉を始めるやうになつてゐる。これは科學の智識を普
 及すべき社會教育の一大機關とも見る事が出来やう。この外有名な
 自然科學博物館には、諸生物の生活狀態を其のまゝ見られるやうにし
 てある。なほ地理博物館や天文博物館を始め、國民美術館や、ナット美
NATURAL HISTORY MUSEUM NATIONAL GALLERY TATE MUSEUM

術館など数へ来れば市中のものゝみても二十に近うとは盛んなもの
GALLERY
 て、それが普公衆の縦覽を許されるやうになつてゐる。
 ロンドンの交通機關 は、汽車馬車電車などで地下の電車は四通八達
 世界第一と云ふてもよゝ。市内の停車場は、オエムトレンクチャー、セント
ST. PATRICKS KINGS CROSS PAOULSTON LIVERPOOL STREET
 トレンクラス、キングスクロウ、パオウルストン、リヴァプール、セント、
PANAMA VICTORIA LONDON BRIDGE
 ヲクトリア、ロンドンブリヂ、等を始めとし、數十の多きに達してゐる。
 大きなのは、ステーションホテルといふものが出来てゐるので實に便
STATION HOTEL
 利である。かの歐洲大陸に往復する旅客の發着驛、チャーリントン、セント、
CHARLING CROSS STATION
 ステーションなどは、チームスの左岸、トラファルガルスクチャーの側にあ
TRAFALGAR SQUARE
 るが、其の建築は五階造りて二階から上はホテルだから便利なもの。
 このトラファルガルスクチャーは市内第一の奇麗な廣場で、其處には英國
 の東郷ともいふ入るネルソン將軍の記念碑が立つてゐる。此の紀念
NELSON

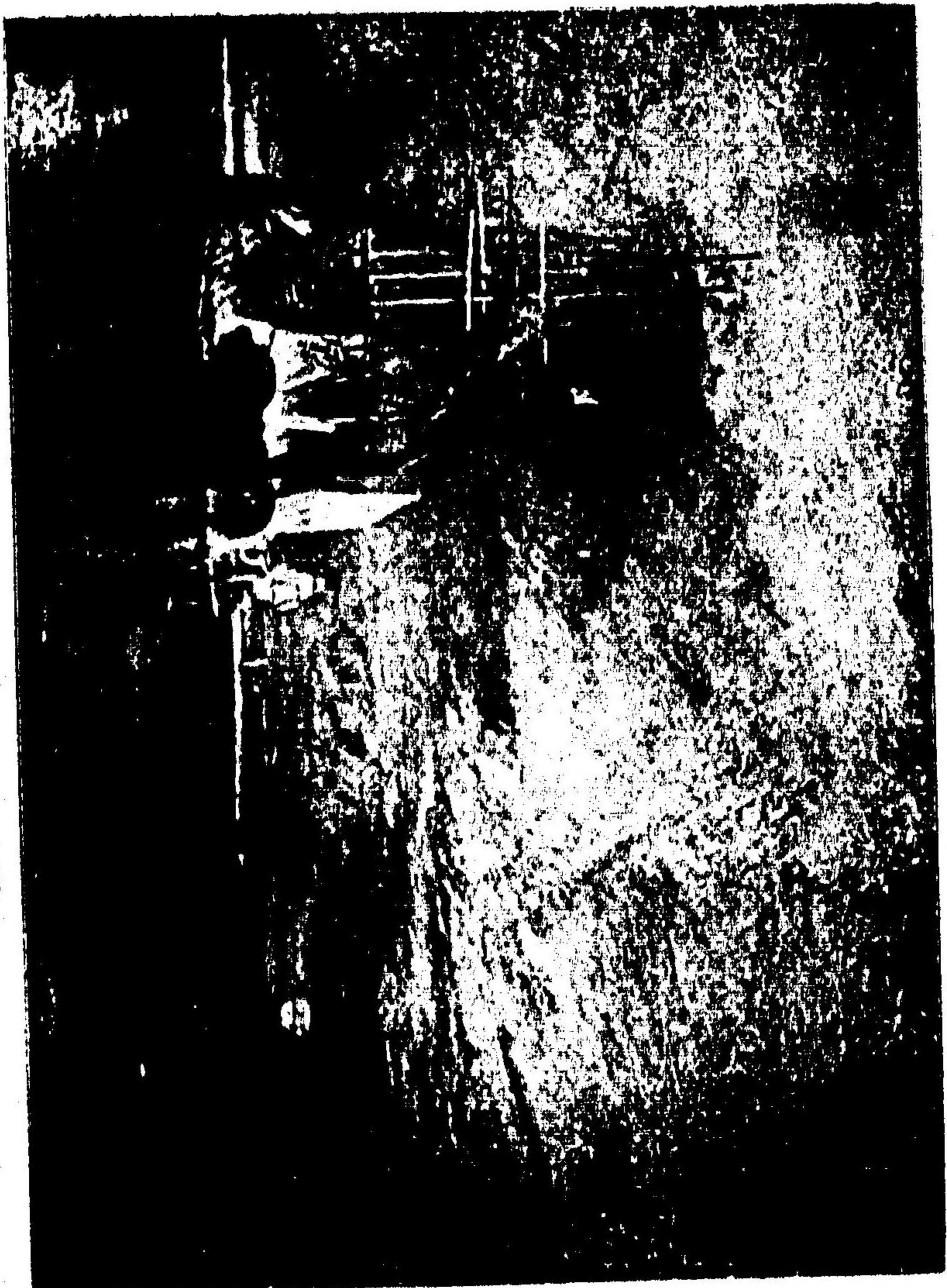


ワトソン・ストリート停車場

ロンドン市最
 南の大停車場
 にして其の
 位置、英海軍
 行の北東五六
 町の處にあり
 大東鐵道の終
 點にして二
 十餘の線路に
 により分岐す
 毎日汽車の往
 復するもの約
 千回、二階よ
 り上は所謂ス
 テーションホ
 テルなり。

碑の高さは實に十七呎、フラン
 スから分捕つた大砲で造つた
 もので方形の土臺の四面には、
 將軍一代の大事件の繪を刻ん
 である。南面は、トラフルガー
 に於けるネルソンの死で、ケッピ
 タン、ハーディーは將軍を擁して
 居り下には將軍の最後の命令
 'England expects every man will
 do his duty' 英國は各人其の本
 分を盡す事を誓む
 いてある。附近には立派なホ
 テルが多く有名なる國民美術

六〇



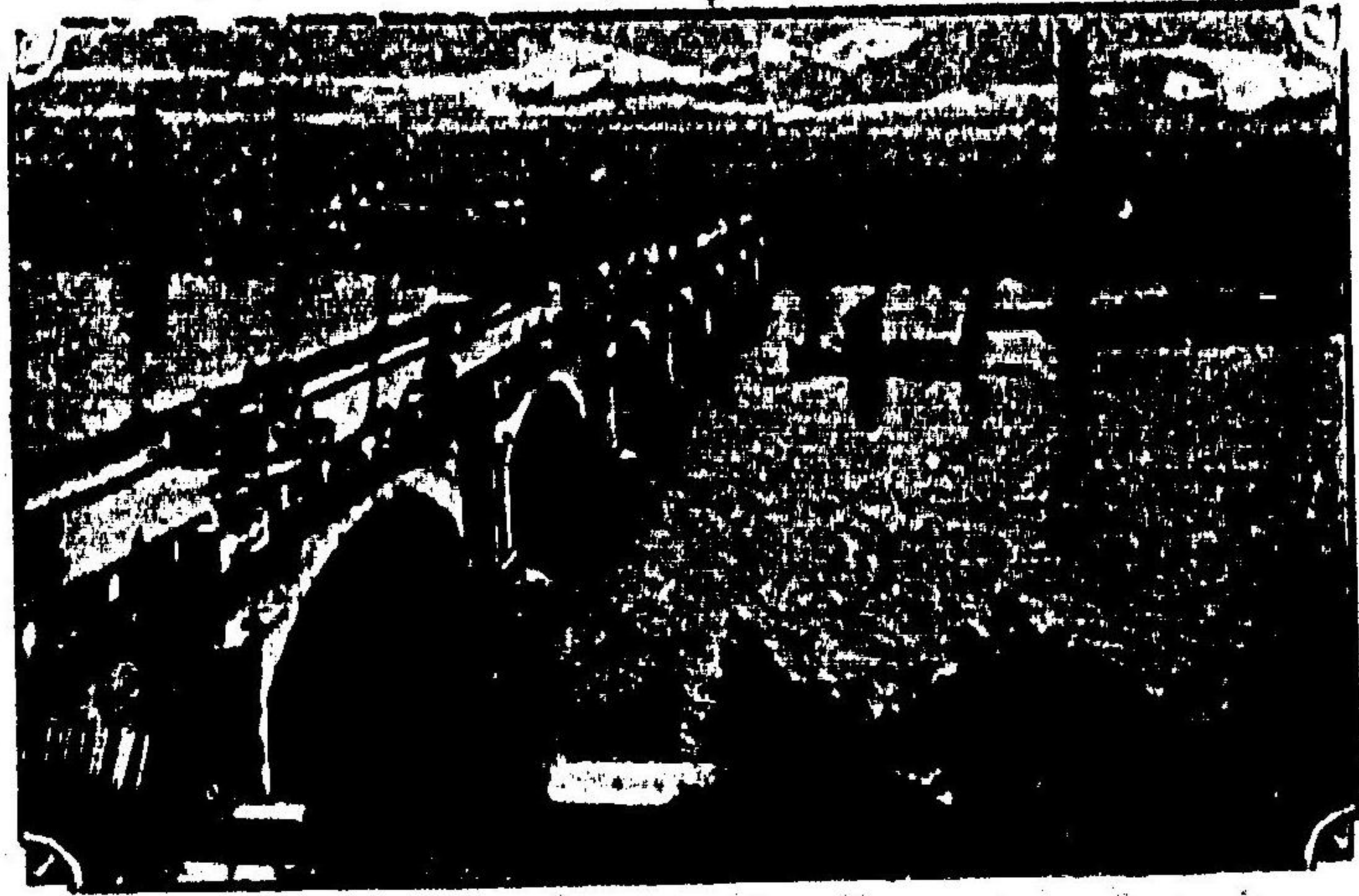
掘り進めたるあいつの穴

戦ひつゝあるナレメア號

ターナー 集(二七五—二八五)

ターナーは世界有名の風景畫家にして、最も海と空とを畫くに長ず、殊に熱烈なる自然の調子—嵐夕陽など、強き光線、色彩を畫くに長ず。此の畫は、往年當國の艦隊が、スペインのアルマダ艦隊と戦ひし折、力盡きて爆發せんとするナレメア號最後の光景を描きしもの、船の慘憺たる最後の運命と、痛烈なる頰き天空の色とは、相對照して、悲惨痛切なる感情をあらはせり。此の畫亦國民美術館に藏せらる。

館は其の北側にあつて、大正二十二
の中にはイタリア、オランダ、フランスの
スの外國は勿論、自國の大家の巨作
をも陳列してある。トラファルガー
といふのは、無論スペインとの大海
戰の地名を取つたので、この廣場を
かく名けたのも、又紀念碑も、當時の
ネルソン將軍の大功績を永久に紀
念せんがためである。汽車の外に
は、辻馬車もあれば、二階付の乗合馬
車もある。外に又チームスを上下
する小汽船もある。



イーストエンド 即ち東ロンドンは、シターの東方にある一區劃で、
 EAST END はロンドンの闊然面である貧民窟である。幾萬の貧民は此處に生
 息して殆どロンドンの罪惡の根柢ともいふべき處白晝では殺人が
 あるとは驚くべきではないか。たゞこの魔窟を幾分救済するものは、
 實にかの救世軍の力である。かの大將ブーム將軍夫妻の感化によつ
 て起つた此の宗教の力である。我々はブーム將軍の功績を一言する
 ことによりて、このイーストエンドがいかなる處であるかを説明し得
 ると思ふ。我が救世軍の驍將山室軍平氏は、其の著「ブーム大將傳」に於
 て、實に次のやうにいつてをる。

四十年前、倫敦者、ブームブームが東ロンドンの貧民窟に立ちて一人貧民を救はむと欲は
 唯天の父の命を長く「萬の種より小き」二枚の芥種を畑に播く者になつたのであ
 る。千八百六十五年即ち我慶應元年七月二日といふ日曜日、ブームの故郷と又救世軍の
 聖堂に取り、長く記念せらるべき日でありませぬ。此の日ブームは一二の有志の團に應じ、
 始めてロンドン東部の貧民窟に入り、肉と血を同其處にて神聖な事に事になつた
 る。そして彼の夫人は雄々しき決心を以て彼のこの大事業を助けたのである。

霧とロンドン 霧はロンドンの名物である。年中で多い時は十一月
 から十二月であるが、烈しい時には丸て黒雲で鎖されたやうになつて、
 手を出してもそれが見えぬ位になる。霧にはそれが一週間も続く事
 があるといふ。こんな時は白晝斷燈するは無論の事、處々に篝火を焚
 いたり、車馬の往來の危険をさくるためには、鐘を鳴らしたりする。そ
 れでも路を迷うて路傍で夜をあかし、馬車が乗客をのせたまゝて立往
 生する事が珍らしくない。「小刀で霧をさる」といふ語は實に霧のロン
 ドンを評した至言である。こんな時季には、ロンドンの上流社會の人
 達は田舎の本邸に歸るのであるが、又大陸に旅行した、南海のブライ

ロンドンの近郊

ト市や、イーストホーン町や、ワイト島などに遊びに行く者もあり、又遠く北方のスコットランドに狩にゆくものもある。狩と云へば、二番盛んに行はれるは狐狩ださうである。しかし四五月頃になると、駿かになつて六七月は一番よい時候、これが所謂シーズンで、ロンドンの社交の好期、娯樂の適時である。此の時期には、夜會や、晩餐會や、チームス河の舟遊や、郊外散歩などが盛んに行はれ、田舎の貴族などもみなロンドンにやつてくる。皇帝も皇后も、此の時期に謁見を賜はる事にまつてをるといふ。

ロンドンの近郊

ロンドンの近郊は、見るべく遊ぶべき處が多い。なかにも、誰れしも訪ふ處は、グリーンウィッチ天文臺であらう。此處は今、グレートロンドンの

うちに這入つてをるが、レナードよりは餘程離れてゐる。公園の中にあるこの天文臺は、本初子午線の出る處で、我が東京を東經約百三十九度といふのは、こゝを基として數へたもの。川岸の近くにある戦時病院の境内には、有名な海軍歴史博物館がある。流石は海軍國の事として、陳列品にはなかく、観るべきものが多い。なかにも、人目をひくのは、ネルソン將軍の遺物で、將軍の遺髪と、戦時着用された血痕點々たる軍服もある。其の外有名な海軍の大船や、海軍將校の肖像などをかけてある。世界の海上王ともいはる、當國の海軍士官を養成する海軍兵學校も、すぐ此のそばにある。此の邊からチームス河口に至る沿岸は、ロンドン人の散策地であるが、河口右岸のマーゲイトなどは、殊にロズンの好遊地として知られてをる。南郊の水晶宮も亦一名物である。これは五十餘年前に開かれた博覽



六八

此の壯麗なる
ゴシック式の
建築は、色々
ラス色大理石
石やアイアン
彫刻品等によ
り成り、其の
飾は、其の
の壯麗なるこ
と世界無比と
稱せらる。向
ふの四の入口
の左右に置か
れたる純白の
二大理石像
は、生と死と
を象徴せしめ
の、右方の石
棺の上には、
公の大理石像
安置せらる。
以て歐洲寺院
の内部を模範
し得べき。

公園には、先皇婚アルバート公のために建てた記念堂があるがこの會
堂の裝飾は實に善美を盡したもので、その墳墓の上には公の武裝せる
純白の大理石像が安置されてある。高い邱上に立つてゐるこの城上
の眺望は平遠にして近村遠郊悉く双眸の間に入り来る。其の静かな
る光景のうちには、處々瀟洒なる別荘の散見するなどは實に川合の平和
ともいふべき畫幅に對する心地がする。城下から小艇に乗りて、テ
ムスの流を上下しつゝ、沿岸の風光を探るなどはよくロンドン人の試
むる事である。かの有名なイトトン中學校はこの古城とチームス
を隔て、相對してをる。

中學と大學

當國の中學といへば誰しも指をイトトンとハローとに加するであ

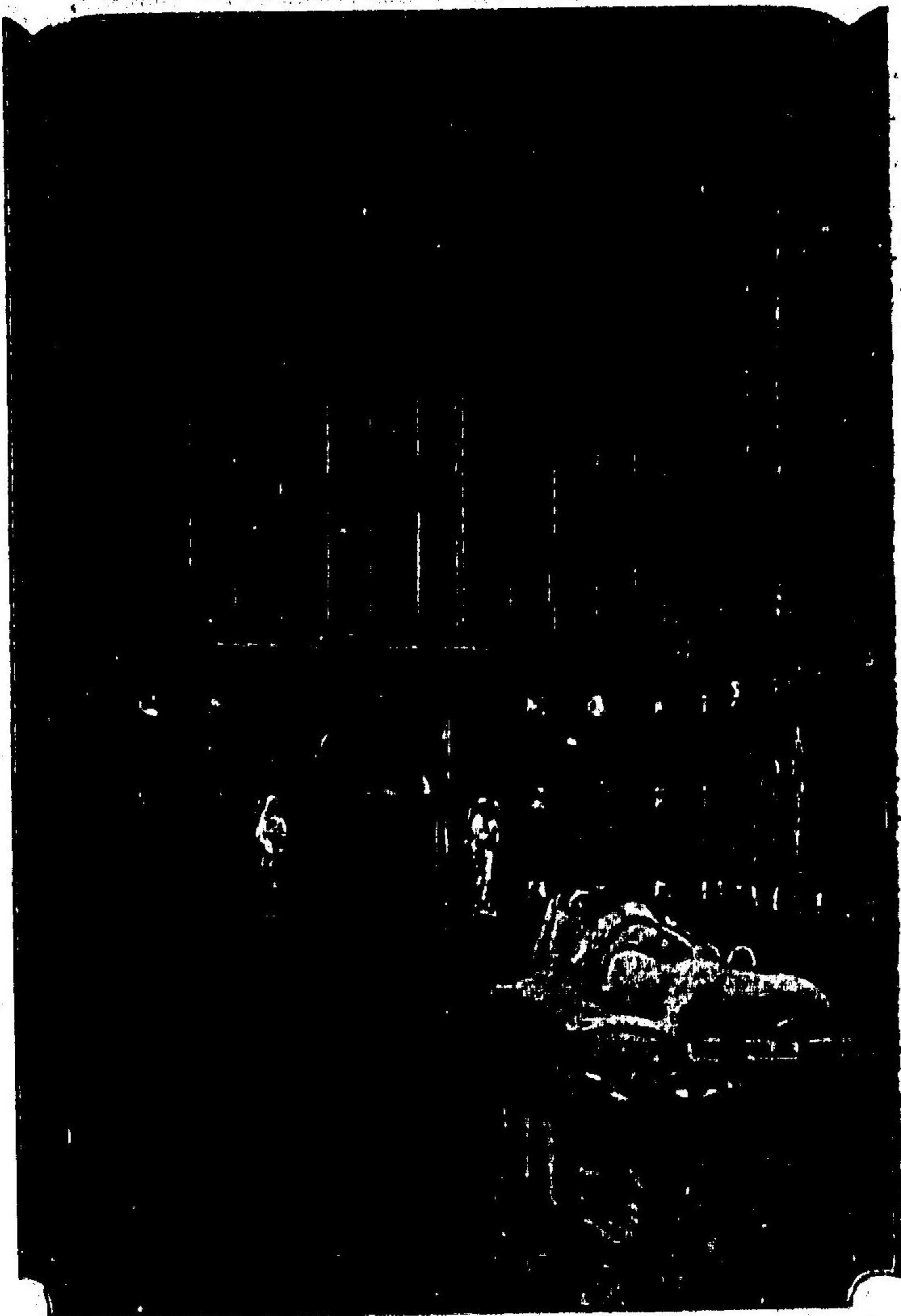
中學と大學

ETON

HARROW

大

高墳の公トーバルア爾英ホ



六八

此の壯麗なる
ゴシック式の
建築は、色々
フス色大理石
石で造られ、
彫刻品等によ
りて、力に満
ちた、其の
の壯麗なるこ
と世界無比と
稱せらる。向
ふの門の入口
の左右に置か
れたる純白の
二大理石像
は、生と死と
を象徴せしめ
の、有力の石
像の上には、
公の大理石像
安置せらる。
以て歐洲特異
の内部を概観
し得べき也。

公園には、先皇婿アルバート公のために建てた記念堂があるが、この會
堂の裝飾は實に善美を盡したもので、その墳墓の上には公の武裝せる
純白の大理石像が安置されてある。高い丘上に立つてゐるこの城上
の眺望は、平遠にして近村遠郊悉く双眸の間に入り来る。其の静かな
る光景のうち、庭々瀟洒なる別荘の散見するなどは實に田舎の平和
ともいふべき畫幅に對する心地がする。城下から小艇に乗りて、テ
ムスの流を上下しつゝ、沿岸の風光を探るなどは、よくロンドン人の試
むる事である。かの有名なるイートン中學校はこの古城とナームス
を隔て、相對してをる。

中學と大學

當國の中學といへば、雖しも指をイートンとナームスとに屈するであ
る。

中學と大學

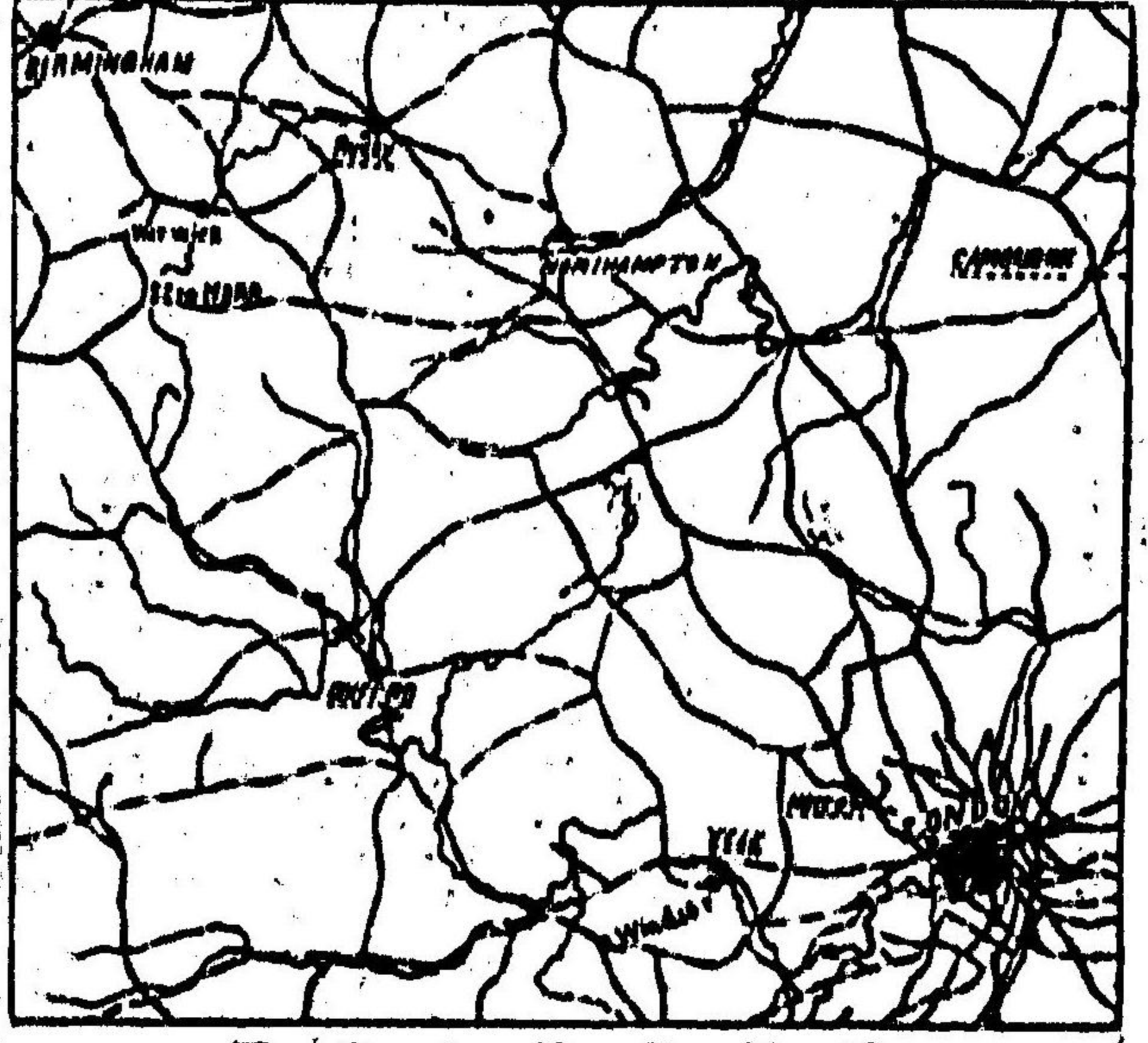
ETON

NAMORS

など

らう。これは我が國普通の中
 學とは違つて、いはゞ我が國
 院ともいふべきもの上流社會
 の子弟の學ぶ所である。しか
 し此の外の中學校とても何れ
 も歴史的に發達したものが多
 く、各々特色を持つてゐる。

イートン は、ロンドンの南西
 ETON 二十一哩にあつて、其の創立は
 實に紀元一千四百四十年時の
 國王ヘンリー六世が、ウインザ
 宮の所在地に建てたものだといふ。



圖市分校學要重
 地校學要重はるわ輪點に名地

生徒は十歳から十四歳のも

入學を許されるのであるが、兩親や後見人など、同居する者の外は、大
 概寄宿に入らねばならぬ。其の宿泊料は、一年に百五ポンド、即ち我が
 國の凡そ千五十圓餘を要するとは驚くべきではないか。こんな風に、
 創立以來五百五十餘年も経てゐるから、構内の一樹一石悉く歴史的紀
 念物ならざるはなくなかにも、在學者の名を刻んだ木の風などは、最も
 有名なものだ。これにはかの有名なグラドストーンの名さへ鮮かに見
 られるのである。此處に學んだ知名の人は、グラドストーンの外軍人
 ウェリントンや宗敎家福克斯や文人シェリーなどがある。此處の生徒
 はイートンボーイと稱し、イートンの學生なる事を明かにするため、
 十歳位の子供でも、シルクハットを冠り、黒いジャケットを着るといふ。
 ハーロー は、ロンドンから北西十一哩半の處にある。位置が二十哩
 内外の丘の上なので、ここをハーローケンゼルともいふ。構内で

の一番高い丘に、一つの寺院があるがこれは一千九十四年の建立で、十四世紀の中頃に改築されたもの、ゴシック式の尖塔が雲に聳えてをる。かの詩人バイロンは此の學校に學んでをつた頃、此の寺院のある墓碑BYRONに腰をかけて、その詩想を練つたといふ。參觀者は記念のためにとて、その墓碑の一片を取り去るので、今は鐵柵を圍らして保護してあるといふ。此の學校もイートンと同じく古いから昔を語る紀念物は少なくない。ハローの出口の横には、

此の處に於て、第七世シヤフ、ペリー伯爵SHAFESBURYはクーパーCOOPER貧民の葬式を觀てより、其の一生涯を貧民のために捧げたり。

と記した金屬の板などがさげられてある。校内の壁や戸や机などにも在學者の名があり、くと刻みつけられてある。こんな風になる處に、歴史的紀念物が獲つてゐるのが、學生を感化する力の最も大なるもの

である。學校の後方のヴォーガン圖書館にも學校出身で有名になつた人の肖像は勿論、バイロンの原稿を始め、他の名士の自筆や紀念物などをも保存してあるとは、床しい話ではないか。

此の二中學は何れも私立の寄宿學校であるから、學科の教授以外、歴史的紀念物が學生を感化するばかりでなく、食堂に於て教師と生徒とが談笑の間に食事を共にする事が、教育上非常な意味をもつてをる。古い嚴かな食堂で、壁間にある先輩の肖像を仰ぎながら食事するといふ事は實にいふべからざる味があるではないか。此の二校の外の中學でも有名なのは、大概私立で何れも歴史を有し特色をもつてをる。
セント・メアリー・チャーチ
CHESTER CHARTER HOUSE ST. PAULS
セント・ポール・カレッジ
RUGBY

圖を借りて新に眺めざるのみならず、或らに興きを許むの風を存し、時に學校若しくは公會

堂は成るべく寛きを貸しとす。廊下の石の磨耗して傾くも之を新たにする無く、静謐しき
 玉ゆれば其の益々多からん事を希ひ、能して古色蒼然たるを悦び、人に向ひて其の幾百年前
 の作なるを語り、以て誇るべきの第一となす。此點に於て正に我が舊藩時代の趣あり、秩序
 にして既に確立せば勢ひ斯の如くならざるを得ざらん。
 (三宅 啓氏「大塊」一頁)

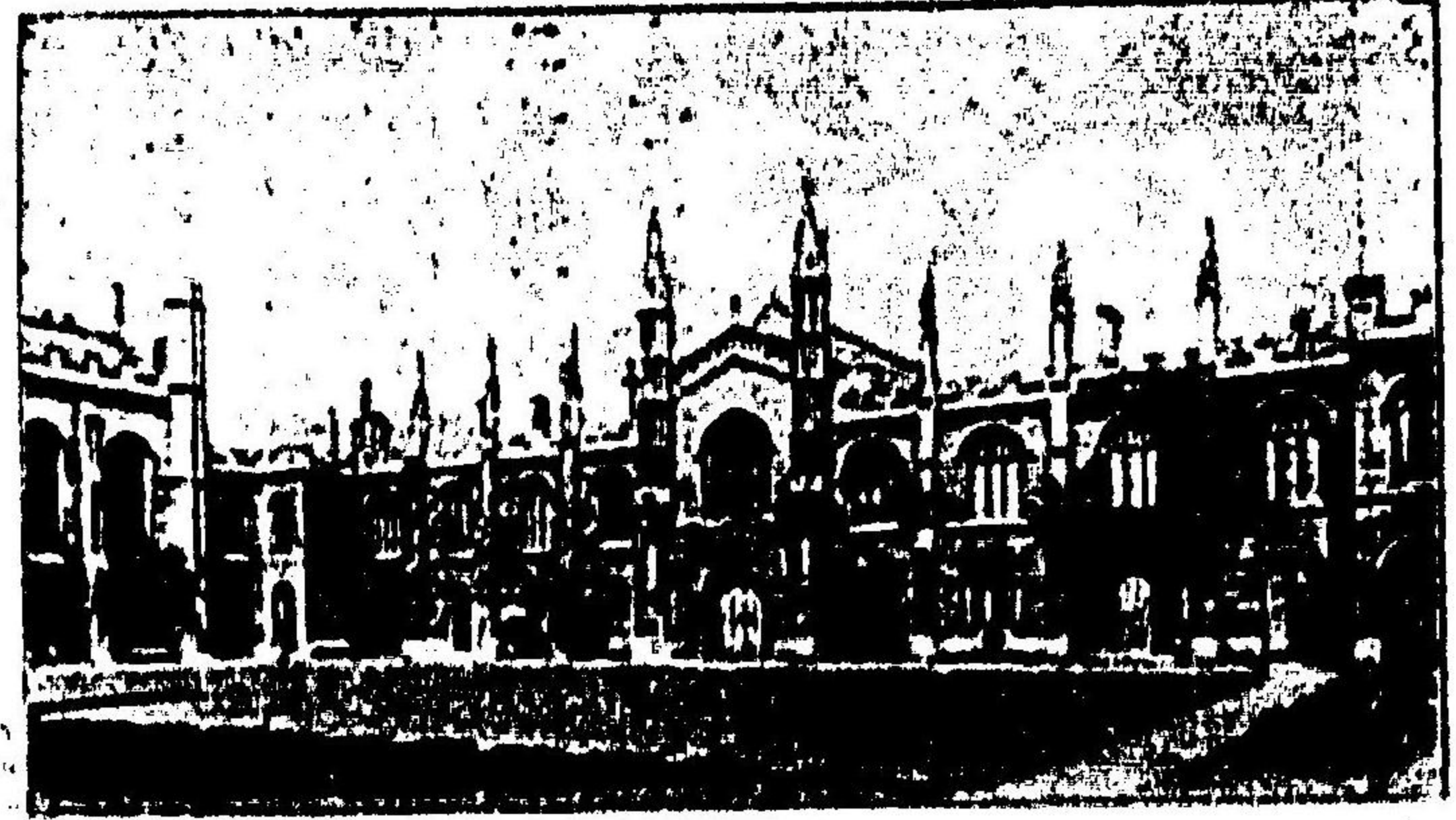
オックスフォードは、ロンドンの北西五十二哩、テムズの左岸に離んで



セントスドワ、ク

ナオ坊は最大にして宏壯其の食堂には、出身者の傑士偉人の畫像をか
 けてある。又、マクダレンオ坊は、最も風致に富み、庭内極めてひろく、マ
 GOWLEY COLLEGE

せる。此の大学の創建は、遠く紀元九百七
 十三年の昔にあつて、構内の廣い芝生のな
 かには、二十六の學坊があちらこちらに建
 つてをる。是等の學坊は、即ち寄宿會で何
 れも各々の歴史を有し、特色を持つてとつ
 て、グラドストーンのをつたクリストチャー



グレンカチスリクスパーのナリ、アック

此のコレ、テムズ河畔に連する牧場もあれば、
 アは、オックスフォードのナリ、アック
 形の前庭を有し、其の北方には、昔の
 面影を存する古きオールドコートといふ
 あり、窓の周圍の黒き石の何れも、何れ
 へるなり。
 此のコレ、テムズ河畔に連する牧場もあれば、
 選しい老木の木立繁れる公園もあ
 る。なかには、英國最大の老樹とい
 はれる榎の木もあるといふ。萬に
 細はれてをる方形の此の學坊は、是
 等の風物を前に眺めながら立つて
 をる。毎月五日の早朝には、學生が
 打揃うてこの塔上で五六の讚美歌
 を歌ふ事が、ヘンリー七世時代から
 の例になつてをる。この床しい儀
 式に列する學生は何れも、四角な朝
 子をかぶつて、長い黒い外套を纏つ

てゐるのであるが、かの博士ジョンソンも、シェリーも、クラフトストーンも、みなこの學生服で、壯麗な儀式に列した事であらう。

ケンブリッジ大學は、ロンドンの北方五十八哩ワウチン湖に注ぐオーセ河の左岸に臨んでゐる。其の建設はオクスフォードより少し後れて十二世紀十九の學坊から出来てゐる。構内が廣くて歴史的の遺物に富んでゐる事は、決してオクスフォードに劣らない。其のクライムズカンパ



デには詩人ミルトンの手植の樹木、TRINITY COLLEGE MELTON ナーカレッジには理學者ニュートンの觀測所の遺跡、STONEY COLLEGE NEWTON ニューカレッジには英雄クロウナルが起臥したといふ部屋さへ残つてゐる。又ケンブリッジの謙遜徳義名譽の三大門は、TRINITY COLLEGE MELTON 上の好考品として知られてゐる。

此の二大學は、建築に於ても、宏大殆ど世界無比というても差支ないほどのもので、カレッジの建物は、凡て正方形の石造二階層、其の中間の廣い事は、優にペーヌホールが出来る位、古い建築は、中世紀の寺院に倣つたものである。が新築のものも同じ型にするなどは、保守的な當國人の特性をあらはしてゐる。此の二大學のうちで前者は古典科後者は數学科といふ特長はあるが、主なる目的は、共に品性の陶冶品格の養成にある。所謂セントルマンを



セントルマンの火祭りの様子

養成するにある。これは大陸殊にドイツの大學などで智識の修得學術の研究に重きを置くのと大に趣を異にしてをる。又ボート・クリケット・フットボールなどの諸種の競技が品性の陶冶精神の鍛錬の具たる事は中學も大學も同じ事である。この二大學のボート競漕などは世界の大問題となる程である。カレッジとカレッジとの競技でも随分熱心になるが勝敗の決した時は全く光風霽月の趣あるは床しい事である。かのウエリントン公が後にウエリントン王宮に來



てイートン中學を見下しながらウエリントン公の親睦は實に此のイートンの運動場て出來たのであると言つたさうな。これはこの學校の運動で假へた當國の上流社會の精神が軍隊の規律を保ち以てナポレ

オンに勝たのであるといふ意味であらう。

イギリス海峡の沿岸

此の海峡沿岸は當國の南端である。暖流の御陰で氣候暖かに大陸への距離もあまり遠くないので昔から往來繁くドーヴァーやポーツマスやサザムプトンやプリマスなどいふ諸港が出來て通商上交通上軍事上何れも重要な位置を占めてをる。又ブライトンやイーストボーンなど避暑遊藝の好適地である。

ドーヴァーはイギリス海峡中一番狭いドーヴァー海峡の北岸にある港で佛國のカレーと烟火相望んでをる。其の間は僅かに十一哩で航程は一時間またベルギーのオランダへは四時間だといふ。しかし潮流が急だから航海頗る困難殊に冬期の風波烈しい時は折々渡航の杜



イーストモントンの海軍

絶する事もある。灰色の崖の谷間にある此のドーヴァーは要害のいゝ位置にあるので、要塞も守備兵も置かれてある。近年佛國との間に陸道開鑿の計畫があつたが、英國が賛成せぬので、矢張り渡船の便利を謀る事にきめたといふ。此の町の東方にある一古城は昔のローマ人が侵入した頃に建てられたものである。ローマ人といへば、かのシーザーの此の國に攻め入つた頃は、この海峡もまだ橋で渡れる位であつたといふ。

PORTSMOUTH はドーヴァーの南西にあたり、

り、附にワイト島を控へてをる。當國主要の海軍根據地である。此處にはネルソン將軍の船頭には、ネルソンの遺骸を運んだ短艇を掲げ、上甲板後部の中央には千八百五十年十月二十五日、ネルソン提督ここに仆ると記した方五寸の真鍮板を打ちつけてある。又下甲板の倉庫内の一室の壁間には一枚の鐵板を吊して之に「ネルソンの最期の一句を題してある。ア、此の薄暗い一室！これが實に敬虔なる將軍が臨終に吾本分を盡せり之を上帝に感謝す。吾今本分を盡せり。是によつて上帝を讃美すを口にした所である。士官室には此の將軍の一代の戦争を描いた密書數十面を掲げてあつて、其の複製したものを買つてをる。又ある一室には其の頃の新聞紙や繪畫などを陳列し、なほ百年前のタイムス新聞が



ネルソンの死

「ネルソンの死」

ネルソンの死は最も戦史に巧なるが、此の世は就中兵の巨作と稱せらる。今この國會開事案に雄大な敷設として保存せられ、此處に示したるは、其の中央の主要部なり。既に際して動ぜざる時軍の英委と之に驚く時軍の態度何れも風に迫りて人をして一見憤憤の感に堪へざらしむ。將軍小擁せるは、カローラン・ハーデーにして彈丸を探れる所なり。

四 説活字で

我等は昔報と凶報とを併せて此に公にせざるべからず。昨日トラファルガーに於て得たる我が軍の奇勝と同時にネルソン提督の戦死したることは、なり。

と記したものを其の儘に保存してある。之を見るもの當年に想ひ到らば、雖も無限の感慨にうたるべからず。

ワイト島はボートマスに對して、實に美しい小仙臺である。氣候は暖かくて、温つばいから植物の發育従つて宜し

ネルソンの戦死

ネルソンは、艦内に一羽の鷓鴣を飼つてゐたが、五つて人語が巧く、鷓鴣の聲でも、報告の真似でも、軍令の聲でも、果ては將軍の威嚇ひまで、巧に物真似をする位であつたから、艦内の愛嬌者になつて非常にかはいがられてゐた。さてこの大戦に、艦に將軍の名譽の戦死を遂げられたが、鷓鴣は無事であつた。そこで名將の遺愛といふので、非常にもてはやされたが、それから後は、鷓鴣のやうに人が呼びかけても返事もしない。しかるに、一年即ち將軍の一周忌といふ日のことであつた。

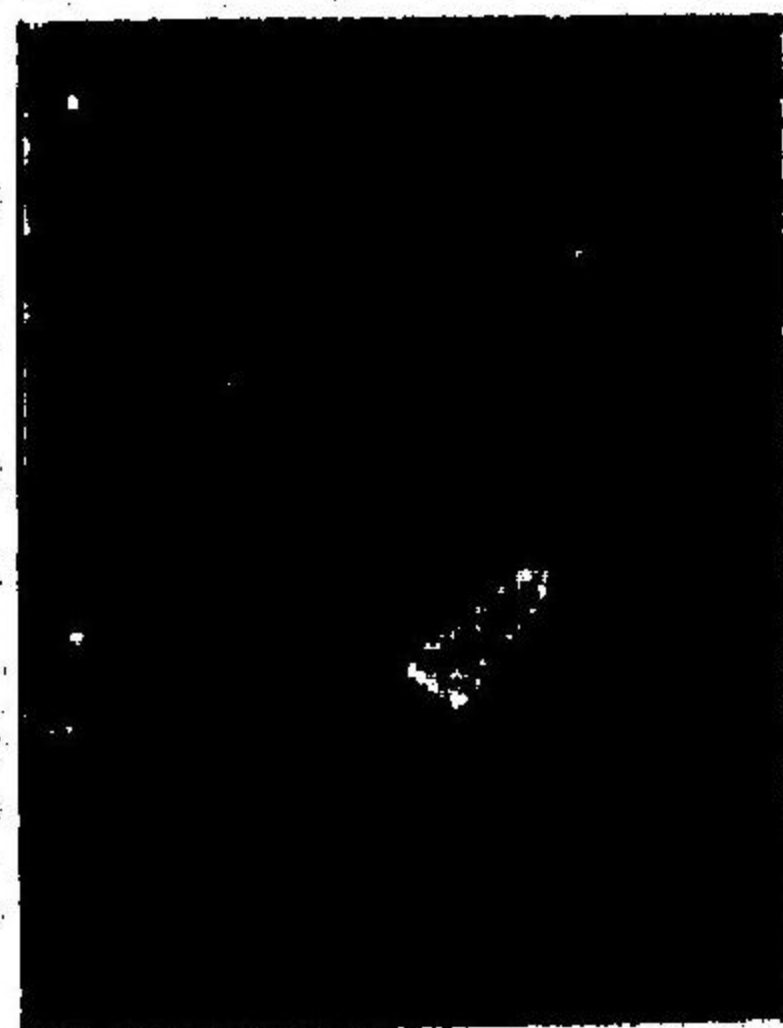
ネルソン家の面々は、打揃つて鷓鴣を連れて、やがて東へ歸つて來るといふかに、奥の一室で、鷓鴣は火爐の傍に居て、人々見られて見ると、鷓鴣はやがて一聲高く、

「や、残念……ネルソンは死んで、もイヤ、イヤの海軍は死なんぞ、うむ……」

（鷓鴣は笑の顔）

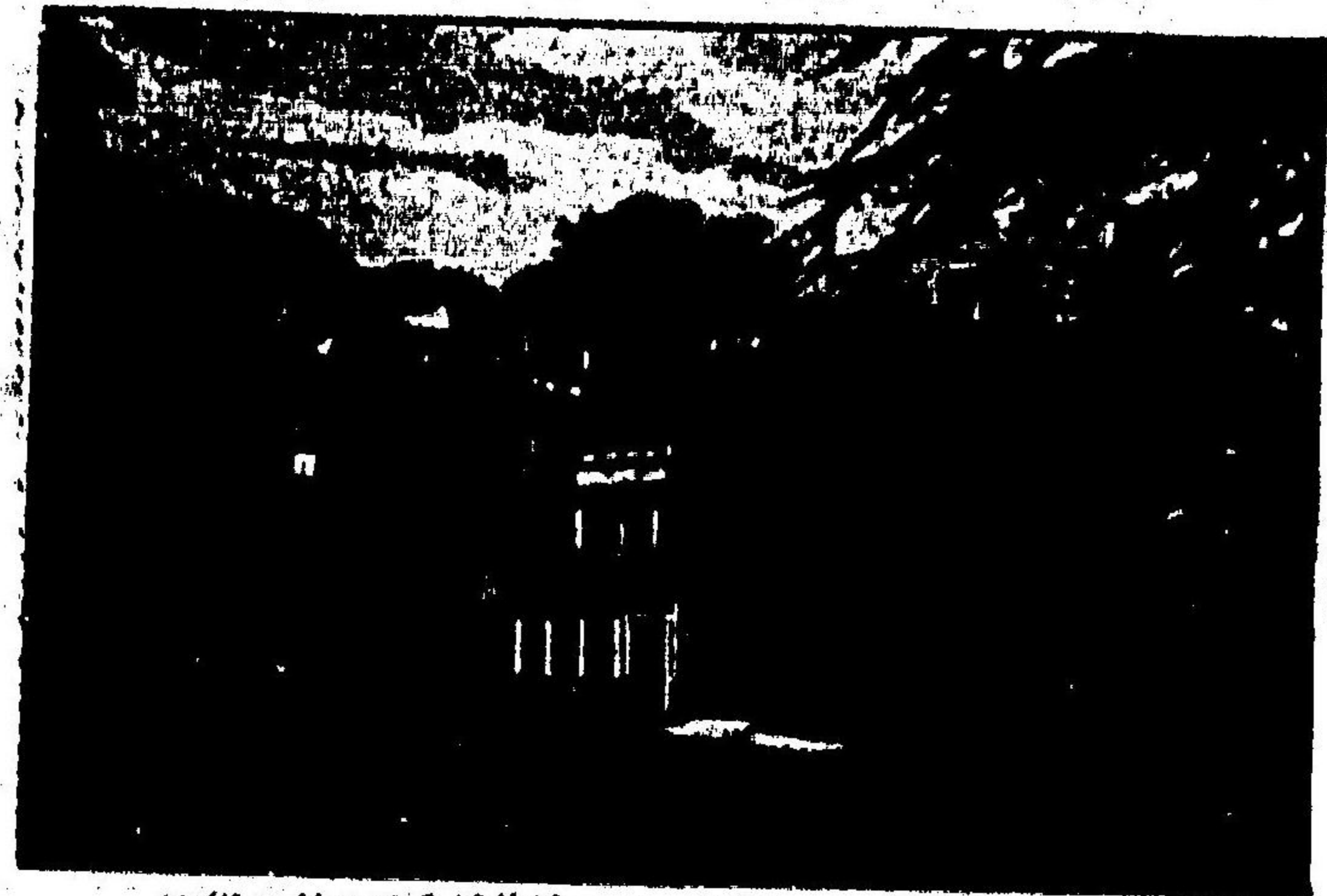
丘上の散歩も絶崖の上からの眺も、
 海原から吹き来る秋風と目さむる
 様な緑樹の輝きとに、非常な快感を催
 うすのである。殊に島守のをつたカ

秋風詩歌アモソン



アモソンは、抒情詩人の詩
 人、素朴で物語歌の作者な
 り。……其の理想アモソンの
 の如く、其の精神アモソンの
 の如く、其の技巧アモソンの
 の如くにして初めて十九世
 紀の詩人たるを得べし。十
 九世紀の英國が、彼を評題
 せしは、至高の詩人なりと評す
 べき也。 岸内氏

リスブルックの荒墟と詩歌アモソンが
 CARISBROKE TUNNISON
 亡友アーサー・ハラムのためにものし
 たる名篇「紀念」に出たイトン丘など
 ETON



イトン丘の風景

は最も旅客の感興を催す種である。

デヴンの野趣 デヴンは海峡の西端に近き州で最も田園の風趣に富
 んだ處として知られてゐる。此處の野外を逍遙すれば、狭い野徑の兩
 側の生籬の中には、見事なほど蔓にからまれた大きな樺や、楡の太木が
 立つてをって、其の籬の下に若葉す河岸には、櫻草や水仙などが咲き亂
 れてをる。秋や赤の花を纏り出したやうに見ゆる夏景色も、野生の忍
 冬が其の香を薫らす秋日好もまたない眺がふん／＼名残の葉を甜
 つてるのもすがたい風情である。なだらかな丘のあちこちには、ふ
 ら／＼とデヴン牛が遊んでゐるが、ヒースの藪は遠くその背景をなし
 て日光に照らされて紫色に美しい。此の州の南岸は、氣候がよいので、
 我が伊豆や駿河の海岸のやうに遊覧の病客がやつてくる。殊にトア
 海岸のトーケーなどは、沼津ともいふべき勝地である。

ブリッマス は、トローケイ
 の西方 TAKER 河口にあ
 つて古來有名な港とし
 て知られてをる。スベ
 インのアルマダ艦隊の
 撤退に參加したホソ
 ド公も此處から抜錨し
 今日の新設國を建設し
 た新教徒もかのメー
 ラフワ一號に乗つて此處
 から出帆したといふ。
 今は南米南亞流洲及び



メーラフワ一號の船出
 (パニメ氏の筆)

幾多の信は、此にメーラフワ
 ヲ一號を以て、別列の情に
 堪へざらんす。

地中海諸港との貿易港
 て、又移民が南洲や北米
 カリタなどへの出發地
 である。此の港の商港
 と軍港との間には、密火
 な防波堤が築かれてあ
 るが、軍港の設備の完
 なる優に英國軍港の概
 本といふべきであらう。
 往年現メドワード皇
 の戴冠式に參列すべく
 渡航した我が艦隊も此

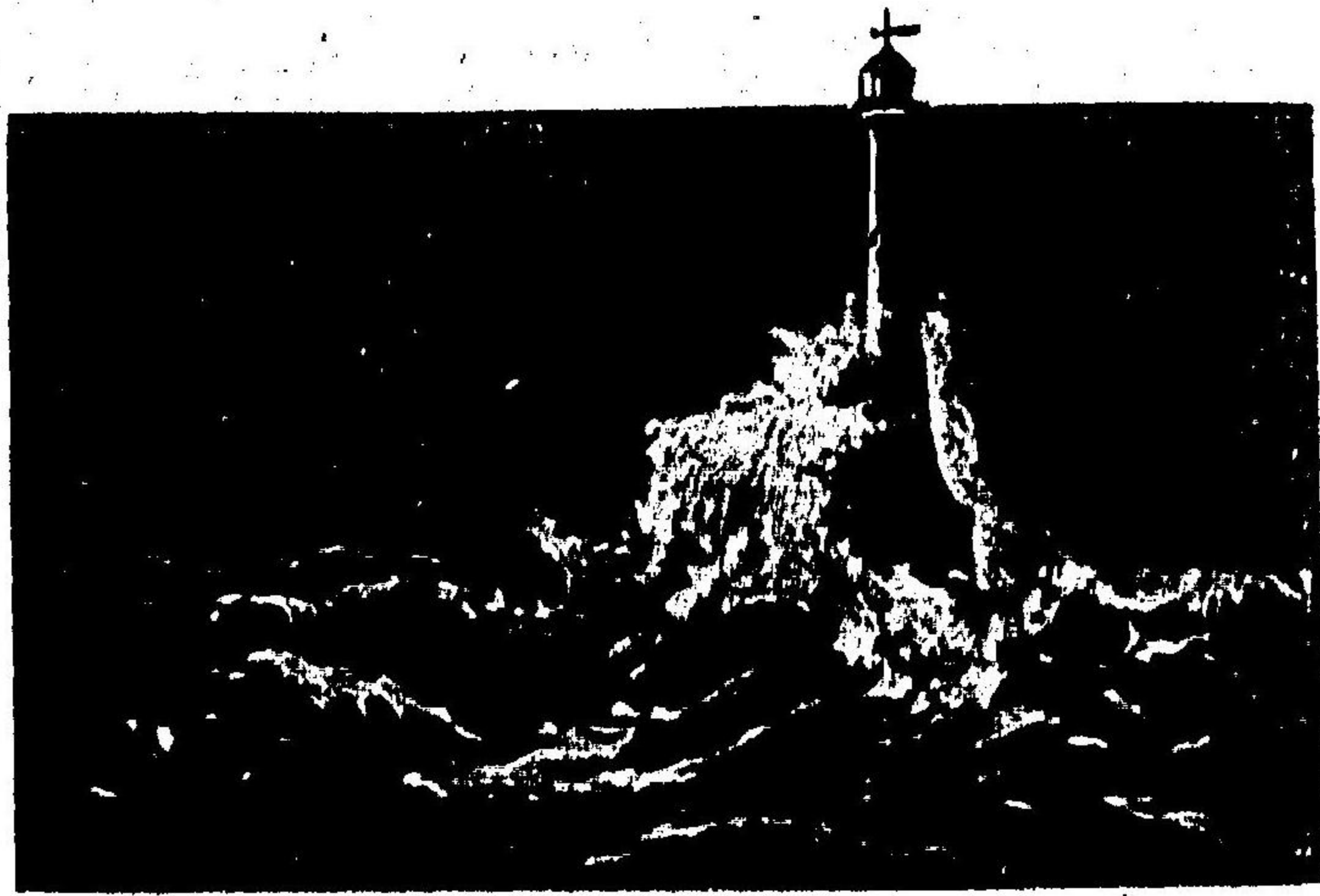
處に碇泊した。此の時は今は故人となつたマ
 令娘の手に成つた美麗な手提袋八百餘を持つて來て我が將校及び下
 士卒に贈り更にロンドン見物や買物などに就いて非常の便宜を謀つ
 たといふ。此の老嬢は敬神の念深く博愛慈惠を以て唯一の樂となし、
 殊に日本の水兵を愛し我が水兵の渡英する毎に何時でもロンドン見
 物や買物などに盡力するので、日本水兵の母と稱せられてをつた。
 コーンウォール州 は、デヴォンの南西にあるが全く英國の南西端である。
 其の尖端の邦士端などは、断崖絶壁に迫りて遙かに大西洋の消濤を望む
 絶景なので、或は輪に畫かれ或は寫眞に撮られる。かく僻處に位し、交
 通不便なる此の州は、ケルト語の其の儘今に傳はつてゐるのが珍らしく
 ない。又處々から出る錫鐵は、昔にペニヤ人や、ギリヤ人がこゝで採
 鑛した往時を忍ぶ好紀念で、今でも此の州は常國の鑛産地として有名

である。氣候がよいため冬季の遊客が多いが中には「ツンツン」海内HELSTONのヘルムストン港などは附近の遊覽地の中心となつてゐる。ラ
ンツェンドの南西二十七哩にある「ソリヤン」島は夏涼しく冬暖



家舎田い道のントスルへ

かく水仙や百合などの栽培や輸出で知られてゐる。又その間の小さな海峡は陸地が氷い間に段々沈んだので出来た處ださうて「七石」といふ小島が名産となつて残つてゐる。
ブライマス港から望まるゝ燈臺——碧崎



燈臺のントスガ

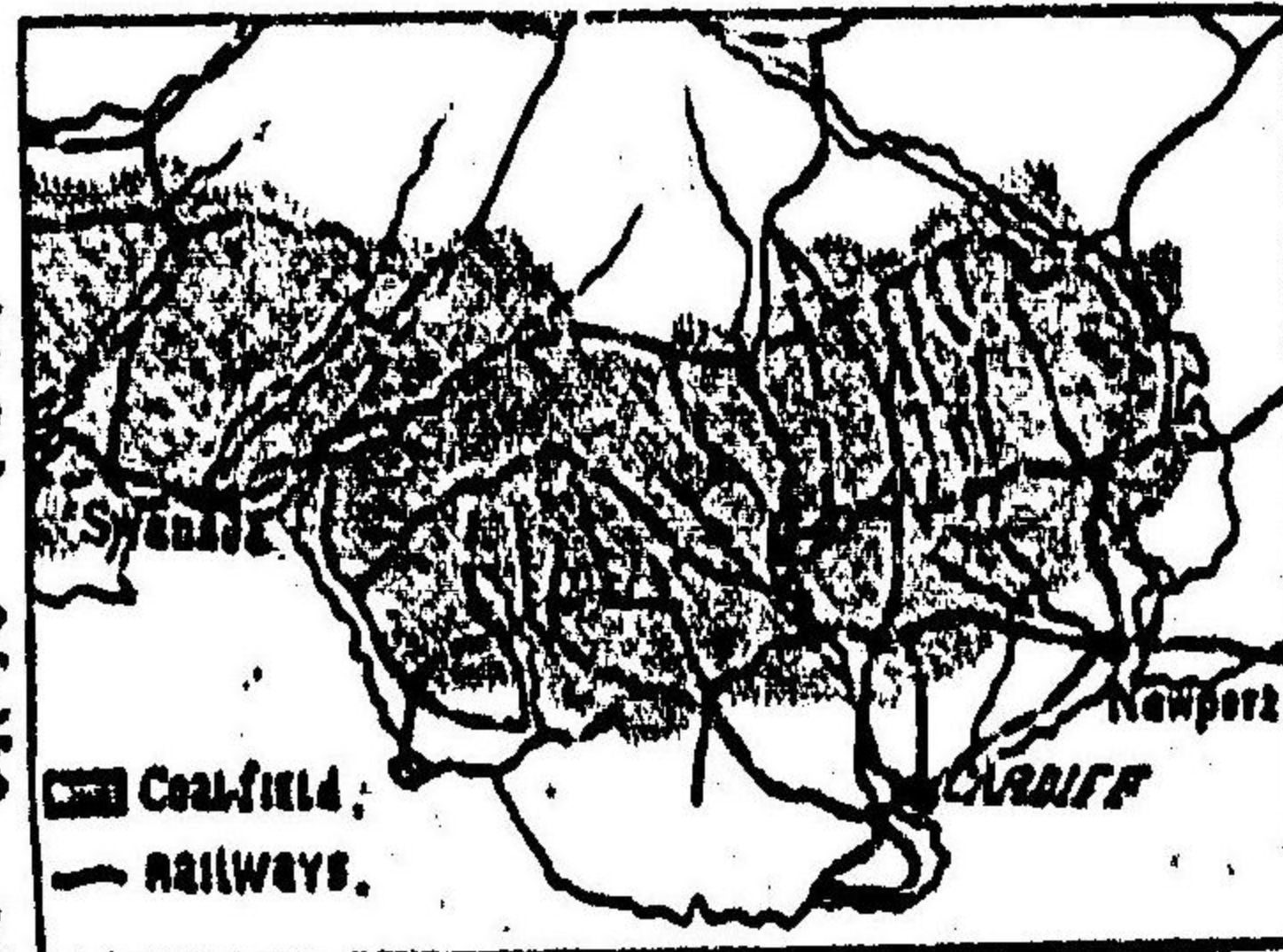
の間に點する一抹の白色は即ち「セントストーン」燈臺である。この燈臺のまだ此の暗礁の上には建てられなかつた時は大船巨船の難破が度々であつた。この屹立百三十五呎の大燈臺は全く豪商「ウィンスタレー」氏の苦心經營になつたもので最初に建てたのは暴風怒濤のために覆へされ其の時此處に一夜をあかした氏も其の危難に遭つたが不屈不撓の氏は強固なる意志の賜で再びこの燈火——幾多の航海者に恵する神の火——を點するに至つたの

である。
 又北岸のバイドフォードやクログッリーは怪げな古い町だが、これはエリザベス時代の勇敢な航海者の故郷で、新世界に遠征した水夫も無数に、隊を撃退してスペインの海上権を獲得した勇士も多く、此處から出たといふ。さればバイドフォードの橋やクログッリーの漁夫は何れも昔を忍ぶ好個の紀念物である。

カーヤフ

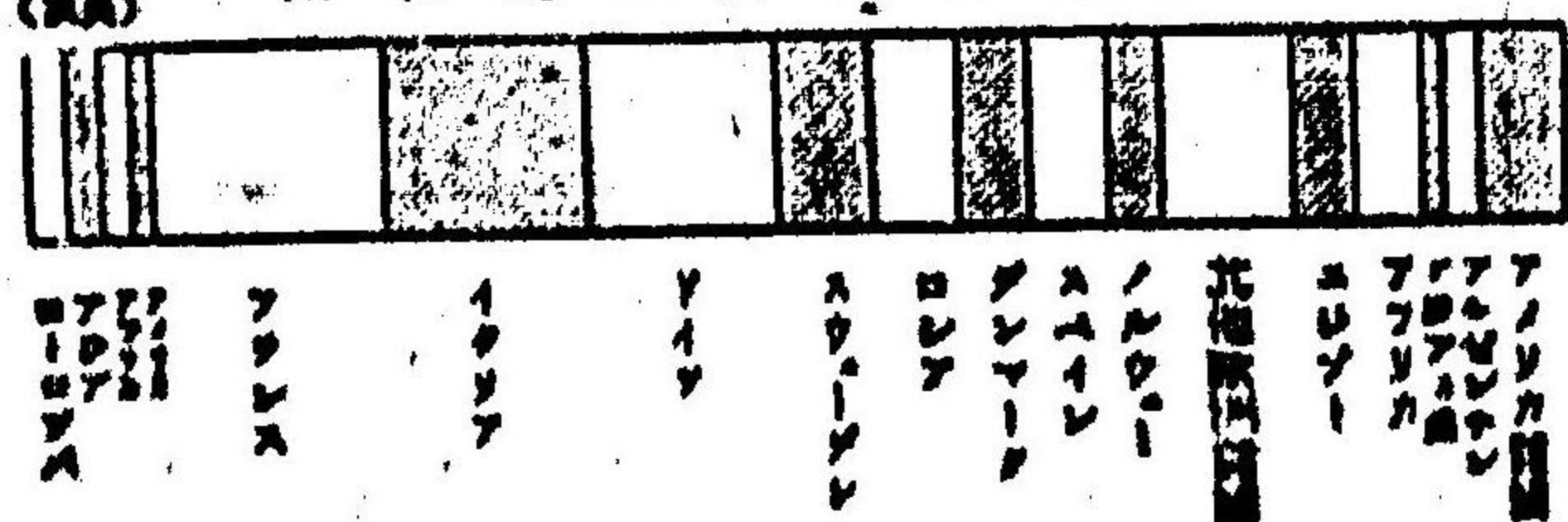
カーヤフといへば、世界第一の石炭積出港である。英國の石炭年産額約三千二三百萬噸のうち、千六百五十餘萬噸位は此處から輸出される。従つて積込方法も最新なもので、三四哩乃至五六十里ある炭坑から来る炭車が、船渠のそばまでくると、昇降機に附て大鐵桶に移さ

れる。それが忽ち船艙上に轉送される。その桶の底を外すと、石炭は瞬もなく艙内に落ち入つて了ふ。車即ち一桶の積量は實に十噸送送には僅かに五分餘を費すばかり、同時に二三船に積入れれば、三四十噸のものは十時間もたぬうちに積み終るとの事である。これが船渠の數ヶ處に設けられてあつて、諸外國からの汽船に積入れるやうになつてゐる。その石炭は輕鬆で碎け易いが、良質を以て有名である。此處は石炭の外、銅鐵



川炭のヌル一ウ

圖較比別國輸出積炭石



工業地方

工品や銅板など輸出する。百餘年前には人口僅に二千餘の小邑が今は十萬餘で、ウールス第一の都會になつたのも全く石炭の賜といはねばならぬ。カーデフの附近即ち南部ウールスには殆ど一千方哩に廣がつてをる炭田があるが地勢は高きになつてゐて高さは七百呎から一千二百呎もあるといふ。ウールスといへば此處は六百二十餘年前までは獨立國で人種もケルト、言語もウールス語であつたが今は英國の一部で、イングラント、エンド、ウールスといはれてをる。

工業地方

工業地方といへば、ロンドン以北の炭田地方をいふので、ノーサンプトン、ランド、ヨークシャー、スタフォードシャー、ランカシャーなどが其の主なる炭田である。殊にヨークシャー炭田附近は煙突林立して煤煙天に

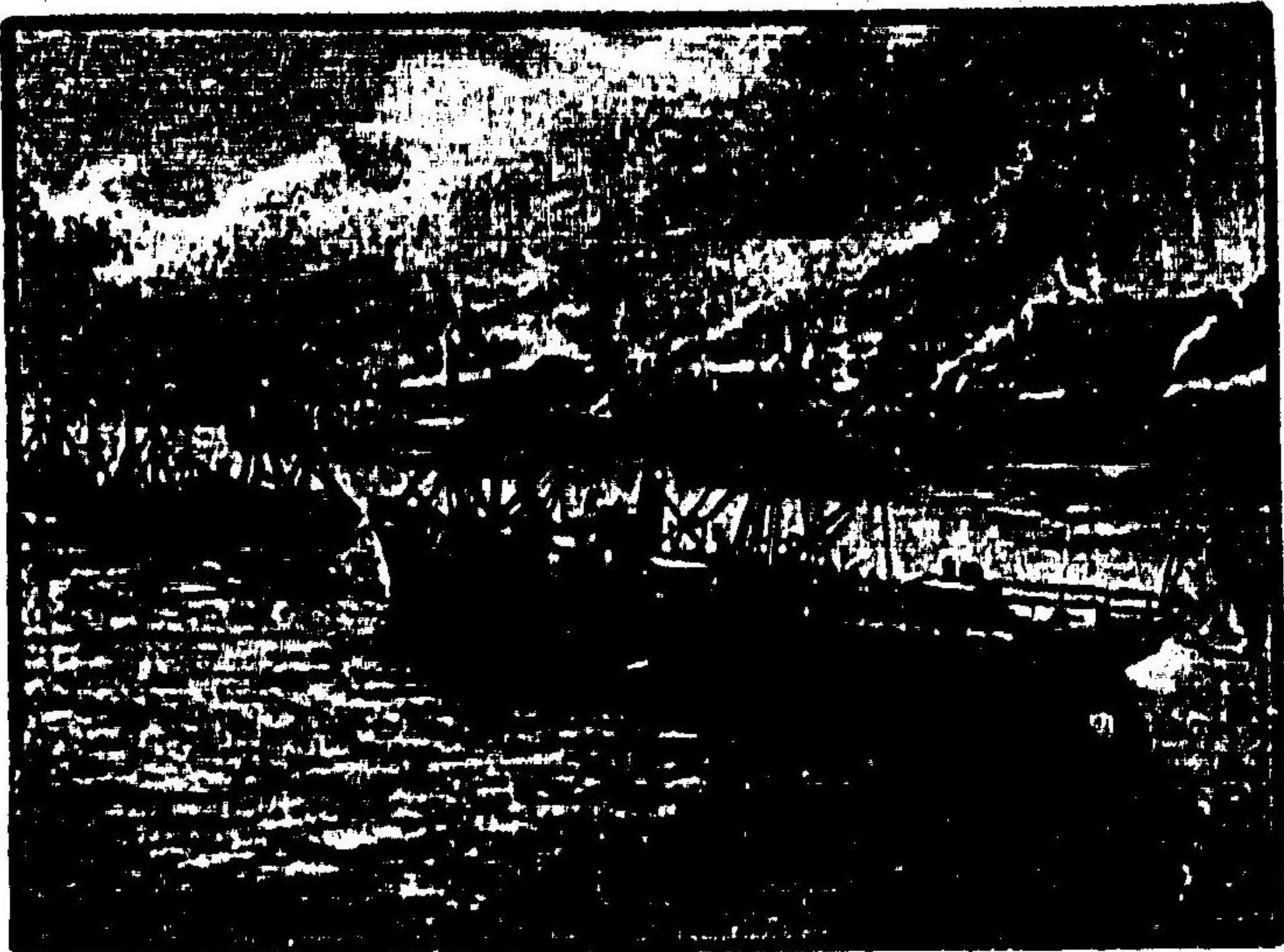
漲るのて黒國の稱があり實に町のある處悉く煙あらざるなしといふ有様である。



力地業工と市分川埃

ニューカッスル NEW CASTLE は、タイン河の左岸河口から九哩ばかりの處にある。今の名新しき城はかのウリアト、セ、ロシカ、リ、ア、ト、セ、ロシカ、WILLIAM THE CONQUEROR の長子、ロバートが城を築いてから起つたので今でも

その塔閣がのこつてをる。製鐵鑄造船業等が盛大で、アームストロン



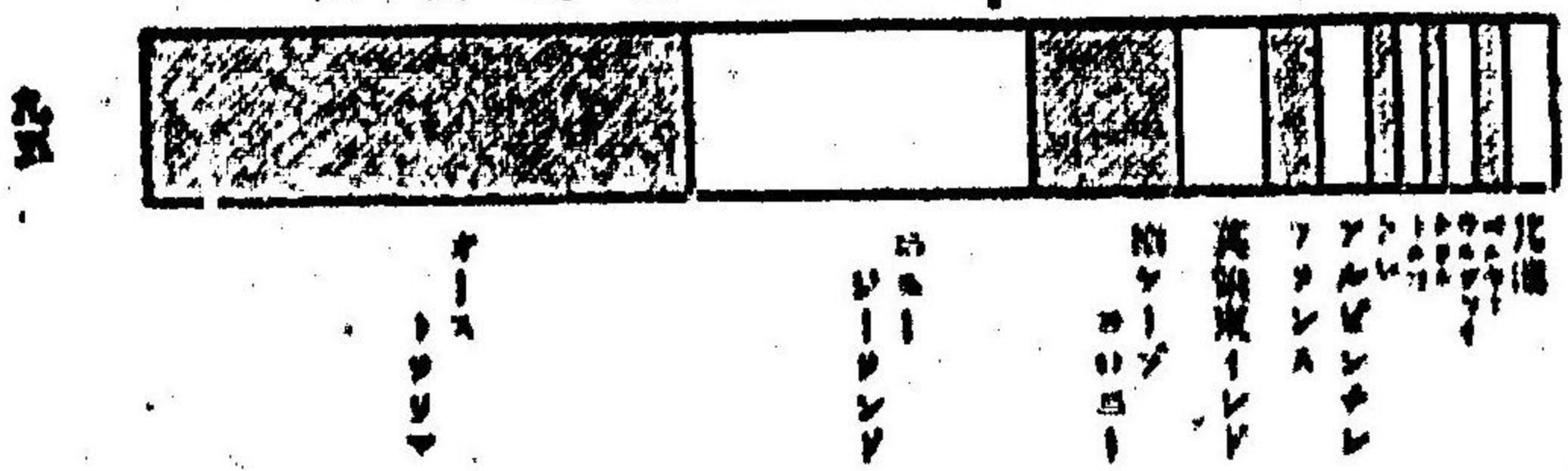
ルスカ、ーニの岸左ンイ

グ會社の事業などは最も有名なものである。

ロークシーア炭田には工業地が頗る多い。エア河の中流に臨んでをるリーツは毛織物業の中心地で人口四十五萬の過半はきれて衣食してをる。其の原料は殖民地たる露洲・ニュージーランド及び南米のアルゼンチンから輸入されるので此處から程遠からぬブライトフォードは毛織、ハリファクス、BRADFORDは毛織、ハリファクスは絨氈の製造地である。又デュー

スプレーはブラケット工場のある處で、ブラケットは今から五百六十餘年前トマスブラケット氏によりて創製されたものである。又南方のシェフィールドはドン河の上流の山間にある刃物の名産地で殊に剃刀や銚やいろくの器具の製造で其の名を世界の市場に知られてをる。此處で出来た小刀一本をとつて観ると其の仕事の世界的な處がよくわかる。刀身はスウェーデン産の鐵かと見ると目釘の真鍮は南米や合衆國から、ハンドルはカナダから何れも千萬里の波濤をこえて来たものだ。中央アフリカの象牙も、シベリヤで楯など挽いてる馴鹿の角も南洋のリン島の真珠貝も世界の大河アマゾン河岸に接んでる龜の甲も東インド群島にをる水

國英毛織輸入額別比較圖



牛の角も悉く其の材料に用ゐられてをる。されば一本の小刀は世界各地の原料を利用する英國工業を説明する好標本である。是等の工業地を西に控へ北海に臨んでゐるハルは北歐との商業の中心地で貨物の集散夥しく五百隻以上の大船は常に往復してをると。パイメンガム 此の附近の山々には鐵鑛が多い。そこで石炭を用ゐたBismuthum かつた時代には近くのアーデンの深林の薪で冶金したものださうな當時は小さな町で民家がみんな鐵工場だつたが今は人口五十二萬にあまる世界鐵工業の大中心地殊に金屬器具の製造を以て有名である我々の日常用ゐてをるペンにパイメンガムの字を刻んである事は諸君も氣附いてをるであらう。此所で作るペンは年々數百萬螺旋や釘は何億であらうか。外に大機械大砲自動車精具なども製造するが殊に深山の玩具—小さな蒸氣機關や小さな鐵製の荷車なども製造する

からヨーロッパの玩具の見世ともいはれてをる。されど一面には博物館美術館圖書館など何れも市民の公共心によりて完備せらるゝとは一層床いてはないか。美術館内には日本の美術品などもあるといふ

マンチヌスターとリッヅプール

マンチヌスター 人口五十四萬餘の大都會世界一の綿織物業地大工場は大概市外にあつて市は寧ろ其の製造品の賣買地である。其の原料たる棉花は遠く合衆國インド及びエジプトなどから來るのでもとはリッヅプールで採掘しそれから鐵道で運んだものだがマンチヌスター運河が出來てからは小蒸氣船ですぐ來るやうになつた。此の運河の開鑿はスコットランドのグラスゴウがクライド河渡溝後盛大となつたのに倣うたもので世界の開鑿事業中の有名なもの。一部はアーケ

マンチヌスターとリッヅプール

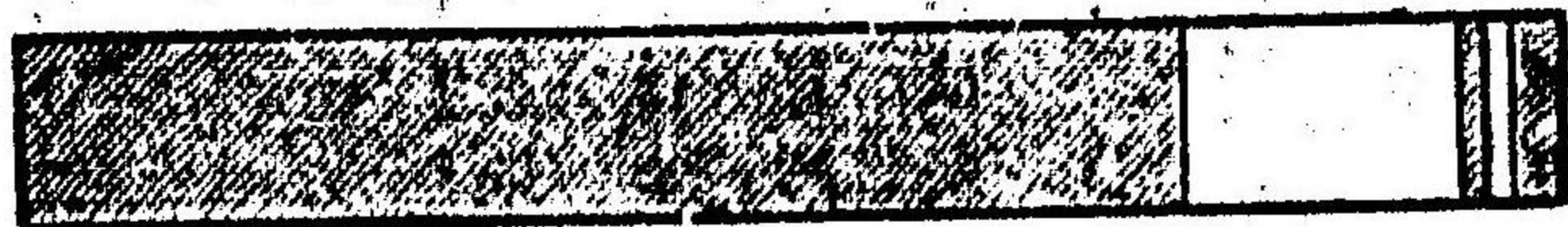
定期船が大したものて碇泊船の多い時は丸て橋の林を見るやうだ。船渠の数は六十餘で、イリノイ河口から六七哩の兩岸に續いてるが、是



河 路 - ス タ . . .

ル河の流路を利用したもので其の長さは三十五哩、巾百二十呎、深さは二十六呎である。此處は音樂の盛んな處であるが、これは獨逸人が多いためだといふ。リッピンブルは人口六十八萬餘、ロンドンに次ぐ貿易港である。殊に合衆國との取引が盛んで、ニューヨークからの定期船が一番多く、外にボストンからも、ブルヒヤからも、ニューオーレリアンヌからも来る。其の他、他國の要港から来る

圖 較 比 別 開 入 輸 港 橋 國 英



始めて鐵道を通じた處、棉織器械なども當市で始めて運

等の船渠が一つの組合をつくり、各自の營利のみに偏せずして、本港の繁榮を圖る事に一致してゐる事は、感服すべき事である。船渠のうちには、大船を入れるのも出てゐるが、在來の船渠の改築が困難だから、夫等の水深を増すための一大送水機關もある。潮の干満の差が十五呎から二十呎位だが、人工的設備が優に其の欠點を補うてゐる。其の他起重器といひ電力を用ゐてゐる高架鐵道の敷設といひ實に盛んなものである。當市とロンドン間は當國で

圖 較 比 別 開 入 輸 港 橋 國 英



九

轉されたさうだ。殊に自由貿易館は往年有名な政治家コブデン、ブライト二氏が自由貿易を主唱した處として知られてをる。

清新の風光

工業地方を旅行してがたくする機械の音響々たる黒烟に抱いた耳目は、ヨークシャーの海岸や、バリー、ミンガム附近の臺地の道途によりてはじめて清新の風光に接する事が出来る。東方ヨークシャーの海岸には灰色の崖がならんでをつて、北海の荒波は容赦なく之を噛みくだく。されば千狀萬態の奇岩怪石竝立し其の間には深い洞が出来てをるが、これは昔は海賊の隠れ場處であつたさうだ。げに満潮の時に打ち入る浪の音は何となく彼等の面影を忍ばすやうに思はれる。バリー、ミンガム附近の臺地といへば、つまりロンドンから、ソウ、ブールに至る

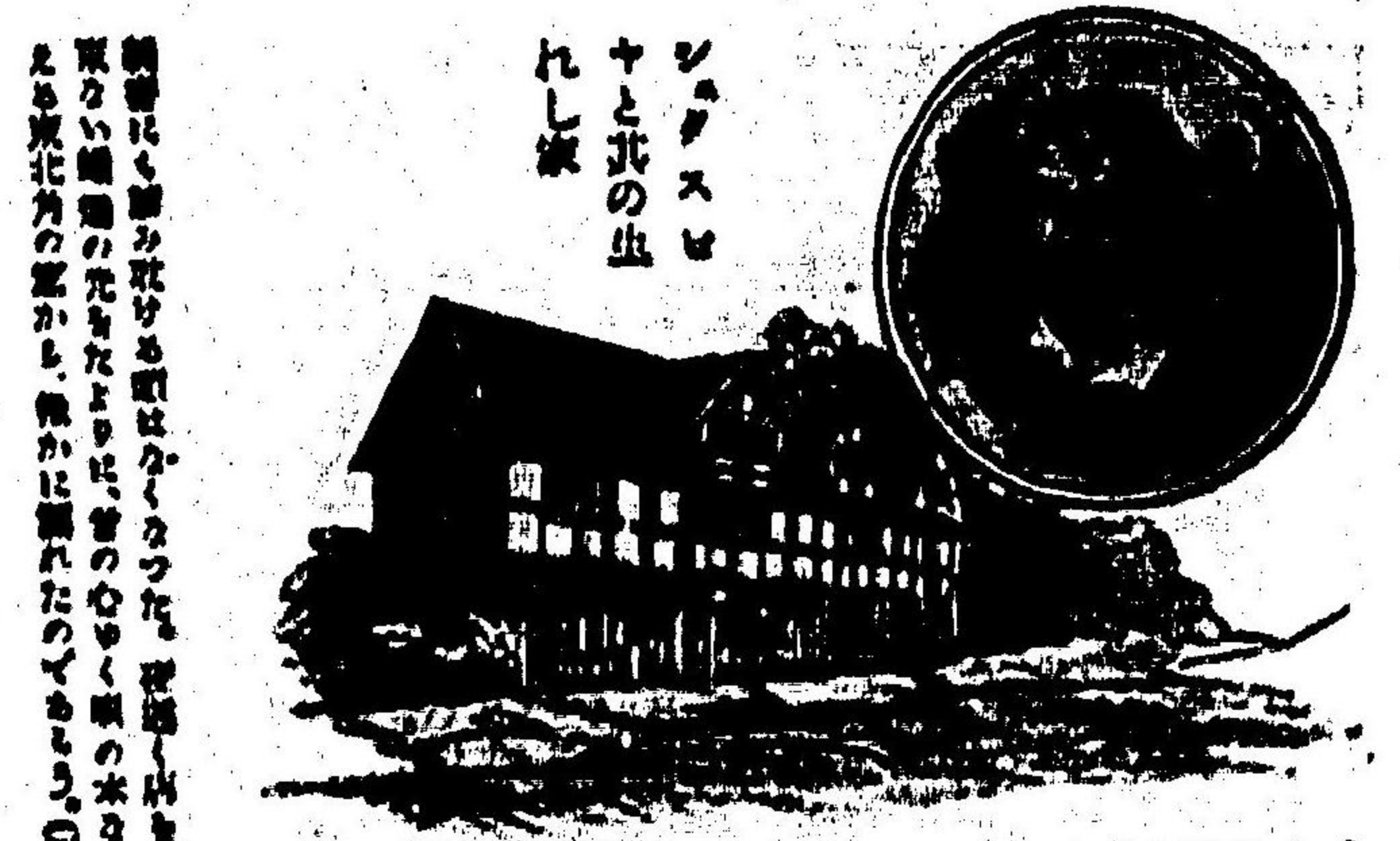
土地一帯であるが、何となく美しい物産かな景色で、緑ばかりの新緑の色は、一層人の感興をひく。丈低き森は、空にゆるやかな弧を畫いて、其の間からは川合の教會の小さな灰色の屋根が見える。森の下階から湧いてるやうな真白な小河は、毛氈のやうな芝生の間を縫うて流れてをる。川合道の兩側には、崖根はさつぱりした赤色で、壁はくつきり白い川合家がならんでをる。そして辻とも思はれる處には、古風な十字架が立つてをる。これが臺地の風光である。

英吉利の川合に川合といふもの殆どなし。見渡す限り、唯草又は丈低き灌木の虫ひ度る。任せたり、偶馬を放ち草を牧へるはあれども、之とても極めて少なし。此に於て草と草とは、生ひくゞて、流る所に紅霞白雲の花を開き、夏向邊き六月の初頃より、秋の初にかけて野はまながらの錦を織り成すなり。如何なればか、斯くは野を草木の茂るに任せて川合を作らざると聞けば、白川貿易の國柄として、低き米穀盛に入り来れば、労働高き英吉利の農夫に作らせんこと、勘定に合はざるなりといふ。寸地も耕さざるなき我邦などより来て見れば、何とやら人具懐に感ぜらる。

山村大英道記

101

パーミンガムのあるソーウ、ツクシニア州は、イングランドの花崗と
 はれてをるが、こゝには世界の大文豪シェイクスピアの生地、ストラットン
 ド、オン、アヴンがある。流の緩かなアヴンといふ小河に臨んでをる。
 此の村の生家、父の業をついて梳毛をしてをつたといふ此の生家は、
 町の中央にある木造で、狭い梯子を上つて行つた二階の一室がそれ
 ある。しんとした静かな其の部屋は、反つて人をして無限の感慨を起
 させるが、壁を見ると一々参詣者の姓名がかき記されてある。中には
 世界の歴史に留まれる名前も多いが、それが此の偉人の室に對しては、
 いかにも謙遜に記されてある。ふるいものを消さないともう新しく
 かき入れる事が出来ないやうに書いてある。ジヤクソン、スウ、キース、
 トの名は、窓硝子にさざまれてあるが、記名簿ともいふべき本には、
 ロンヤ、キーツヤ、サカリーヤ、チニソンなどの名がとめられてある。ニ
 KEATS SHAKESPEARE STRATTON ON AVON WATER SCOTT BROWN



シムスビ
 ナと其の生
 れし家

この建物は、シムスビの生家である。其の建物は、成り立つてから、
 今も昔も変わらぬまゝである。又此方の村には、地元の事情として、
 昔から、この建物を、例をかりがらんとして、人の往来も少ない。
 如何にも田舎の小
 村の風情が、この建物のまはりに、感じられる。村の中心には、
 一層の静けさが、感じられる。村の中心には、一層の静けさが、
 感じられる。村の中心には、一層の静けさが、感じられる。



シムスビの風景



ケニルウーヌ城

階の外の一部には、少しばかりの遺物を集めてあつて、丸で博物館のやう氏の椅子机遺物状の山た箱古い手紙など大事に保存されてを、つて氏の肖像は、恰も生けるが如く掲げられてある。此の町には氏の葬られた寺もある。此の附近にはケニルウーヌ城もある。此の附近にはケニルウーヌ城もある。又懐中時計や、自転車や、リボンの製造などで有名なケニルウーヌ城がある。ケニルウーヌ城の職工学校の如き、此の組織の整備、完成せる事、今は、歐洲第一だといはれてをる。ケニルウーヌ城

は、レスター卿のをつた、崩れかゝつた城や、萬の生ひ繁つてをる石柱を見て、昔の盛時が忍ばれる。昔エリザベス女王を、主賓に幾百の貴族を、饗應したといふ、宴席などは、今は、儼かに礎が残つてをるばかり。これが、詩人スコットの筆にのぼつたので、一層人口に膾炙するのである。此の外田舎には、古城が甚だ多い。

北英の山水と湖水地方

工業地方からスコットランドに赴く間には、到る處平和なイギリスの田舎の風物が眺められる。空気が新鮮で、目に入るものは、悉く緑色。彼方に耕馬を操る農夫あれば、此方には、數百の牛羊が、牧場に戯れてをる。古びた農家の壁には、萬が纏うてをり、穀物倉の屋根には、蒼蒼してをる。見るもの、悉く古雅ならざるものはない。オールド・イングランドの面

影はげに此處らに見得らるゝのである。森陰の暗い谷間に小河が流れて、それに丈夫さうな古い石橋が架つてをる。その石橋——こんなものにも一番にいゝものは、一番廉いものだといふ英人の特質が認められる。橋のあなたの小路や牧場の邊には、いつも郊外散歩好きの男女の道逢を見る。なかには此の國の國民的遊技ともいふべきクリケットを遊んでる小供の一群も居る。こんな風趣統かなる田舎の風物に、更らに點睛の感あらしむるものは、實に中世時代の諸侯の居城や武士の居宅の遺跡で、なかには其の僅残つてゐるものもある。

英國々民の性格の真相を窺はんと欲する異邦の人士は、其の觀察の範圍を市府にのみ限るべからず、必ずや地方に赴きて村風鮮色の間に野寓し、其の城郭山岳風景までを採録せ、置く之を歴訪し、園林庭池の中に徘徊し、打ち送る風趣統る細部に於いて、懐伴し、山寺の邊に俯仰し、鉄馬を見市場に出入し、其の他あらゆる田舎の祭禮を觀かくの如くにして、つよまに其の國民の狀態を窺ひ、其の風俗性情の全般を知悉するを要す。 (後野氏譯、スウェーデン、ナブナ)



デーラム大寺院

北英の古寺と古城

北英には、キールド、イングランドの精華ともいふべき古寺と古城とが多い。此に出したるは、ほんに其の二三にすぎない。デーラム大寺院は、スコットランドに近い北海に面したデーラム州のデーラム町にある。クローア河に臨んで建立してある其の雄々しい姿は、實にいゝかの博士や、ソーンが、岩のやうに堅固で、水久離らぬといつたのは、此の寺の事である。ハイナード城は、デーラムの北方ノーザンバークランド州、ヤース河の上流左岸に沿ふて築かれてゐる。十二世紀の前半に建てられたもので、単に合衆國や濱州から此の有名な寺を見に来る人が多い事でも、其の史的興味はいかに大なるか、わかる。リンチスワース大寺院は、同じノーザンバークランドの沿岸の一小島にある。實に七



城ドーナーバ

世紀前中の建立
で「英國キリスト
教の橋」と稱せ
られ、スコットなど
は「大きな神々し
い赤黒い大風」と
いつてゐる。此の
島を聖地といふの
も此のゆゑがあるか
らだ。



フリンテス

殊に湖水地方といはるゝスコットランドに近き、ノルザムバリーランド、
ムバリーランド及ビウエストモアランドの風景は一種變つた風趣がある。
此處には一葉の群山相峙ち其の間には繪のやうに麗しい小さな湖水
が深山ある。「英國の瑞西」といふ稱呼が實によく當つてをる。そして
此の風景を一層變化あらしむるものは大西洋から吹き来る濃々たる
雲霧である。今まで輝いてをつた美しい景色も見る間に霧に蔽はれ
て暗いどんよりした背景のやうに變るかと思ふと忽ち又明るいパノ
ラマのやうになつて、夢のやうな色彩を呈してくる。なだらかな丘の
上には燃えんばかりのヒースがささみだれて道端には紫色の釣鐘草
が風にゆられながら立つてをる。かゝる自然の光景は幾多の詩人の
足跡を此處に留めしめた。コリンズもシェンリーも此處にをつた事があ
る。殊に自然詩人として有名なウースワースは彼の平和な八十歳の

COLINZ
WOODSWORTH

SHELLEY

王子島一節

車の上に臥してある阿
二さだの夜が呼び聲を

我れは聞く、

このもかのもにはが聖は

破るとおもほゆ、

うららかに日影さし

花咲く谷に、

何れなく見晴くなど、

春の谷に、

汝が聖は神来 我れには

夢の日のむかしがたりを。



ウィンダミア湖
ウィンダミア湖



彼は幼より
多僧を感
して、自信
の念願する
かりき。其
の大なる所
に深く詩人
の天賦を意
識して、生
誕を時にあ
げたるにあ
り。自然界
人間界を掃
蕩して、其
の美處を嘗
取し、探検
したるにあ
り。
〔坪内氏「英
文書」〕

ICX
生涯を殆ど此の邊
のウィンドミア湖
WINDMERE
ラヌスミアアなどい
ふ静かな湖畔に暮
した。彼は夕方に
は可憐なる小島の
岸板を観察し、暮れ
ゆく自然の風景に
見とれたであらう。
観察したであらう。
其の音調までも聴
き知つたであらう。

かの有名な呼子島の歌などは此の邊から得たもので上る朝日に謳歌
するやうな雲雀などを見ては神の愛に感謝せずには居られなかつた
であらう。このやうに麗しい自然の風光に富んでをつた彼のホーム
は確かに彼を自然詩人とならせた大原因で彼の詩中の生命はこの附
近の風光の精華といつてもよい。

北英山水の概観 英國でも就中イングランドの景色は南と北と全く趣を異にすると思せ
られてゐる。南は概して圓く滑らかに平か、北は山水野嶽、しかしイングランドの景
色全體に牧場的とも名づくべき一つの調子がある。山といつても三千里に上るものは甚
た稀である。山にして牧場水にして湖水、北英の山水はこの二大ノートに山つて調子を定
められてゐる。之が多かれとなれば所謂イングランド、その時の山の頂や牧場な
どの色の變つてゆくさまは實にいと、山がかゝる調子であるから、水も是れに調和せざる
を得ぬ。流るゝ水よりも懶れる水、澄き白き水より深き蒼き水、やぐ水よりも沈黙せる
水の方が一層よく此の景色にかなふ。則ち湖水のなかるべからざる所以である。之を要
するに湖水邊は第一面の遠山、牧場、和な代表する平凡なこれらのものが支配してゐる湖
水地方の自然の中にかのローランド、ローヌは平和な家庭生活をしつけたのである。

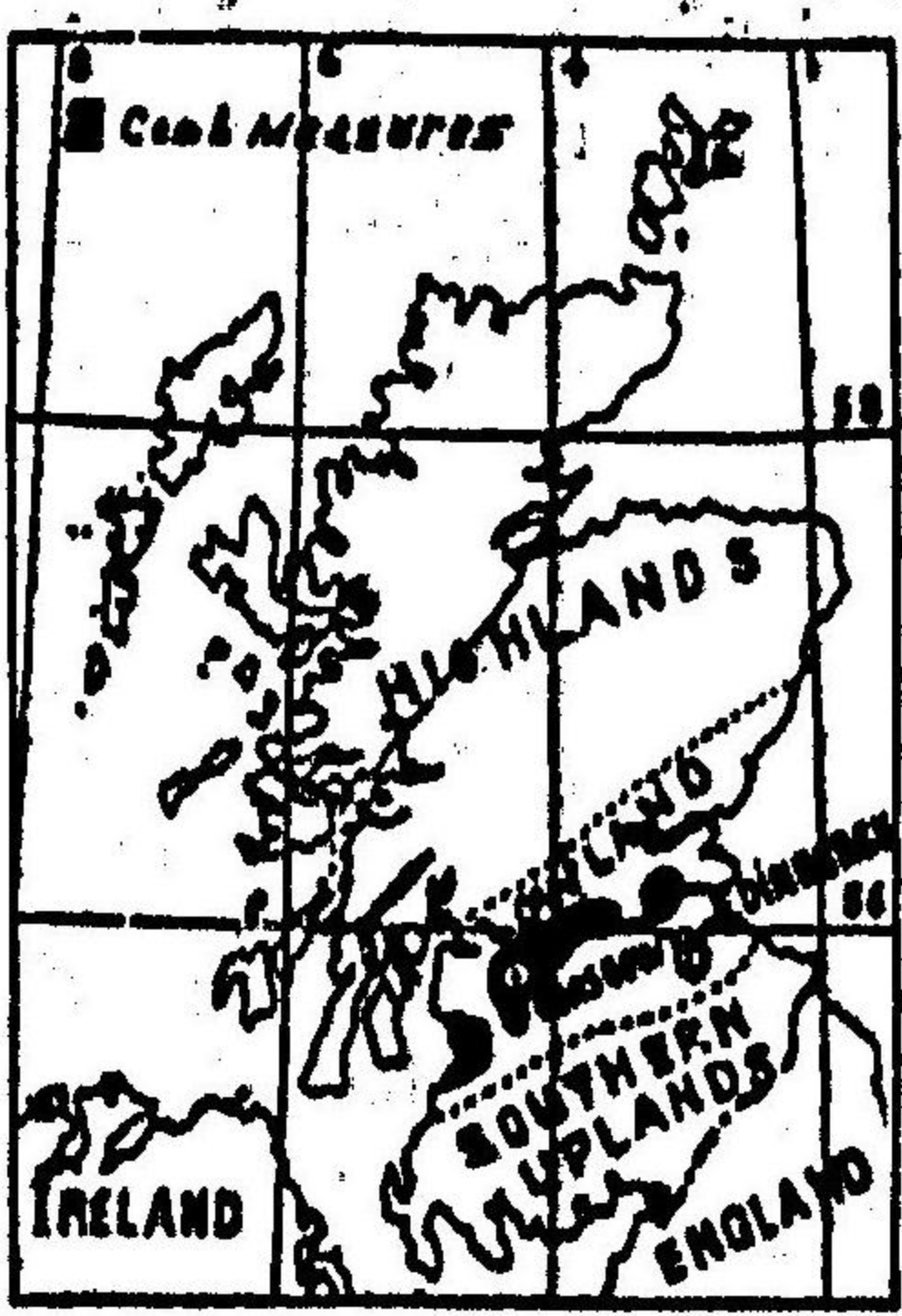
〔坪内氏「英
文書」〕

スコットランド (SCOTLAND)

スコットは其の生國スコットランドの盛飾たり。蘇國人の諸氣質は、
 残る所なく其の筆に寫されしんぬ。其の節儉や忍耐や其の狡猾や、
 其の貧乏や其の生活に愁ならざる風土氣候や其の奇事や其の史跡
 や昔彼れが如意の筆に上りて廣く世界に傳へられき。實にスコット
 ランドはスコットの詩文の土なりき。

詩人スコットの生れたスコットランドはいかなる處であるか。オランダ
 丘地によりてイングランドに界してをる此の國は大部崎嶇たる山地
 や寂しい野原で處々に静かな山間湖が湛へてをる。此處の風物のイ
 ングランドに紹介されたのは實に十七世紀即ち今から三百年以前の
 貴かのドクター・ジョンソンが巡遊して書らした報告でたま〜イザ
 DOCTOR JOHNSON

リス人の輕騎を招ぐにすぎなかつた。されどこの北國の天才スコット
 の出づるに及んで山地も湖水も光輝を増した寂しい野原も騎兵の戰
 士の語で賑かになつた。彼れの小説によれば谷も峠も昔はイヤリス
 人とスコットランド人との交戦地であつたといふ。さればスコットラン
 ドはスコットによりて開拓されたといふ
 べきて是等の昔話によつて今は人なき
 山里もそよりに鐘を削る音の響る
 の斯く心地がする。



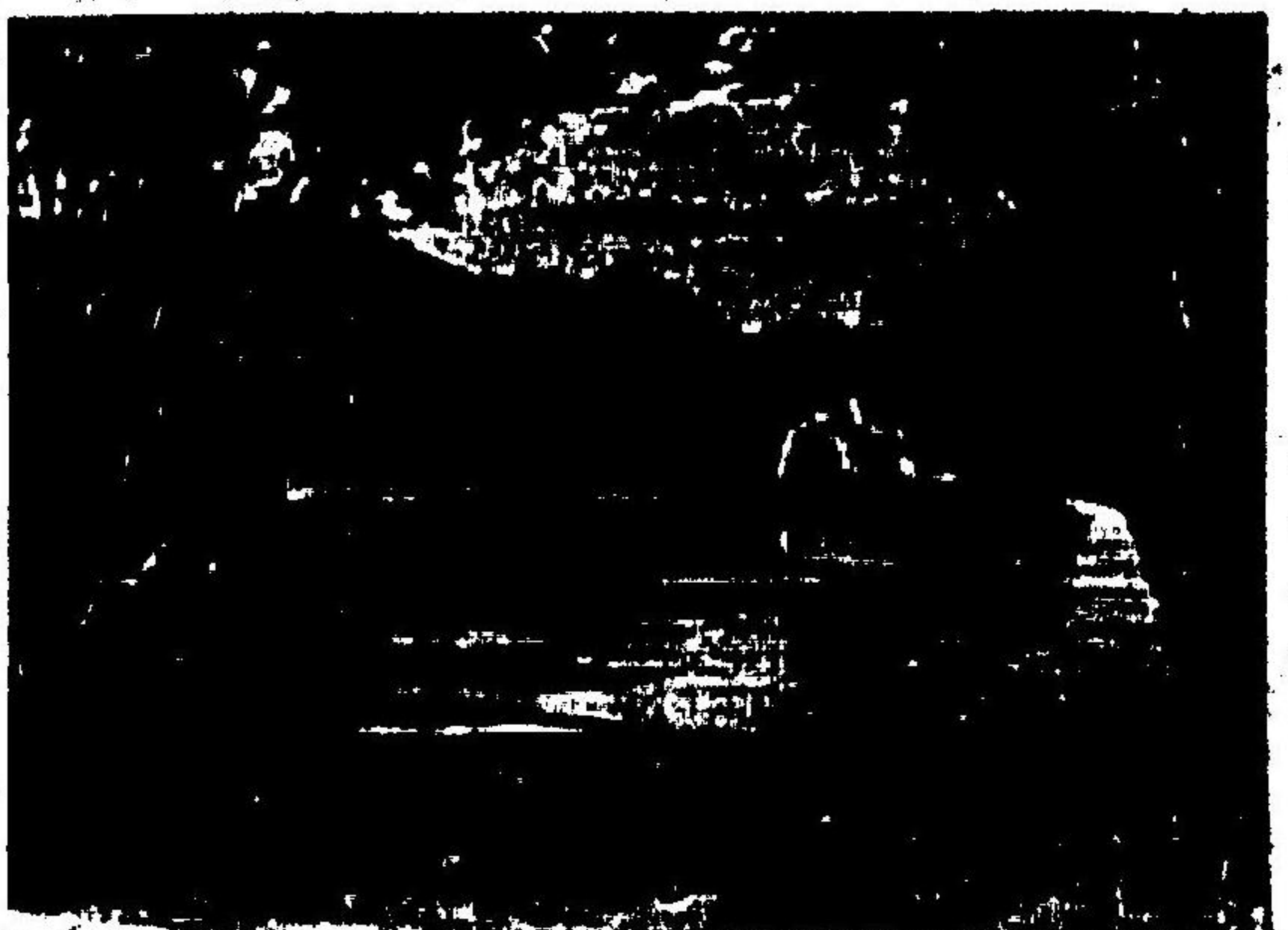
ふのは北半の事て南半はローランドとアップランドとである。これは
 たゞ地勢上の區別ばかりでない人種も北にはハイランド人といはれ
 HIGHLANDS
 LOWLANDS
 UPLANDS

てをるケルトの一派がより南にはテントンTESTONの一派が住んでゐた。此の南北の二地方は西岸のグラスゴウGLASGOWから東岸のストーンハーヴェンSTONEHAVENに連する一線によりて分るので、主なる谷も灣入もこの一線とほぼ平行してゐるのは、地質構造の關係からてもしるゝ事である。有名なカレドニア運河もこの方向に走つた自然の深谿を利用して、ネス湖や其の他の小湖を連絡したものの南口はフォートウィリアムFORT WILLIAM北口はインヴァーネスINVERNESSである。

海岸は東と西と全く趣を異にしてをる。東岸は出入少なく傾斜緩かて到る處田野開け彼方此方に都會や村落が散らばつてをるが、西岸は險巖立ちならびて狭長なる灣入多く急流の叫き瀑布の激きを海岸で聞く事が稀れてない。従つて都會も多くなく、雲を穿す奇峯と奇峯を浮べたやうな島嶼とは、寧ろ西海岸の特色といつて可い。

北スコットランド

ハイランズにはもと牛羊を牧したり又獸獵などを事とする人民が、Highlanders かつてそれがいくらかの氏族に分れてゐた。其の氏族が一族各何千といふ多數で、度々日本の昔の源氏平家の一族といつたやうなもの。氏の長者といふやうな會長は平時は勿論他族との戦争ある時などは指揮命令をするのである。その一族にそれ／＼校所や職權などがまつてゐるのも、恰も鎮平と同じ事である。是等の會長は各自大きな城郭をもつてをり、そこに家も守備してをる。會長の子孫は代々世襲であるので、之に附屬する一族は、あとには小作人といふ風になつた。その後會長が牧畜などをしてゐるよりも、其の土地を獵場とした方が利益だといふので、憚りな小作人を逐出し、時には歸る事の出来ぬやうに蓋



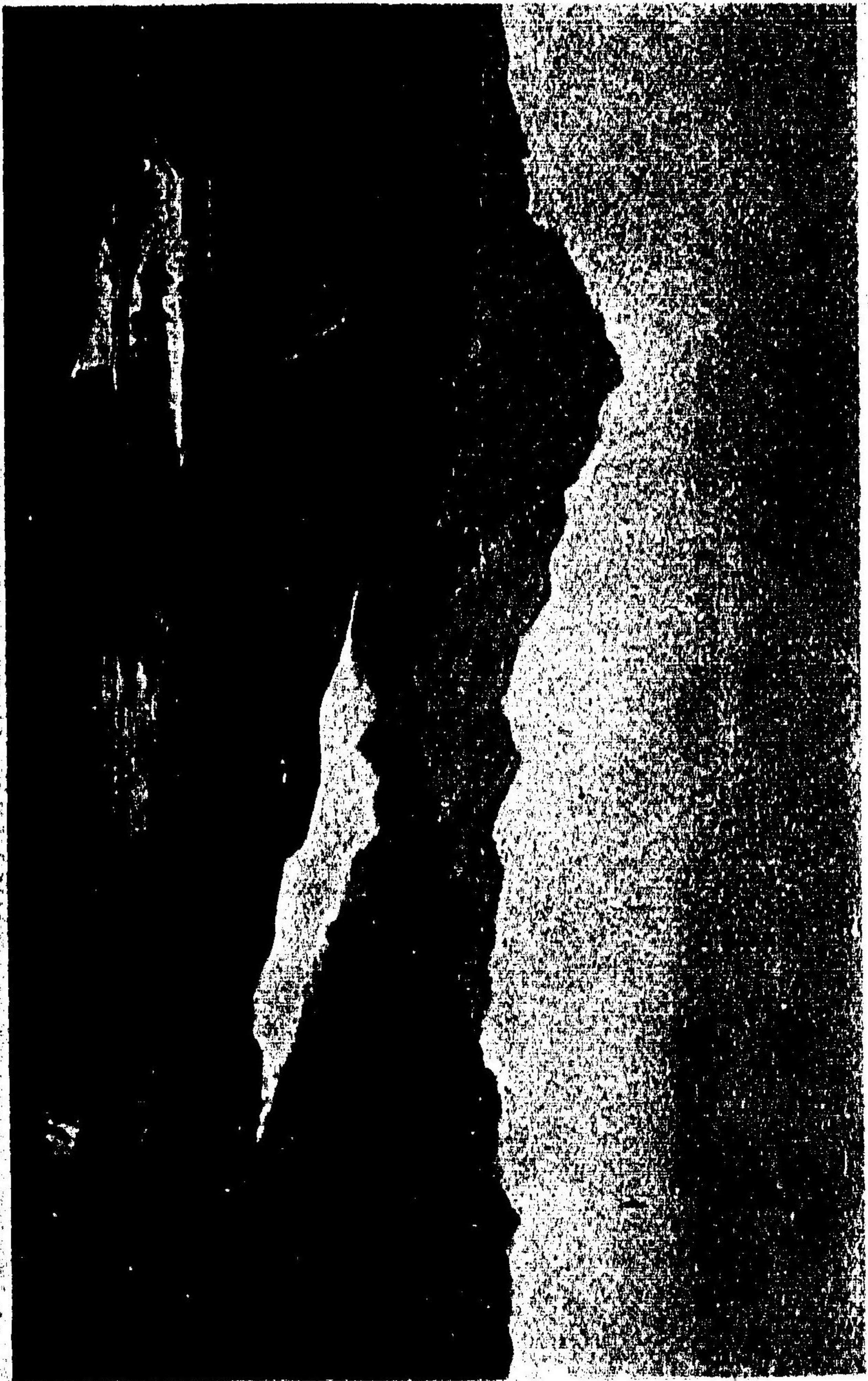
ナザールランドの如きは其の所有地からの漁獲貨が二十五萬弗餘に

の住家までやき切つた事もある。此の湖は海面上三百六十四呎の高處に位置し、最西四百六十八呎に達す。四層には地層相持ちて湖樹叢、風は湖國の好地也。湖底はスコットランドのナザールランドの如きは其の所有地からの漁獲貨が二十五萬弗餘に

の住家までやき切つた事もある。此の湖は海面上三百六十四呎の高處に位置し、最西四百六十八呎に達す。四層には地層相持ちて湖樹叢、風は湖國の好地也。湖底はスコットランドのナザールランドの如きは其の所有地からの漁獲貨が二十五萬弗餘に

上るといふ。かくて昔から此處にをるハイランド人は今は一疋の鹿を殺しても鳥や鼠を係蹄で取つてもすぐ罰されるやうな氣の毒な境涯となつた。是等の獵場は到る處自然の美觀に富んでをるが、スコット地方のロホロロンドやロホカトリンなどの湖水附近は殊にい、湖水の附近には小高い山地が続いてをるが、湖中にも處々に小さい島があつて其の上には松など生えてをる。春にはロリスなどの灌木が時を得顔に咲き亂れ、北方にはベンアンの高山が、巨人の如く聳つて見える。スコットの「湖上の佳人」で知られたエレン島は、ロホカトリンの南端にある一小島で、エレンとは即ち此の小説の主人公の名に、流されたアイルランドウグラスといふ人の女である。此の小説には此の附近の自然が實に遺憾なく描寫されてをる。

エレンは麗容温雅な乙女で、いつでもロホカトリンに帰して、ベンア



第一ノ山ノ景

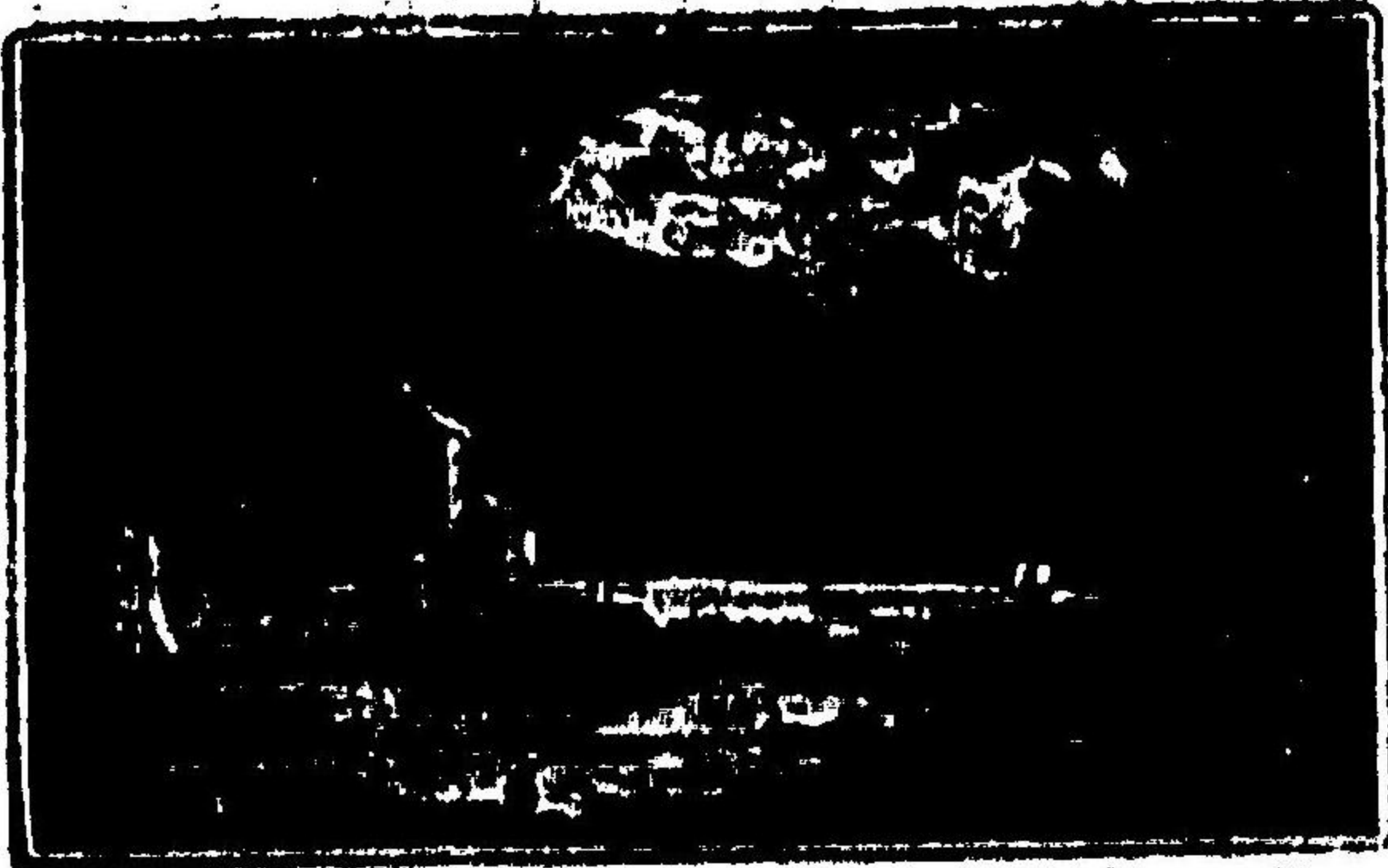
ンやペンヴェルムの峻々たる翠影を眺むる事を樂みにしてをつた。緑潤る丘陵や藍を流した山々が上る朝日に輝く壯觀と暮れゆく黄昏に湖水の色の變ゆく有機には、いづれ劣らぬ觀賞の情にうたれてをる。雄々しきペンアンの嶺をやどす湖畔には、風のまに／＼水の面を掃ふ糸柳が立つてをり、湖畔の山麓には白楊や赤楊が葉つて段々上るに従つて樅から松と變つてゆく。樹の間にはヒースの花さき亂れてる。葉の敷々が眺められる。變えたるそして岩ばかりの山麓には時々白雪の掠めゆくを見る事もあるが、其の岩が根に葉の立ちとまつてる事も珍らしくはない。日光も通はぬ谷間にさきさるよ花も、中天に樂びのぼる雲雀も樹の間に啼づる鳥も、よく湖邊に眺められる風景で湖上の住人エレン娘は是等の自然のなかに生活してをつたといふ。是等の自然は悉くスコットの此の名詩の題目となつてをる。さればこの詩



湖 - レクナアと山 - ニウダ

二六
ンやメンツニの岬々たる翠影を眺むる事を樂みにしてをつた。緑滴
る丘陵や藍を流した山々が上る朝日に輝く壯觀と暮れゆく黄昏に湖
水の色の變ゆく有様とには、いづれ劣らぬ觀賞の情にうたれてをる。
雄々しきベンアンの嶺をやどす湖畔には風のまに／＼水の面を掃ふ
糸柳が立つてをり湖畔の山麓には白楊や赤楊が繁つて段々上るに従
つて樅から松と變つてゆく。樹の間にはヒースの花さき亂れてる巖
の数々が眺められる。霧をたるとして岩ばかりの山嶺には時々白雲
の掠めゆくのを見る事もあるが其の岩が根に驚の立ちとまつてる事
も珍らしくはない。日光も通はぬ谷間にさきそるふ花も中天に飛び
のぼる雲雀も樹の間に囀づる鳥もよく湖邊に眺められる風景で湖上
の佳人エレン嬢は是等の自然のなかに生活してをつたといふ。是等の
の自然は悉くスコットの此の名詩の題目となつてをる。さればこの詩

はトロサック附近の唯一最良の案内記といつてもよからう。
 ハンニウィスの月夜



ものである

英國の最高山なれども、高さ四千四百六呎にすぎず。其の山嶺の闊やかなるは、我が國の高山に似もやらず。これ古き岩石がながく水蝕をうけたる遺物なり。山上の觀望所は、二十四年前の越駈にかゝり、又登山者の休憩所なり。

トロサック附近を除けば、スコットランドは大概淋しいはてしなき曠野で、これを飾るものは春は紅色の花さく灌木ヒースと、秋には黄金色を眩ふ丈高いブロームとばかりである。スコットランド人が「吾もし一年でもヒースを見なかつたら必ず死ぬてあらう」とは、是等の淋しい地方に住んでをる農夫や羊飼ひの體れでも持つてる感情をよくいひあらはし

北スコットランドの風景は、西海岸の島嶼によつて一段の光彩を添へる。
西方には遠くリース島を始めとし、大小四百九十餘から出来てをる。
ブリテン群島散點し、其の東方には近くスカイ、ムル等の諸島がある。
是等の諸島が夕陽に臨んで、紫、綠、青、紅、深紅等の色彩を現するの景
も偉觀である。ムル島の西方にあるアイオーナ、スタヴァの二小島は、最
も奇もしろき處、アイオーナにあるセントコロムバ寺は、小さいけれど
も、其の彫刻が實に逸品、これは六世紀頃にアイルランドから來た牧師
コロムバによりて建てられたので、周圍の石壁などは、一面小奇麗な黄
色な花さく蘆草にからまれてをる。又スタヴァ島には有名なフィンガ
ル洞があつて、それが高さ六十呎に巾三十呎、深さは二百呎といはれて
をる。小舟に棹して奥にすくめば、波浪の浸蝕にやせ風や雨に曬され
た岩石は、丸で古い寺院の柱のやうに立川んで、とつては光暗き海水は、

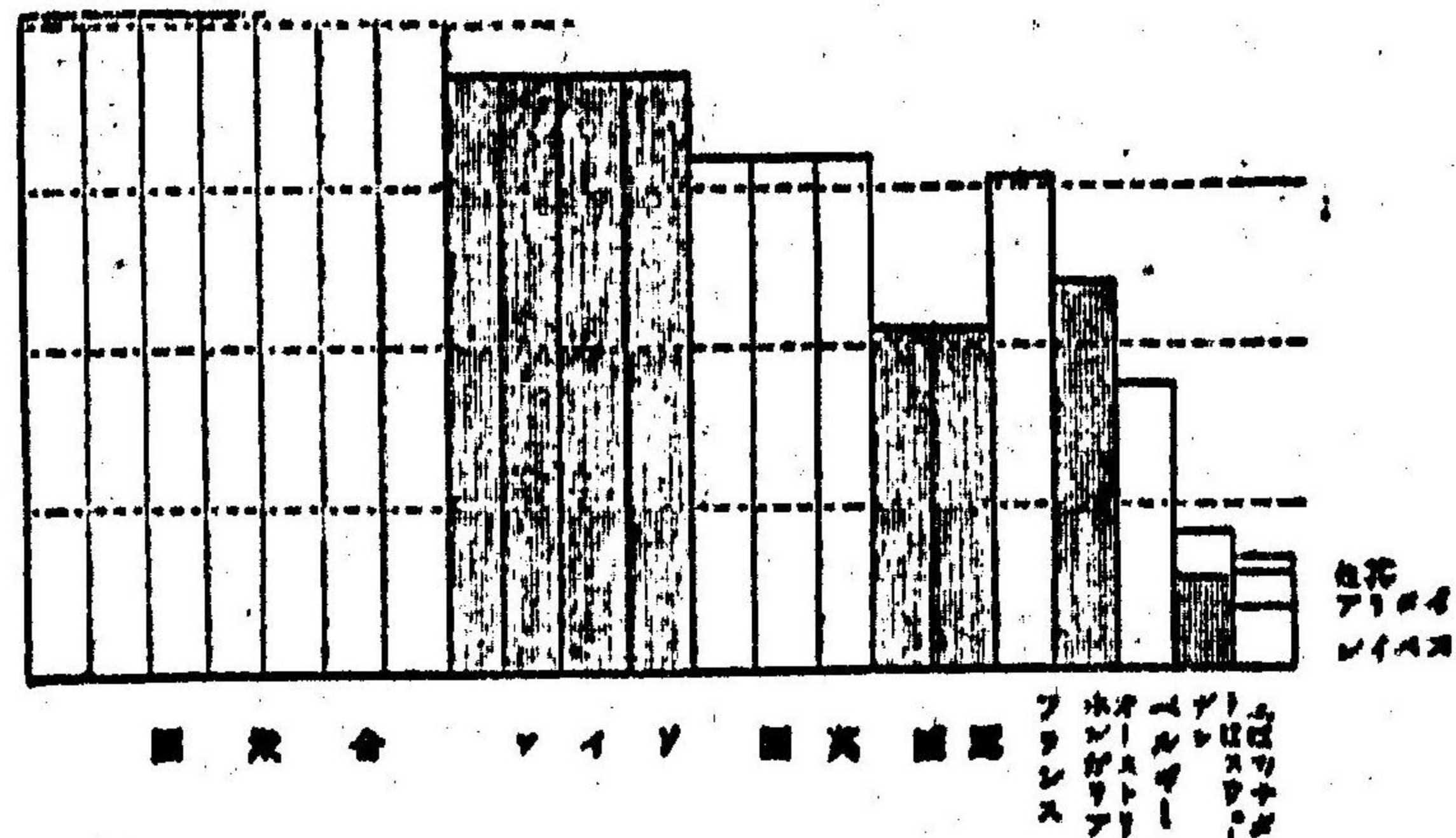
何ともいへない凄い色を帯びてをる。まして奥の方からは怒濤の反響が物凄く響いて來る。

南スコットランド

南スコットランドの大部を占めてゐるローランド(低地)は、かのハイラ
シツが自然的的なるに反して著しく人工的實際的である。従つて
ローランドはスコットランドの重要部で、石炭や鐵の産出多きがために、
工業甚だ盛大、かの京都のやうなエジンバラや大阪のやうなグラス
ゴウを始めとして、都會の分布多く、國內人口の大部は此處に集つてをる。
鐵道の敷設も期如く、西岸のグライド岬から東岸のフォース灣間は
は、運河さへ開鑿されてある。
グライド岬はグライド河岸にあつて、市況の盛大なる南スコットランド

南スコットランド

世界製鐵輸出比較圖



際カナダ及合衆國に輸出する位。鐵道汽車の製造亦英國第一に位し、其の使役人員は全國の製造所員の總員より多い。百年以前には人口八萬三千餘のものが今は八十四萬八千餘の大都會となつたのも當然である。グラスゴ―大學のある處は市の北西の小高い丘で此處に在れば殆ど市の大部を見下す事が出来、殊にクライド河岸の船渠などは、手にとるやうに見える。市内には電氣鐵道が四通八達して賃金の廉い事は世界一。これは市營のためて瓦斯や渡船は勿論

第一で、全くグラスゴ―がクライドを作り、クライドがグラスゴ―を作つたといふ話の通り、クライド河の渡渉が今日此の盛大の大原因となつたのである。橋を造つて此處を涉つた人が今でも生きてゐるのにも、三千噸位の舟が市の真中にはいる事が出来るやうになつた。河岸には大きな船渠が深山ならんてを、陸上には煙突が林のやうに立つてゐる。市街の點燈などは、パリやベルリンの大都會ですら、大抵ばかりだのに、此處は横町まで燈々たるものだ。又水道は、かのロカカトリンから引いたものだからな。此處では造船業と製鐵業とが最も盛んで、英國汽船總數の三分の二は此處から造られたものだといふ。一昨年一年間に過水したものは三百七十二隻、其の噸數は五十九萬八千八百四十一噸、かくてリヴァークライドは、依然として世界最大の造船所たる位地にある。又英國第一に位するスコッチ鐵道は、本國の外國洲大

音楽堂まで市營である。其の外洗濯場も公設され労働者の貸屋も出
來てる位。こんな風だから此の市は人民保護の開闢といはれてをる。
中央のジョージア廣場には宗教家として有名なるジョンバクや大小説
家フータースコットや蒸汽機關の父ジェームスワットの彫像などが立つて
ゐて遊客の必ず杖を曳くべき處。又グラスゴーに遊ぶものは必ず其
の南方のアア港に行つてスコットランドの農民詩人ロバートバーレンス
の生地を訪ぬものはない彼れの生家はこの小港の南一里許の片田舎
アロウニーにある。彼は貧しき農家に生れ自から勤をこつて耕して家
計を賣けてゐた。一時は西インドに出稼しようとして思ひ立つた事
もある。こんな境遇に生長した彼は常に弱いもの賤しいものに同情
し溪流野花までも詩化したのである。彼の句に如何なる有機にあり
とも人は人なりとはよく其の人となりを表してをる。従つて彼はス

コトランド人のハートとも渴仰されグラスゴーにある彼の記念碑の
建築費は貧民の寄附から出來たとは床しい話ではないか。
エジンバラは人口三十四萬五千餘でグラスゴーに次ぐ大都會其の
位置東部のフリス海岸の小平野にある。風光明媚なると共に市街も
壯麗夙に自然と人との調和を以て稱せられてゐる。一たび市中の城
に登つてこの美しき風物に接するものは此處を近世のアゼンヌとよ
ぶ。此の都府を誇とする市民は單に天然の風光の類似のみならず文
化の上にもアゼンヌたらんと努めてをる。有名なるエジンバラ大學
を始とし學校其の他の教育機關も發達し出版事業などはロンドンに
次ぐさうだ。人も知る如くギリシアのアゼンヌの目標はパーセノン
丘であるが當市民はこれに比すべきフーターローの戦死者紀念碑を
建てつゝある。しかしパーセノンの如く人の威典をひくものは寧ろ



城ラマンテニるた見りよ方東

かのエダンバラ城で紀元六百十七年の築造である。三百五十呎の丘上に巍然たるこの城壁は常に眺望の廣闊外觀の壯大なるばかりでなく、實にスコットランドの史的大紀念物である。スコットランド最後の女王「クイーン マリー」までの居城で、その子の「ジェームズ七世」はここに生れたのだ。この皇子については殆ど傳奇的な語がある。といふのはこの城の地勢は東方に一條の坂路があつて他の三方は急な崖。皇子は丁度前方崖

上の一室に生れた。然も時は大騷亂の最中、敵多き彼の母は、いかにもして愛兒の一命を救はんと之を籠に入れて城から崖下に用下し

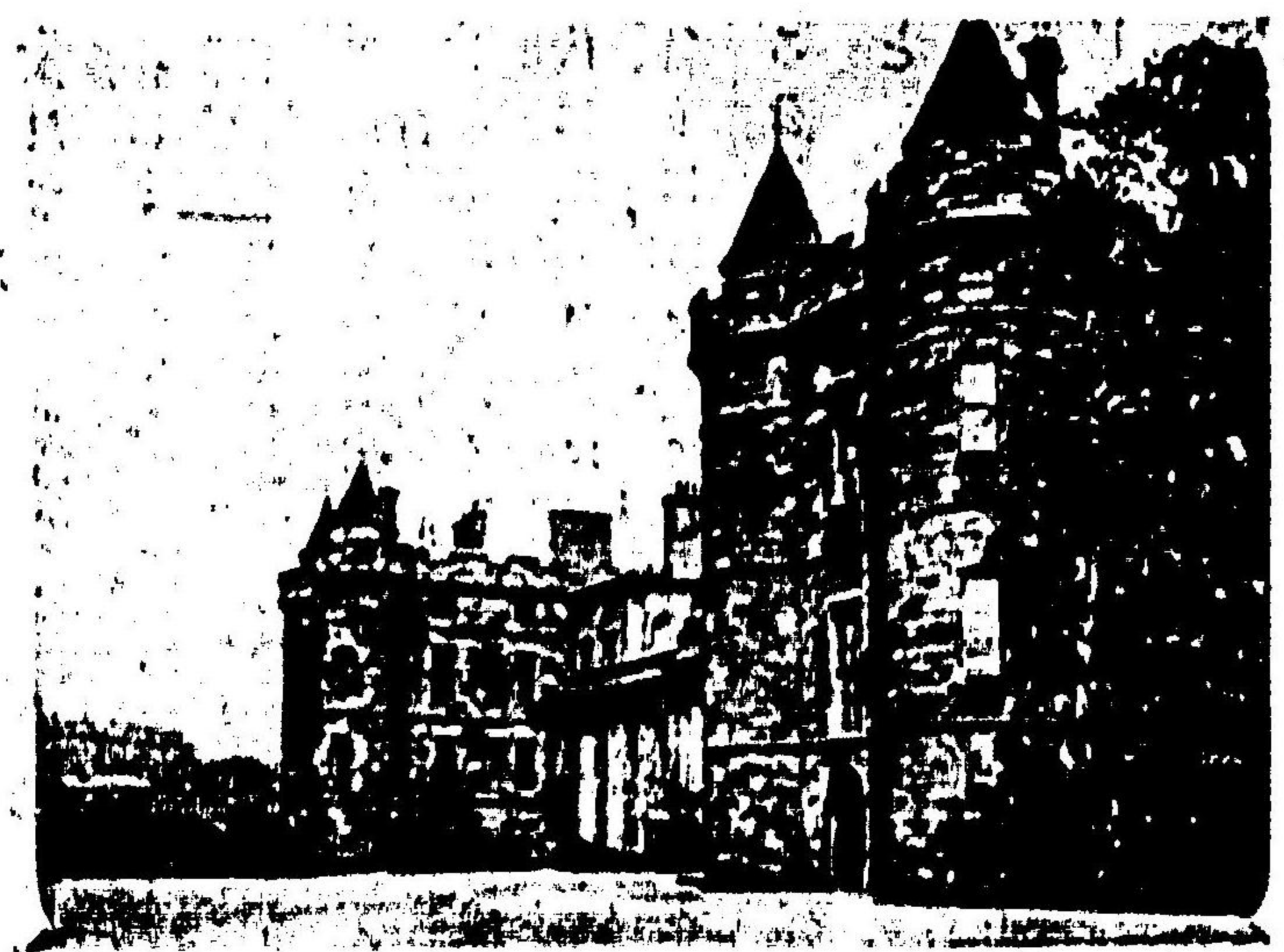


人地西

たといふ。もしもこの繩が中途で切れたならば母の苦計も單に一篇の逸話に止まつたであらう。スチュアート王家の血統も傳はらなかつたであらう。そして英國史

の鮮豔も大變遷つたであらう。思へば不思議な、そして意味ある語ではないか。城のなかには九百年前の建築もあるが城内の遺跡極めて多く、覆道や地下道なども設けられてある。常に觀覽者の案内せらるゝは歴代の王の居間である。又此の城で誰れの目にもとまるものはここに駐在する兵士の服裝だ。肩には辨慶縞の袖衣をかけ、腰には膝

まての袴をつけ帯には妙な革褌をさげてゐる。帽子も一風変わった様
 をリボンでとめた頭巾風のもの。城壁の附近に徘徊する彼等を見れ
 ば、全く一帯の歴史書に對するやうな氣がする。これはもとハイラン
 ド人普通の服裝であつたさうだが今は兵士のみに限られてゐる。ハ
 イランド人即ち高地人は今はイングリランドやアイルランドの最良の
 兵士として知られてゐる。城の取方にあるホーレンホルド宮は四角形
 の頑丈な石造で即ちマーレー・ストリートMARK STREETの故宅。彼の女は驕麗人を
 迷はす美貌を備へ變化無き生涯を最終に地獄の席を消えた。
 彼の女に關する史論は股髀紛々容顏の美なるが如く心憎まざり
 といふものが多いが麗容は全く大膽不敵人を囁す性格の假面だとも
 いふ。彼の女の二度目の夫ダインレー侯DARNEYと同棲したこの宮の大部は
 今は殆ど荒廢してゐるが、マーレー女王の應接室や寢室などは、そのま



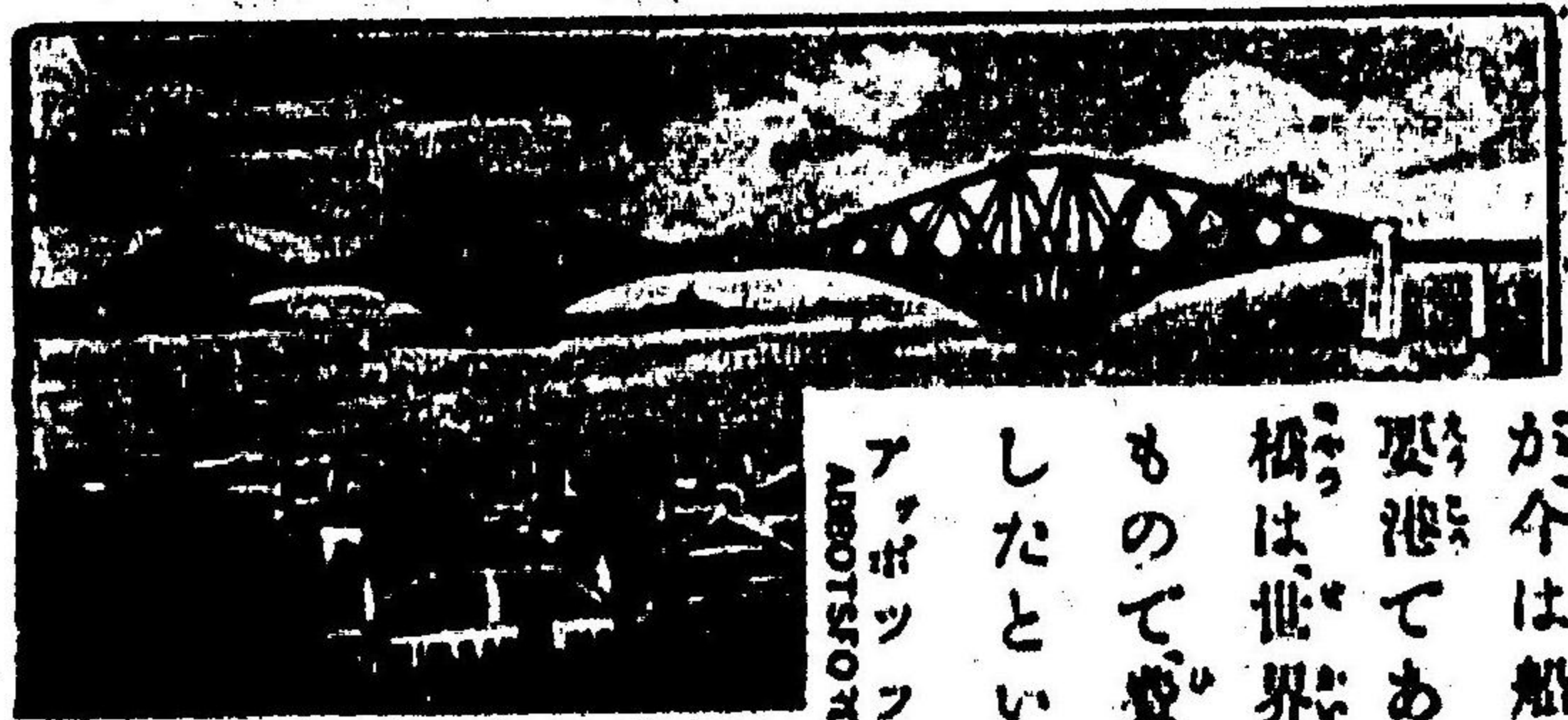
宮ト、ルレーホるたれば城にト、コス

残つて居る。それは天非は格
 子形壁は彫刻を施した奇麗な大
 廣間である。四方にゆるゆるの
 コートをかけてあるが一方の一
 段高い處には浮橋様の天窓を
 かけた幾層がある。かのクロー
 ンの戦争前までは彼の女の二子
 チャールズ一世と若きプレラン
 ダーとはここに起臥してゐた
 のだ。女王の寢室は小さいが壁
 にはフランス製の帷帳を掛けて
 あるが窓掛や夜具などは裂けや

ぶれて色もさめてをる。室の一隅には仕かけた織物など其の儘に保
 存されてある。是等の遺物に接するものはかの英はしき女王の榮枯
 盛衰定めなき生涯の追憶に限りなき感慨を起すてあらう。これと好
 對照ともいふべき詩人スコットの記念碑は市の中央プリンスゲイザン
 に建られて永く國民の崇拜と感化との中心となつてをる。又此の園
 内には、アフリカ探検で有名な宣教師リヴェンゲストン氏の銅像もある
 終りに吾々はなぜ此處にエデンバラが出來たかといふ事を一言せざ
 るを得ない。即ち今のエデンバラ城の基礎たる山塊が往時戰國の習
 とて要害の地勢を占めてをつたからてそれが城が出來町も出來るや
 うになつた原因である。丁度日本の封建時代の城下の出來たのと同
 じてあらう。

リス港 はエデンバラ市の門口である。昔はほんの漁村であつた

橋スーワあるた見りと港スーワ



が今は船渠もあり波止場もあつて人口八萬三千餘の
 要港である。この西方の湖口に架つてをるフォーリス
 橋は世界四大橋の一ださうだが七年を費して出來た
 もので費用は實に一千九百萬弗銀は五萬四千噸を費
 したといふ。橋上より海上の眺望は實に壯觀である。
 アボツソグワード はエデンバラの西南に位し此處には
 時勢スコットの故宅とその菩提寺たるドライ
 バラ寺とがある。其の故宅は實に壯大なも
 ので圖書室や書室や武庫などには氏の遺物
 及び種々珍らしい歴史的骨董品を陳列し氏
 の平常用いた机及椅子もアイヴンホールやケ
 ンズワースやセアボットなどいふ小説をか
 いた

トリス及び其の邸宅



た。氏はかくして朴訥な農民の性格を研究したであらう。

一四〇

た参考書なども其の儘に保存されてある。最も人目をひくのはその武庫で、世の武士的生活に非常な興味を持つてをつた彼は各時代の武器を蒐集し、なかにはナポレオンのピストルなどもある。晩年まで着てをつたといふ衣服を見るに、實に質素な生活をしてをつたらしい。散歩好なる氏は晴れた日は朝早く犬を従へて、風致に富んでるツウ、ードの谷間をぶら／＼するのであるが、嵐々路に出逢ふ百姓と話して時を費した事もあつた。

アイerland (IRELAND)

雨と泥炭

此の島の形は盆のやうに周囲が高く、真中が低い。低い處は湖や沼などの多い濕地である。位置は我が千島の北方や露領カムチンカ半島と同緯度であるが、メキシコ灣流に洗はれてるので暖かて雨多く、イングランドの雨は夜スコットランドの雨は晝だが、アイerlandのは晝でも夜でもふるといふ謎がある位である。従て植物の生育が盛んで、燐玉島の名空しからずである。沼澤の多い此の國での物産は泥炭で、其の主産地は中部の西岸のリメリックから東岸のダブリンまでに廣がり、實に全面積の七分一を占めてるとは驚くべきものである。中部地方を旅行する人は數多の男が泥炭を堀出して煉瓦形に切つて于

アイerland

一四一



し女は乾いたものを大きな籠に入れて、
 運んでゐるのを見るであらう。此の島
 では概ね之を燃料としてゐるが此の成
 因を調べて見ると面白い。
 此の地方は大きな樹の森林であつた
 が其の幹や枝には苔や其の他の草木が
 生え其の根が段々樹の木の髄のなかに
 這入りこんで養分を吸収する終には樹
 は枯れて倒れて仕舞ふ。それからいろ
 くの植物が生えたがみんなこんな風
 になつて枯れて了つてそれが積りて今
 の泥炭。だから層の深さは二十五呎か

ら四十呎にも達してゐる。層にいろくの色のあつたのは植物の種類
 が違ふからで、一番上は薄い灰色其の下三十呎内外の處は黒ともいひ
 たいほどの藍色で、まあ石炭ともいふべきもの。これが今二三百年も
 立つたら石炭になつたに違ひない。これを燃すと薪のやうに高い煙
 が出ないが青白い煙を出して熱度が随分烈しい。掘出す時は成るべ
 く柔かな處を選んでやるのであるが中からは樹や根の丸木や枝など
 の出る事もある。掘つたあとに穴には時々水が溜つてゐて、それが煤
 のやうに濁つてゐるから深い處とはわからず落ち込んで危険にあふ事
 もあるさうな。
 そんな沼澤地を排水するとそこが肥沃な畑地になるので中部の沼澤
 地ではよく排水法をやる。中部地方が丸て花園のやうに耕作されて、
 旅行家の目を鮮かにする光景は全く是等の賜で首府ゲズリンもこの